

選択的評価事項に係る評価

自己評価書

平成25年6月

久留米工業高等専門学校

目 次

I	高等専門学校の現況及び特徴	1
II	目的	2
III	選択的評価事項A 研究活動の状況	4
IV	選択的評価事項B 正規課程の学生以外に対する教育サービスの状況	50

I 高等専門学校の現況及び特徴

1 現況

(1) 高等専門学校名

久留米工業高等専門学校

(2) 所在地

福岡県久留米市

(3) 学科等構成

学 科：機械工学科、電気電子工学科、制御情報工学科、生物応用化学科、材料工学科

専攻科：機械・電気システム工学専攻、物質工学専攻

(4) 学生数及び教員数（平成25年5月1日現在）

学生数：準学士課程 1,070人

専攻科課程 67人

専任教職員数：教員 79人（校長含む）

職員 43人

2 特徴

久留米工業高等専門学校（以下「本校」という。）は、旧制久留米高等工業学校（昭和14年設置、昭和19年久留米工業専門学校に改称）に淵源を發しており、筑後川のほとりの自然環境豊かな10万㎡（約3万坪）のキャンパスを有している。昭和26年の久留米工業専門学校の閉校にともない、九州大学教養部第二分校（昭和24年設置、昭和30年廃止）と九州大学生産科学研究所（昭和24年附置、昭和34年移転）が併設された。その後、我が国経済の高度成長に伴う産業界の強い要望を受け、久留米工業短期大学（昭和33年設立、昭和41年閉学）と久留米工業短期大学附属工業高等学校（昭和36年設立、昭和39年廃止）が併設され、現在の工業高等専門学校（昭和37年第1期校設立。以下「高専」という。）のモデルとなった。さらに、昭和39年4月の本校設立と同時に、久留米工業短期大学附属工業高等学校の在校生が2～4年生に転入し、全国高専に先駆けて卒業生を輩出することとなった。すなわち、旧制を含めた73年の歴史をもっているのが本校の特徴の一つである。旧制久留米高等工業学校設立当初からの卒業生は12,000名を超え、産業界の多業種各部門の中核の技術者として活躍している。

平成5年には専攻科が設置され、学位授与機構に申請することにより工学士の称号得ることができるようになった。また、平成16年には、全国国立高専が独立行政法人国立高等専門学校機構として束ねられ、スケールメリットを

生かした運営ができるようになった。

本校の教育理念は、「自立の精神と創造性に富み、広い視野と豊かな心を兼ね備えた、社会に貢献できる技術者の育成」である。この教育理念のもと、「工学の基礎学力を育成する」、「創造性を育成する」及び「技術者としての素養と自立を養う」の3点が本校の教育の柱となっている。すなわち、工学の基礎学力の育成と質の高い専門教育に力を入れており、低学年のうちから実験・実習を課し、技術の実際に触れることにより、技術の本質を理解し、創造性を育む教育を行っている。さらに、一般教養科目によって広い視野と豊かな心を兼ね備えた技術者となるための素養を涵養している。また、準学士課程での短期インターンシップや工場見学旅行、専攻科課程における2～4ヶ月にわたる専攻科インターンシップを実施し、技術者になるための動機付けを行っている。また、専攻科課程においては、産業デザイン演習や創造工学実験などの技術者としての素養や創造性を伸ばす教育がなされている。

一方で、本校では他高専と比して学生の自主性を尊重した教育を行っている。高専祭、音楽祭などの学校行事は学生会と学校側との話し合いを経て運営されている。また、体育、文化並びに技術活動などのクラブ活動にも力を入れており、これまでラクビー、水泳などのスポーツ活動やロボットコンテスト、プログラミングコンテスト、ソーラーボート大会、あるいは英語スピーチコンテストなどの大会において輝かしい成果を上げ、学生の人格の陶冶の一助となっている。

また、本校では、「現代的教育ニーズ取組支援プログラム」として平成19年度より3年間、「産学民連携共同教育による実践的技術者育成」に採択され、また「質の高い大学教育推進プログラム」として平成20年度より3年間、「CIMSを活用した機械要素教育と産学連携」に採択され取り組みを実施し、協働教育、デジタルエンジニアリング教育を通じた産学連携を進めている。

さらに、平成12年に産学民連携推進センター（平成22年産学民テクノセンターに改称）を設立し、「地域社会への貢献」の一環として、地域産業の技術開発や技術教育の振興を図っている。平成24年9月には、その外部支援組織として産学民連携推進会「テクノネット久留米」を設立し、共同研究を中心とした産学連携事業にも積極的に取り組んでいる。

Ⅱ 目的

久留米工業高等専門学校の使命

本校は、教育基本法 の精神にのっとり、及び学校教育法に基づいて、工業に関する専門教育を受け、産業の興隆及び文化の発展に貢献しうる学力と知識を兼ね備えた技術者を育成することを使命とする。また、専攻科課程においては、高等専門学校における教育の基礎の上に、精深な程度において工業に関する高度な専門的知識及び技術を教授し、もって広く産業の発展に寄与する人材を育成することを使命とする。

1. 教育理念

「自立の精神と創造性に富み、広い視野と豊かな心を兼ね備えた、社会に貢献できる技術者の育成」

2. 準学士課程

教育目的：(1) 自立の精神と創造性に富み (2) 広い視野と豊かな心を兼ね備え
(3) 社会に貢献できる 実践的、創造的技術者を育成する。

教育目標：(1) 広い視野と豊かな心の涵養 (2) 数学、自然科学、情報処理に関する基礎能力の育成
(3) 専門に関する基礎知識と技術の修得 (4) 問題を分析し、解決する能力の育成
(5) 自ら学び、工夫する能力の育成 (6) コミュニケーション能力の育成

3. 専攻科課程

教育目的：(1) 先端技術及び高度情報化に対応でき (2) 創造的研究開発能力を持ち
(3) 国際化に対応できる 実践的、創造的技術者を育成する。

教育目標：各学科に対応したJABEE技術者教育プログラムの学習・教育目標とする。

4. 学科ごとの教育目的・目標

本校では上記の教育理念、教育目的を具現化するために、以下に掲げる学科ごとに独自の教育目的・目標を定める。

機械工学科

教育目的：ものづくりの精神を基本とし、機械技術者としての基礎能力や専門技術を修得し、
創造性豊かで国際的視野に立った実践的技術者を育成します。

教育目標：機械技術者としての素養を備え、

- ・材料強度 ・機械力学 ・設計製図・生産加工 ・制御、情報 ・熱、流体
- ・機械工学に関連した周辺技術

の基礎的な知識、技術を修得し、それらを活用できる能力を養成します。

電気電子工学科

教育目的：先端技術であるエレクトロニクスとICT、およびこれらを支える電気エネルギーの専門知識
を修得し、高度情報通信社会に貢献できる実践的、創造的電気電子技術者を育成します。

教育目標：電気電子技術者としての素養を備え、

- ・エレクトロニクス ・情報通信技術(ICT) ・電気エネルギー、パワーエレクトロニクス
- ・電気電子工学に関連した周辺技術

に関する専門知識と技術を修得し、それらを総合的に活用できる能力を養成します。

制御情報工学科

教育目的：制御、情報を中心とした幅広い専門知識を修得し、広い視野と豊かな創造性を備え、さまざまな産業分野において活躍できる実践的能力に優れた技術者を育成します。

教育目標：メカトロニクスや情報の分野で活躍できる技術者になるために必要な、

- ・メカトロニクス、コンピューター制御
- ・情報工学、通信ネットワーク
- ・制御情報工学に関連した周辺技術

の基礎的な知識、技術を修得し、それらを活用できる能力を養成します。

生物応用化学科

教育目的：化学工業、バイオ工業に必要な基礎・専門知識および技術者素養を修得し、個別の知識を複合化して使いこなし、社会に貢献できる実践的・創造的技術者を育成します。

教育目標：化学工業、バイオ工業に必要な専門知識、豊富な実験技術を修得し、環境に配慮し、技術者倫理を守って、それらを課題解決および企画立案に活用できる能力を養成します。

- (両コース共通)・化学、生物の基礎
- ・化学工学、環境工学
- ・情報リテラシー
- ・技術者素養
- (応用化学コース)・有機化学、高分子化学
- ・ポリマー工学
- ・機能性有機材料
- (生物化学コース)・生物有機化学
- ・バイオプロセス工学
- ・遺伝子細胞工学

材料工学科

教育目的：ものづくりの基礎となる工業材料に関する専門知識を修得し、これらの知識を応用して社会の発展に貢献できる材料技術者を育成します。

教育目標：金属およびセラミックス材料などに関する

- ・物性、構造、性質
 - ・製造プロセス、加工技術
 - ・材料工学に関連した周辺技術
- の基礎的な知識や技術を修得し、それらを活用できる能力を養成します。

5. 本校の教育方針

上記の教育理念、教育目的を達成するために、具体的には、次のような教育方法をとっている。

- (1) 数学や物理など、工学の基礎学力の充実
- (2) 系統的な教育課程による質の高い専門教育
- (3) 実験、実習、卒業研究指導を多く取り入れた実践的な技術教育
- (4) 一般科目の充実による人間性の涵養とコミュニケーション能力の育成
- (5) 学生の自主性を重視した基本ルールや倫理観の教育
- (6) 学生会及び体育・文化・技術クラブを通しての自主的な課外活動の奨励
- (7) 好奇心をもって自分の頭で考え、工夫する力の養成

さらに、専攻科課程では、次のような教育の特色をもたせている。

- (1) 少人数の学生定員で充実した教育研究環境と学会発表の奨励
- (2) 準学士課程との継続性を重視した教育
- (3) 長期にわたるインターンシップの実施
- (4) 学士号の取得と大学院進学

IV 選択的評価事項に係る目的

選択的評価事項 A 「研究活動の状況」に係る目的

研究のポテンシャルを向上させて教育の質の向上や技術の進展に対応した実践的技術者教育を行うとともに、産学民連携を推進して地域の技術振興に貢献するため、以下の目的を設定している。

1. 研究の成果を準学士課程の教育（卒業論文を含む）や専攻科課程の研究指導に反映させ、技術教育の質の向上を図る。
2. 産学民連携テクノセンターによる地元企業、商工会議所等との交流を通して共同研究、受託研究の振興・推進を図る。
3. 共同研究、受託研究等による外部資金の導入を活性化するための支援・助成を進める。
4. 知的財産権に係る活動を支援するシステムを推進する。
5. テクノネット久留米を設立し地域連携・地域貢献を推進する。
6. 上記 1～4 の活動を支援し、問題点があれば改善していくシステムを整備する。

1 の目的は教員の研究成果を、教育組織として体系的に準学士及び専攻科課程の学生教育に反映させるため、全学的な取組みとして設定したものである。産業界における技術動向を教育に取入れ、より実践的な技術教育としての質を向上させることを目指す。

産学民連携の推進と地域の技術振興に係る研究活動の推進を目指し、2、3 及び 4 の目的を設定している。高専と地域産業界のハブ機関としてのテクノセンターの運用による共同研究などの外部連携研究を、情報面・資金面・意識づけの面から促進するものである。

また本校の立地的特性を踏まえた地域連携活動として 5 の目的を設定している。地域企業との接点の拡大を期待されている本校の活動を後押しするために、旧産学民連携協力会の刷新と、新たな地域連携活動の推進を図ることを企図している。

以上の目的を継続的に見直すために 6 の目的を設定している。校内の総合的な年次活動の立案・実行・評価・改善を行う改善システムとの連動により、継続可能なシステムを目指している。

選択的評価事項A 研究活動の状況

(1) 観点ごとの分析

観点A-1-①： 高等専門学校の研究の目的に照らして、研究体制及び支援体制が適切に整備され、機能しているか。

(観点に係る状況) 高専における研究の目的は、高等専門学校設置基準第2条2に「高等専門学校は、その教育内容を学術の進展に即応させるため、必要な研究が行われるように務めるものとする」と規定され、国立高等専門学校機構の中期目標及び中期計画の中にも盛り込まれていることは周知のとおりである。本校では、研究のポテンシャルを向上させて技術の進展に対応した技術者教育の質を高めるため、教員の内地研究員・在外研究員派遣などによる学位取得の支援、学位取得者の教員採用、紀要、論文への投稿や研究発表の評価など、研究を重視する体制をとってきた。さらに、これまで蓄積されてきた本校の知的資源を活かすべく、以下に述べるような研究体制や支援体制を整備してきた。

1. 研究の成果を準学士課程の教育（卒業論文を含む）や専攻科課程の研究指導に反映させ、技術教育の質の向上を図る。

文部科学省では、各大学・短期大学・高等専門学校等（以下「大学等」）が実施する教育改革の取組の中から、大学等における学生教育の質の向上を目指す個性・特色のある優れた取組を選び、その取組をサポートしている。本校では平成19年度から平成21年度の間「産学民連携共同教育による実践的技術者育成（地域企業・社会との共同研究による地域活性化貢献と技術者養成の融合）」として現代G Pに取り組んだ（資料A-1-①-1）。このプログラムの主たる目的は、テーマにもあるように産学民の組織が共同研究などを通じた研究取組みにより実践的な技術者の養成を図るものであり、プログラムでの実践はその後の研究・教育活動に引き継がれている。

さらに、平成20年度からは「CIMSを活用した機械要素設計と産学連携」が、教育方法の工夫改善を主とする取組として教育G Pに選定されている（資料A-1-①-2）。この取組みでは、産業界での汎用化が進む3D-CADを用いた設計・解析技術を、機械工学分野をはじめとした工学研究・教育と産学連携研究に適用してゆくことを目指したものである。

これらの取組みに共通しているのは、産学連携に重点を置いた研究・教育の連担的な改善システムの構築である。平成22年度からは明らかになってきた課題を含め、本校の産学民連携テクノセンターが引継いで、スパイラル的な進展を目指している。

2. 産学民連携テクノセンターによる地元企業、商工会議所等との交流を通して共同研究、受託研究の振興・推進を図る。

「地域社会への貢献」を目的として、産学民連携推進センターが平成12年4月、本校に設置された。また、平成22年2月に、今後将来に向けた高専の役割を担うべく、産学民連携テクノセンター棟が建設された。テクノセンター棟は産学連携・地域連携の拠点として、共同研究や公開講座等に積極的に取り組み、地域社会へ貢献するために多様な役割を担っている。施設の新設に伴い、部門マネージャーを配置した（資料A-1-①-3）。同センターは、センター長を中心に、地域連携部門マネージャー、産業支援部門マネージャー、人材教育部門マネージャー、知的財産部門マネージャー、企画情報係（事務部門）2名、および平成25年度に任用された産学民連携コーディネーター1名で構成される（資料A-1-①-4）。同テクノセンターにはオープンラボとしてクレーン等を装備した機電系とP2基準を満たした生物化学系の2部屋の「重点研究プロジェクト室」が設置され、高専内外からの施設利用を募集し、研究支援を行っている。

3. 共同研究、受託研究等による外部資金の導入を活性化するための支援・助成を進める。

全校的な研究支援体制については、平成22年度より実施している校長裁量経費による「研究シーズ創出促進助成制度」がある。校内の研究者から研究テーマを募り助成を行う制度である。平成24年度からは、各学科の特色ある研究や、文部科学省科学研究費補助金の不採択テーマより、研究の有望な研究と判断されるテーマについて、同経費からの支援を行っている。またテクノセンターの「重点研究プロジェクト室」は、共同研究などの連携研究・外部資金獲得プロジェクトにプライオリティを置いて利用者選定を行っている（資料A-1-①-5）。

4. 知的財産権に係る活動を支援するシステムを推進する。

知的財産権に関しては、その活動を一層活性化させるべく、平成17年6月に発明委員会から知的財産委員会へと改組した（資料A-1-①-6）。平成23年7月には国立高専機構と産業総合研究所の間で包括連携協定を、また平成24年12月には九州沖縄地区の9つの国立高等専門学校と日本弁理士会九州支部とが知的財産分野での包括連携協定を締結した（資料A-1-①-7）。これまでの出願件数は多くないが、体制は整備されてきており、今後、取組の支援をさらに強化させていく。

5. テクノネット久留米を設立し地域連携・地域貢献を推進する。

産学民連携テクノセンターと連携し、地域産業の技術開発や技術教育の振興を図ることを目的に、地域企業、公的研究機関、久留米商工会議所及び久留米市役所のメンバーで構成される「久留米高専産学民連携推進協力会」が平成13年6月に設立された。久留米高専産学民連携推進協力会は平成24年5月に廃止され、久留米高専と地域産業界等との連携・交流を深めることにより、地域産業の発展に寄与するとともに、久留米高専の教育研究の振興を図ることを目的に、テクノネット久留米として平成24年10月に再設立された（資料A-1-①-8）。また、以前より、久留米工業高等専門学校産学民連携テクノセンターのホームページ等を通じて情報発信を行っているが、ソーシャルメディアを活用することで、更なる情報発信手段として利用できると考え、ソーシャルメディア公式アカウントが平成25年5月に登録された（資料A-1-①-9）。それらを通じ会員からの意見を聴取することや、会員同士での情報交換が可能となっており、今後ますますの相互関係の構築に当たっては重要な手段となることが見込まれる。産学民連携テクノセンター発足以来、上記の活動の主体は本校教員であったが、久留米リサーチ・パーク所属のコーディネーターと、平成25年度からは産学民連携コーディネーターとの連携も図り、新たにテクノネット久留米として共同研究に関する取組を一層強化するよう体制を整えた。このような取組の結果、テクノネット久留米の会員数は、平成25年3月時点において70団体を数えるに至った（資料A-1-①-10）。

6. 上記1～4の活動を支援し、問題点があれば改善していくシステムを整備する。

久留米高専でのこれらの活動については、企画主事室が主導し各関連部署が参画して立案・検証する企画委員会の年次計画で、課題の洗出しと改善を行うシステムを整備している。平成25年度からは、これらのPDCAサイクルのチェック体制を見直し、より実態に即応したシステムへの改善を図っている（資料A-1-①-11）。

（分析結果とその根拠理由） 本校では、高等専門学校設置基準に規定された高専における研究の目的に沿った研究が実施され、その支援体制が整備されている。また、地域社会に根ざした産学民連携を推進するために、産学民連携テクノセンターを設置し、校内の研究支援を推進している。地域産業界等との連携・交流を深めるために、テクノネット久留米が新設されており、フォーラム開催など活発な活動が行われ、多くの共同研究を基に発展している。また校長裁量経費からの研究

助成などの財源的支援体制も組まれている。そうした効果は、現代GP・教育GPなどの全学的な取り組みにもつながり、地域を先導する高等教育機関としての役割を十分に果たしている。したがって、必要な研究体制及び支援体制は適切に整備され機能していると判断できる。

資料A-1-①-1

久留米工業高等専門学校 現代GP Top Page	
TOP	平成19年度 現代的教育ニーズ取組支援プログラム(現代GP)採択 (H19～H21年度)
取り組み	名称: 産学民連携共同教育による実践的技術者育成
これまでの試み	副題: 地域企業・社会との共同研究による地域活性化貢献と技術者教育の融合
協働教育について	
成果と実績	
セミナー等のご案内	
お問い合わせ	
	概要 本取組は、地域社会と連携して共同教育を行い、21世紀の日本の工業を担う「個別の専門知識等を融合複合化して使いこなし、社会のニーズに対して新しい技術を工夫できる実践的工業技術者」を育成する試みであって、 1 地域企業(製造業)と連携して問題解決型の共同研究テーマを設定し、 2 公立研究機関と連携してナノテクノロジー分野の最先端テーマを設定し、 3 久留米市役所と連携して近隣の弥生人のルーツを人骨のDNA解析により探っていくテーマを設定し、 久留米高専生物応用化学科の正規カリキュラムである卒業研究として実施していきます。卒業研究指導教員の1年間に渡るきめ細かい指導の下に、研究開発のPDCAをまわしていくトレーニングをすることにより、学生を実践的工業技術者として育成するとともに、地域企業ならびに地域社会へ貢献するものです。 (取組実施対象地域:福岡県久留米市・佐賀県鳥栖市)
	<文部科学省 現代GP>のページへ 現代的教育ニーズ取組支援プログラム(現代GP)とは 文部科学省では、社会的要請の強い政策課題に対応したテーマ設定を行い、各大学等から申請された取組みの中から、特に優れた教育プロジェクトを選定し、財政支援を行うことで、高等教育の更なる活性化を図ることを目的として「現代的教育ニーズ取組支援プログラム」を実施しています。 平成19年度に設定されたテーマは6項目あり、本プロジェクトは「地域活性化への貢献(地元型)」に属します。 平成19年度の公募テーマ ・地域活性化への貢献(地元型) ・地域活性化への貢献(広域型) ・知的財産・コンテンツ関連教育の推進・持続可能な社会につながる環境教育の推進 ・実践的総合キャリア教育の推進 ・教育効果向上のためのICT活用教育の推進

(出典: KNCT 現代GP - 久留米高専 HP(<http://www.cc.kurume-nct.ac.jp/GP/index.htm>))

資料A-1-①-2



>> 教育GPとは

文部科学省では、各大学・短期大学・高等専門学校等（以下「大学等」）が実施する教育改革の取組の中から、大学等における学生教育の質の向上を目指す個性・特色のある優れた取組を選び、その取組をサポートしています。また、それらの取組について広く社会に情報提供を行うことにより、他の大学等が選ばれた取組を参考にしながら、教育改革に取り組むことを促進する大学教育改革をすすめています。この「優れた取組」を「Good Practice」と呼んでいます。これは、近年、国際機関の報告書などで「優れた取組」という意味で幅広く使われており、諸外国の大学教育改革でも注目されている言葉です。なお、この言葉を略して、「GP」と呼んでいます。

文部科学省では、国公立大学を通じて、教育の質向上に向けた大学教育改革の取組を選定し、財政的なサポートや幅広い情報提供を行い、各大学などでの教育改革の取組を促進するため、「特色ある大学教育支援プログラム（特色GP）」及び「現代的教育ニーズ取組支援プログラム（現代GP）」を実施しています。

平成20年度からは、特色GPと現代GPを発展的に統合した「質の高い大学教育推進プログラム（教育GP）」を実施しています。

文部科学省 リンク

http://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/kaikaku/gp.htm

高専機構 リンク

http://www.kosen-k.go.jp/joho_gp.html

>> 本取組みの選定理由

『本取組は、取組の範囲が機械工学科に限定されているものの、機械要素設計実験にCIM Sを導入し、通常の実験だけでは実施が非常に難しい設計→解析→製造加工→評価実験という一連のプロセスを体得させようとする取組で、高く評価される。』

また、地域中小企業に対する体系的なCIM S講習会を企画し、地域との相互作用により教育内容の刷新と地域連携活動の活性化を図ろうとする点も、大きな意義を有するものである。

ただし、地域連携や社会人教育において具体的な成果を上げるには、地域の生産現場とのより密接な交流が必要である。また、この手法は、単に、機械的要素設計だけでなく、さらに全学的に展開していくことも可能である。取組の実施に当たっては、これらの点に留意して、着実に成果を上げていかれることを期待する。』

>> 平成20年度 選定プログラム一覧（高等専門学校）

< 教育課程の工夫改善を主とする取組 > (1件)

整理番号	学校名	設置	取組名称
1	鈴鹿工業高等専門学校	国	環境志向・価値創造型エンジニアの育成

< 教育方法の工夫改善を主とする取組 > (11件)

整理番号	学校名	設置	取組名称
1	宮城工業高等専門学校	国	教学パーティーによる学習コンダクター育成
2	東京工業高等専門学校	国	国際通用力のある若き実践的エンジニア育成
3	東京工業高等専門学校	国	組み込みシステム開発マイスターの育成教育
4	石川工業高等専門学校	国	学習達成度試験による専門教育の質の保証
5	豊田工業高等専門学校	国	多読・多聴による英語教育改善の全学展開
6	豊田工業高等専門学校	国	ボランティア活動を活用した実践教育
7	米子工業高等専門学校	国	中海とともに育てる地域連携型環境教育
8	松江工業高等専門学校	国	知的創造サイクル演習による技術者教育
9	久留米工業高等専門学校	国	CIM Sを活用した機械要素設計と産学連携
10	大分工業高等専門学校	国	地域水環境を活用した実践的環境技術者教育
11	鹿児島工業高等専門学校	国	技術士会と連携した新たな実践的技術者教育

< 上記以外の工夫改善を主とする取組 > (1件)

整理番号	学校名	設置	取組名称
1	熊本電波工業高等専門学校	国	ものづくりコンテストを活用した国際化教育

Copyright © 2008 - Kurume National College of Technology. All rights reserved.

（出典：KNCT 教育 GP - 久留米高専 HP(<http://evo.me.kurume-nct.ac.jp/GP/gp.html>)）

資料 A-1-①-3

久留米工業高等専門学校産学民連携テクノセンター規則

(平成 22 年 4 月 1 日制定)

(設置)

第 1 条 久留米工業高等専門学校（以下「本校」という。）に、産学民連携テクノセンター（以下「センター」という。）を置く。

(目的)

第 2 条 センターは、地域の産官学民との共同研究等、及び地域の小中高等学校に対する、科学技術教育支援を推進することにより、本校の教育・研究の進展に寄与するとともに、併せて地域社会における技術開発及び科学技術教育の振興に資することを目的とする。

(業務)

第 3 条 センターは、前条の目的を達成するため、次の各号に掲げる業務を行う。

- (1) 地域産業界等との共同研究、受託研究に関すること。
- (2) 地域産業界に対する技術相談及び学術情報の提供に関すること。
- (3) 地域の小中高等学校に対する科学技術教育支援に関すること。
- (4) 地域社会における学術研究の交流に関すること。
- (5) 講習会、セミナー、公開講座等に関すること。
- (6) 知的財産権に関する情報収集・情報提供及び申請に関すること。
- (7) その他センターの目的達成に必要な業務に関すること。

(組織)

第 4 条 センターに次の各号に掲げる職員を置く。

- (1) センター長
- (2) 部門マネージャー
- (3) その他校長が必要と認めた者

(センター長)

第 5 条 センター長は、本校の教授とし、校長が任命する。

2 センター長の任期は、2 年とし、再任を妨げない。ただし、欠員を生じた場合の後任の任期は、前任者の残任期間とする。

(部門マネージャー)

第 6 条 部門マネージャーは、次の各号に掲げる者とし、校長が任命する。

- (1) 各学科等から若干名
- (2) 教育研究支援室員から 2 名

2 前項各号に掲げる者の任期は、2 年とし、再任を妨げない。ただし、欠員を生じた場合の後任の任期は、前任者の残任期間とする。

(職務)

第 7 条 センター長は、センターに関する業務を掌理する。

2 センター長は、第 3 条の業務遂行のため次の各号に掲げる部門を置く。

- (1) 産業支援部門
- (2) 地域連携部門
- (3) 人材教育部門

(4) 知財部門

3 部門マネージャーは、センター長を補佐し、前項各号の業務を担当し処理する。

(委員会)

第8条 センターに第3条に掲げる業務及びセンターの管理運営上必要な事項を審議するために委員会を置く。

2 委員長にはセンター長をもって充てる。

3 委員には第6条による者のほか、次の各号に掲げる者とする。

(1) 教務主事または主事補から1名

(2) 専攻科主事または主事補から1名

(3) 企画主事または主事補から1名

(4) 各学科等から1名

(5) 教育研究支援室員から2名

(6) 総務課長

4 前項第4号及び第5号に掲げる者の任期は、2年とし、再任を妨げない。ただし、欠員を生じた場合の後任の任期は、前任者の残任期間とする。

5 前項に掲げる者については、部門マネージャーとの兼任を妨げない。

(事務)

第9条 センターの事務室はセンター内に設置し、総務課企画情報係において処理する。

(その他)

第10条 この規則に定めるもののほか、センターに関し必要な事項は、別に定める。

附 則

1 この規則は、平成22年4月1日から施行する。

2 久留米工業高等専門学校産学民連携推進センター規則（平成12年4月1日制定）は廃止する。

（出典：久留米工業高等専門学校規則集）

資料 A-1-①-4

久留米工業高等専門学校 産学民連携テクノセンターは、地域との様々な形態での連携を重視し、その拡充整備を図って参ります。



久留米工業高等専門学校

産学民連携テクノセンター

Regional Collaboration Technology Center

 検索

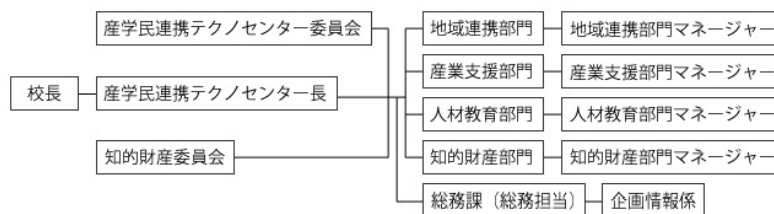
[ホーム](#) [リンク集](#) [サイトマップ](#)
[ホーム](#)[市民のみなさま](#)[学校関係のみなさま](#)[企業のみなさま](#)[お問い合わせ](#)

学校関係のみなさま


[産学民連携テクノセンター ホーム](#) > [学校関係のみなさま](#) > 組織

組織

センターの組織



■ 地域連携部門

地域の企業や社会人・一般市民向けの公開講座・フォーラム等を行います。

■ 産業支援部門

共同研究・受託研究・技術相談等、センターと企業との産学連携活動を積極的に行います。

■ 人材教育部門

地域の小学生・中学生・高校生に対する出前授業、公開講座の理科教育支援や教員向け実技講習会を行います。また、科学への関心を高めるための、公開実験など各種イベントを行います。

■ 知的財産部門

本校の特許や研究シーズを積極的にアピールして行きます。また、企業向けの知財に関するセミナーなどを行います。

学校関係のみなさま

[センター概要](#)[組織](#)[トピックス](#)[研究者・研究シーズ一覧](#)[研究者・シーズ検索](#)

(出典：産学民テクノセンターホームページ)

<http://www101.cc.kurume-nct.ac.jp/academic/body.html>

資料A－1－①－5（1／2）

平成24年度校長裁量経費申請及び配分（総表）

H24.10.4

予算額（円）	項 目	申請件数	申 請 額（円）	配分件数	配 分 額（円）
12,500,000	特色ある学科づくりの推進	6	11,353,750	6	7,066,750
	研究シーズ創出促進助成	6	6,373,023	2	1,537,919
	科学研究費補助金不採択研究への支援	2	980,000	2	580,000
	韓国東亜マイスター高校等の視察	-	-	-	315,331
	本部からの本校予算への留保の一部	-	-	-	3,000,000
	合 計	-	-	-	12,500,000

平成24年度 校長裁量経費「特色ある学科づくりの推進」配分一覧

（単位：円）

学科名	学科の特色にしようとする内容	取組の目的等	平成23年度配 分 額	所要見込額			合計	配分金額	
				平成24年度		平成25年度			
機械工学科	「高度な実践的設計能力と工学的直観力を有する機械技術者の育成を目指す取組」	(1)ものづくりプロセス教育と専門理論教育の有機的結合による実践的専門能力の向上 (2)工学理論を直感的に理解するリテラシー教育 (3)成果を見える形で地域へアピール	2,400,000	3Dプリンター材料	950,000	事業経費一式	3,400,000	10,000,000	1,540,000 (内訳) 風力発電システム用材 700,000 3Dプリンター保守 840,000
				風力発電システム用材料	1,510,000				
				機械要素測定機材消耗品	350,000				
				3D-CADソフト更新	300,000				
				3Dプリンター保守	840,000				
				5軸MC CAMソフト費	250,000				
				計	4,200,000	計	3,400,000		
電気電子工学科	「エネルギー、エレクトロニクス及び Practical Communicationの推進」	教育用実験装置の導入整備及び教授方法の確立をはかる。 (1)新エネルギー関連で太陽電池発電実験装置 (2)エネルギー制御でのパワーエレクトロニクスやデバイス、交流モータの実験装置 (3)ICT社会を支えるネットワーク通信・制御の実験装置 (4)上記(1)～(3)を連携・統合したものであるスマートグリッド実験装置 (5)実践的コミュニケーションを達成する教授訓練方法の構築	1,000,000	エネルギー、エレクトロニクス関連経費	770,000	エネルギー、エレクトロニクス関連経費	850,000	3,000,000	920,000 (内訳) エネルギー、エレクトロニクス関連経費 770,000 Practical Communication関連経費 150,000
				Practical Communication関連経費	230,000	Practical Communication関連経費	150,000		
				計	1,000,000	計	1,000,000		

平成24年度 校長裁量経費「研究シーズ創出促進助成」配分一覧

単位：円

番号	申請者			研究題目	申請金額	研究実施場所	配分金額	備考
	所属	職名	氏名					
4	制御情報工学科	助教	松本 光広	回転する曲面鏡と二次元測距装置を用いた三次元測距装置の開発	1,000,000	CAD/CAM実験室	1,000,000	今年度特許出願予定
5	生物応用化学科	准教授	松山 清	超臨界流体活性化法による多孔性配位高分子の高機能化と分子認識膜の開発	1,000,000	生物応用化学科棟 生物応用化学第1実験室	537,919	KOSEN研究ネットワーク（コーディネータを中心とした高専教員の勉強会）に沿ったテーマ
合 計					2,000,000		1,537,919	

資料 A-1-①-5 (2/2)

平成24年度不採択の科学研究費補助金申請分に係る研究への支援配分一覧

単位：円

整理 番号	申請者			研 究 課 題 名	研究種目	審査結果	申請金額	備品費	消耗品費	旅 費	その他	配分金額	備 考
	所 属	職名	氏名										
1	一般科目 (理科)	准教授	酒 井 道 宏	最先端の数学のマルチメディア教材化 に関する開発研究	基礎研究(C)	A	380,000	248,000	0	132,000	0	380,000	
2	一般科目 (理科)	准教授	伊 藤 公 毅	ジャクソン周期積分とベッチ構造	研究活動ス タート支援	A	600,000	0	200,000	400,000	0	200,000	
3													
合 計							980,000					580,000	

(出典：平成 24 年度学科長委員会資料)

資料 A-1-①-6

久留米工業高等専門学校知的財産委員会規則

(平成 17 年 6 月 16 日制定)

(設置)

第 1 条 久留米工業高等専門学校（以下「本校」という。）に、本校における知的財産の管理に係る重要事項を審議するため、知的財産委員会（以下「委員会」という。）を置く。

(審議事項)

第 2 条 委員会は、次の事項を審議する。

- (1) 教職員等の職務発明等に係る新規性、出願の価値の予備審査に関すること。
- (2) 知的財産の権利化に関すること。
- (3) 知的財産の活用に関すること。
- (4) その他本校における知的財産に関すること。

(組織)

第 3 条 委員会は、次の各号に掲げる者をもって組織する。

- (1) 産学民連携テクノセンター長
- (2) 産学民連携テクノセンター委員のうちから各学科等各 1 名
- (3) 専攻科主事補から 1 名
- (4) 総務課長
- (5) その他校長が必要と認めた者

2 前項第 2 号の委員の任期は、2 年とし、再任を妨げない。

(委員長)

第 4 条 委員会に委員長を置き、前条第 1 項第 1 号の委員をもって充てる。

2 委員長に事故があるときは、委員長があらかじめ指名する委員がその職務を代行する。

3 委員長は委員会を招集し、その議長となる。

(委員以外の者の出席)

第 5 条 委員長が必要と認めたときは、委員会に委員以外の者の出席を求め、意見を聴くことができる。

(事務)

第 6 条 委員会の事務は、総務課企画情報係において処理する。

附 則

1 この規則は、平成 17 年 6 月 16 日から施行する。

2 久留米工業高等専門学校発明規程（昭和 53 年 10 月 1 日制定）は、この規則制定の日から廃止する。

附 則

この規則は、平成 19 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この規則は、平成 22 年 4 月 1 日から施行する。

(出典：久留米工業高等専門学校規則集)

資料A－1－①－7

ホーム＞日本弁理士の活動＞セミナー・支援等のご案内＞支援サービス＞協定締結の事例＞九州沖縄地区国立高等専門学校との包括連携協定締結

九州沖縄地区国立高等専門学校との包括連携協定締結(平成24年12月10日)

平成24年12月10日(月)、メルパルク熊本(熊本市中央区水道町)において、熊本高等専門学校など九州沖縄地区の9つの国立高等専門学校と当会は、知的財産分野で包括連携協定を締結した。奥山会長と高専代表の宮川熊本高専校長及び立居場有明高専校長が協定書に署名した。締結式には弁理士や各高専の代表者ら約30名が参加した。



日本弁理士会と九州沖縄地区国立高等専門学校との 包括連携に関する協定書

- 協力事項
- 1 知的財産制度の普及啓発に関する活動
 - 2 知的財産制度についての知識を有する人材の育成に関する活動
 - 3 知的財産制度に係る教育に関する活動
 - 4 知的財産制度に係る相談に関する活動

有効期間 平成24年12月10日から平成25年3月31日まで(1年ごとに更新)

締結者	日本弁理士会	会長 奥山 尚一
	久留米工業高等専門学校	校長 上田 孝
	有明工業高等専門学校	校長 立居場光生
	佐世保工業高等専門学校	校長 中尾 充宏
	大分工業高等専門学校	校長 古川 明德
	都城工業高等専門学校	校長 三村 洋史
	鹿児島工業高等専門学校	校長 赤坂 裕
	沖縄工業高等専門学校	校長 伊東 繁
	熊本高等専門学校	校長 宮川 英明

▲ [ページのトップに戻る](#)

(出典：日本弁理士会 HP(<http://www.jpaa.or.jp/>))

資料 A-1-①-8

テクノネット久留米会則

(名称)

第1条 本会は、テクノネット久留米と称する。

(目的)

第2条 本会は、久留米工業高等専門学校（以下「久留米高専」という。）の教育研究に協力するとともに、久留米高専及び会員相互の連携・交流を深め、福岡県並びに佐賀県における産業技術の振興を図り、地域社会の発展に寄与することを目的とする。

(事業)

第3条 本会は、前条の目的を達成するため、次の事業を行う。

- 一 久留米高専の教育研究の充実に関すること。
- 二 地域産業の発展に関すること。
- 三 その他本会の目的達成に必要なこと。

(組織及び会員)

第4条 本会は、本会の目的に賛同して入会した法人（企業）、個人及び団体（公共団体）を会員として組織する。

- 2 会員は、法人（企業）会員、個人会員及び特別会員とする。
- 3 特別会員は地方自治体やその他公共団体等とする。

(役員)

第5条 本会に、次の役員を置く。

- 一 会長 1名
- 二 副会長 2名
- 三 理事 10名以上20名以内
- 四 監査役 2名
- 五 幹事 1名

(役員任期)

第6条 役員任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、欠員が生じたときの後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(役員選出)

第7条 理事は、総会において会員の中から選任する。

- 2 会長及び副会長は、理事の互選により選任する。
- 3 監査役は、総会において会員の中から選任する。
- 4 幹事は、理事会において会員の中から選任する。

(役員任務)

第8条 会長は、本会を代表し、業務を統括する。

- 2 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるときはその職務を代行する。
- 3 理事は、本会の業務を執行する。
- 4 監査役は、会計を監査する。
- 5 幹事は、本会の事務を処理する。

(顧問)

第9条 本会に事業を円滑に推進するため、顧問を置くことができる。

- 2 顧問は、会長の諮問に応じるとともに、会議に出席して意見を述べることができる。
- 3 顧問は、理事会において決定する。

(総会)

第10条 総会は定時総会及び臨時総会とし、会長が召集し議長となる。

- 2 定時総会は毎年度1回開催し、臨時総会は会長が必要と認めるときに開催する。
- 3 総会は、次の事項を審議する。
 - 一 運営の基本方針に関すること。
 - 二 事業計画及び報告に関すること。
 - 三 予算及び決算に関すること。
 - 四 その他本会の目的達成に必要なこと。
- 4 総会は、会員の過半数（委任状を含む）をもって成立し、議事は出席者の過半数をもって決する。

(理事会)

第11条 理事会は、理事及び幹事をもって構成する。

- 2 理事会は、会長が必要と認めるときに開催し、議長は会長が務める。
- 3 理事会は、総会に上程する議案及び重要事項を審議する。
- 4 理事会は、理事の過半数（委任状を含む）をもって成立し、議事は出席者の過半数をもって決する。

(企画委員会)

第12条 本会の事業を円滑に推進するため、企画委員会を設置する。

- 2 企画委員会に企画委員長及び企画委員を置き、会員の中から会長が委嘱する。
- 3 企画委員長及び企画委員の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、欠員が生じたときの後任者の任期は、前任者の残任期間とする。
- 4 企画委員会は、企画委員長が必要と認めるときに開催し、議長は企画委員長が務める。
- 5 企画委員会の審議事項は、第3条に掲げる事業に関し、必要と認められる具体的、実践的な事項とする。

(事務局)

第13条 本会の事務局を久留米工業高等専門学校内に置く。

(会計)

第 14 条 本会の経費は、会費及び寄附金等をもって充てる。

2 会費は、次のとおりとする。

- 一 法人会員は、年額 1 口 10,000 円とし、1 口以上納めるものとする。
- 二 個人会員は、年額 1 口 5,000 円とし、1 口以上納めるものとする。
- 三 特別会員は、無料とする。

3 本会の会計年度は、毎年 9 月 1 日から翌年の 8 月 31 日までとする。

4 年度途中に入会する場合は、1 年分を納入するものとし、退会による既納の会費は返還しないものとする。

(解散)

第 15 条 本会は総会の議を経て解散することができる。

(その他)

第 16 条 この会則に定めるもののほか、本会の運営に必要な事項は、理事会で定める。

附 則

1 この会則は、平成 24 年 10 月 26 日（設立年月日）から施行する。

2 この会則施行後最初に委嘱される第 5 条及び第 12 条第 2 項の委員の任期は、第 6 条及び第 12 条第 3 項本文の規定にかかわらず、平成 26 年 8 月 31 日までとする。

3 本会の初年度の会計年度は、第 14 条第 3 項の規定にかかわらず、本会設立の日から平成 25 年 8 月 31 日までとする。

(出典：産学民連携テクノセンターHP)

資料 A - 1 - ① - 9



(出典：Facebook(<https://www.facebook.com/pages/テクノネット久留米/449900035102642>))

資料A－1－①－10

テクノネット久留米会員名簿					
平成25年3月31日現在					
会員 NO	会員区分	企業名等	代表者氏名	住 所	業種
1	法人	アイスマン株式会社	秋山 知昭	久留米市北野町千代島989	機械
2	法人	(有)旭ゴム工業所	久米 正博	久留米市梅満町28－1	ゴム
3	法人	稲積合金 株式会社	稲積 茂紀	久留米市梅満町37－3	鉄鋼・非鉄金属
4	法人	(株)ウメダ	梅田 昌弘	筑後市西牟田4227－1	機械
5	法人	(株)栄電舎	飯笹 実	久留米市津福本町南津留2348－8	機械
6	法人	江見製袋株式会社	江見 二六	鳥栖市田代大官町856	繊維・紙
7	法人	(株)小川製作所	小川 朗	久留米市白山町559	鉄鋼・非鉄金属
8	法人	兼定興産株式会社	野下謙司郎	久留米市野中町640－1	肥料・化学薬品卸
9	法人	(株)キタダ	山本 充	久留米市梅満町77－3	機械
10	法人	北原ウエルテック株式会社	北原 明彦	久留米市宮ノ陣4丁目6－8	機械
11	法人	(株)九州エルピー	宮崎 博久	佐賀県三養基郡みやき町大字白壁4305-2	サービス
12	法人	(株)クリハラ	栗原 良信	久留米市津福本町2348－9	機械
13	法人	(株)久留米リサーチパーク	田中 一成	久留米市百年公園1番1号	サービス
14	法人	(有)黒岩鋳造所	黒岩 義治	久留米市津福本町字南津留2348－45	機械
15	法人	(株)ケンコントロールズ	田端 秀丞	久留米市三潅町田川1460－1	その他(自動制御機器)
16	法人	(株)古賀歯車製作所	古賀 俊宏	久留米市荒木町荒木1964－5	機械
17	法人	(株)小林建設	小林 隆利	久留米市山川町1661－1	建設
18	法人	(株)サンテ・コーポレーション	原口 彰	久留米市津福今町211－6	サービス
19	法人	塩川総合企画株式会社	塩川 聡	佐賀県三養基郡みやき町江口7561	サービス
20	法人	システム工技	田中 保夫	小郡市小郡1231－1	機械
21	法人	システムラボラトリー株式会社久留米営業所	安河内 公洋	久留米市百年公園1－1	コンピュータ・情報機器
22	法人	CTC－LANKA株式会社	秋山 恵利	久留米市上津町1369－2	その他
23	法人	シバタ精機株式会社	柴田 實	朝倉市杷木林田807－1	機械
24	法人	昭栄化学工業株式会社鳥栖事業所	内尾 研二	鳥栖市藤木町若桜5－3	科学工業
25	法人	(株)新出光ファシリティーズ	水城 勝広	鳥栖市今泉町2454-1	建設
26	法人	(株)西部技研	隈 扶三郎	古賀市青柳3108－3	機械
27	法人	(株)創世エンジニアリング	江口 克弘	久留米市宮ノ陣町若松1 番地6	その他(金型)
28	法人	大電株式会社	森 昭典	久留米市南2丁目15－1	鉄鋼・非鉄金属
29	法人	ダイヤ糊工業株式会社	高山 卓己	八女市立花町大字谷川71－1	化学工業
30	法人	高木鉄工株式会社	高木 浩敏	久留米市荒木町藤田1423－32	機械
31	法人	武井電機工業株式会社	武井 口雄	三養基郡みやき町江口2617	電気機器
32	法人	(株)筑邦銀行	佐藤清一郎	久留米市諏訪野町2456－1	銀行
33	法人	津福工業株式会社	津福 一宏	筑後市一条1331	住宅・設備
34	法人	(有)津留崎製作所	津留崎 泰兆	久留米市三潅町玉満967-2	機械
35	法人	TDK株式会社三隈川工場	福島 清人	日田市石井町3－793－1	電気機器

会員 NO	会員区分	企業名等	代表者氏名	住 所	業 種
36	法人	(株)テクノ月星	井上 定男	うきは市浮羽町大字高見215	ゴム
37	法人	(有)テックA・C・S	古澤 正剛	福岡県三潁郡大木町大字上木佐木51-1	機械
38	法人	東亜工機株式会社	光武 渉	鹿島市大字山浦丁1430番地30	鉄鋼・非鉄金属
39	法人	東和コーポレーション株式会社	山口 隆	久留米市津福本町227	その他
40	法人	(株)西圧	鎌水 寛	鳥栖市藤木町5-12	機械
41	法人	日米ゴム株式会社	石丸 茂夫	久留米市京町5丁目196	ゴム
42	法人	(株)ポリタケカンパニーリミテド	種村 均	福岡県朝倉郡筑前町三並2160	機械
43	法人	林保冷工業株式会社	林 喜一郎	鳥栖市永吉町788	建設
44	法人	(株)ブリヂストン久留米工場	峯尾 啓司	久留米市京町105	ゴム
45	法人	(株)松本商店	松本 正二郎	久留米市津福本町2348-29	その他(2次卸)
46	法人	マルナカゴム工業	中川 知也	久留米市三潁町玉満1576-7	ゴム
47	法人	まるは油脂化学株式会社	林 真一	久留米市高野2丁目8-53	科学工業
48	法人	三原機工株式会社	中村 學	久留米市荒木町荒木1978-2	学校用いす製造販売
49	法人	(株)ムーンスター	猪山 渡	久留米市白山町60	その他(靴製造)
50	法人	ムライケミカルパック(株)	村井 正隆	久留米市藤山町696-5	その他(塗料製造)
51	法人	森鉄工株式会社	森 孝一	鹿島市大字井手2078	機械
52	法人	ユニタック株式会社	稲田 幸広	久留米市宮ノ陣3丁目7番57	機械
53	法人	合資会社ロオーリング	實藤 俊彦	福岡県三井郡大刀洗町大字三川550-3	繊維・紙
54	法人	(株)ワイビーエム	諸富 洋之	久留米市小森野5-15-26	コンピュータ・情報機器
55	特別	九州シンクロトロン光研究センター	上坪 宏道	鳥栖市弥生が丘8-7	特別会員
56	特別	久留米大学	神代 正道	久留米市旭町67番地	特別会員
57	特別	久留米市	檜原 利則	久留米市城南町15-3	特別会員
58	特別	久留米商工会議所	本村 康人	久留米市城南町15-5	特別会員
59	特別	久留米工業大学	尾崎 龍夫	久留米市上津町2228-66	特別会員
60	特別	(財)佐賀県地域産業支援センター	飛石 昇	佐賀市鍋島町八戸溝114	特別会員
61	特別	(独)産業技術総合研究所九州センター	渡辺 正信	鳥栖市宿町807-1	特別会員
62	特別	筑後商工会議所	玉木 康裕	筑後市大字和泉118-1	特別会員
63	特別	鳥栖市	立石 利治	鳥栖市宿町1118番地	特別会員
64	特別	鳥栖商工会議所	中富 舒行	鳥栖市元町1380-5	特別会員
65	特別	西日本新聞社久留米総局	青木 忠興	久留米市篠山町12-3	その他
66	特別	福岡県工業技術センター生物食品研究所	赤尾 哲之	久留米市合川町1465-5	特別会員
67	特別	八女商工会議所	下川 博	八女市本村425-22-2	特別会員
68	特別	久留米工業高等専門学校	上田 孝	久留米市小森野1-1-1	特別会員
69	個人	工藤 金治	工藤 金治	久留米市瀬下町334-2	個人会員
70	法人	オガワ機工株式会社	伊藤 博介	久留米市宮ノ陣町若松1-20	輸送機器

(出典：テクノネット久留米会員名簿(平成24年度)(総務課))

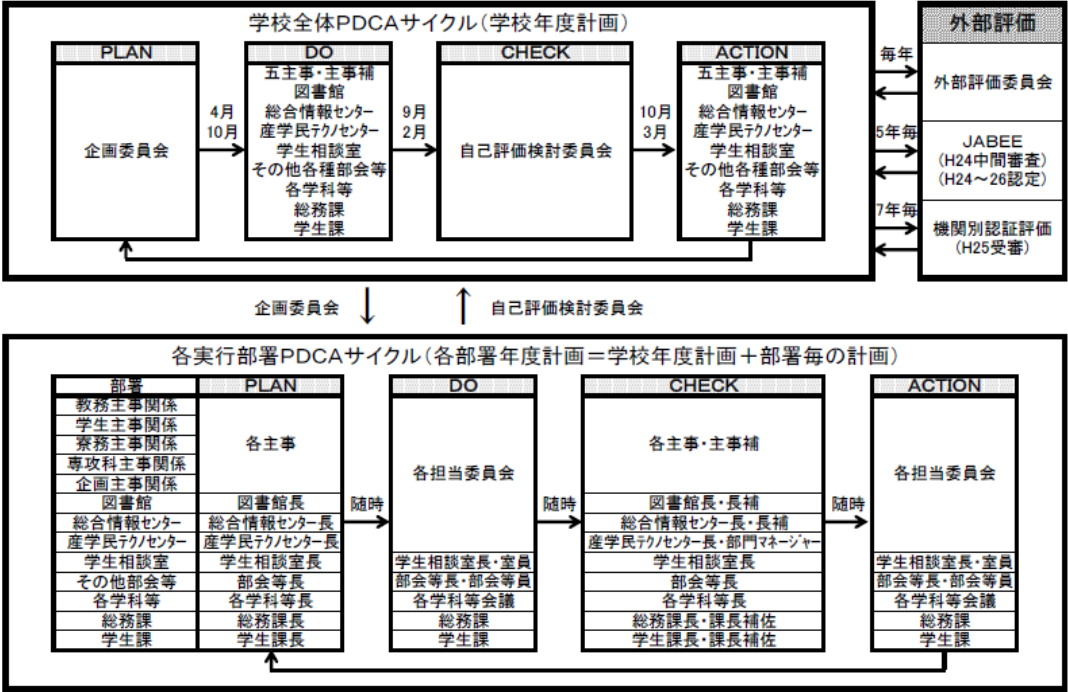
資料A－1－①－11

企画委員会委員各位

平成25年4月25日

企画主事補 黒木

久留米高専PDCAシステム(案)



(出典：平成25年度第2回企画委員会資料)

観点A－1－②： 研究の目的に沿った活動の成果が上げられているか。

（観点に係る状況） 本校教員による研究活動は、研究論文数及び学会発表件数の推移から分かるように大変活発であり、研究成果に関して毎年数多くの外部発表がなされている（資料A－1－②－1）。

1. 研究の成果を準学士課程の教育（卒業論文を含む）や専攻科課程の研究指導に反映させ、技術教育の質の向上を図る。

外部資金の獲得状況に関しては、校長裁量経費による研究活動の活性化を目指した支援体制の構築や、研究情報の積極的開示などの活動、テクノネット久留米を中心とした支援組織との連携強化の結果、特に民間企業からの奨学寄附金、共同研究費及び受託研究費の受け入れ件数並びに総額が高い水準を維持している（資料A－1－②－2）。教員が、種々の学協会などから受賞した表彰実績も上がっている（資料A－1－②－3）。また、本校教員による教育指導の結果、ロボットコンテストやプログラミングコンテストなどにおいて、本校学生が毎年優秀な成績を残している（資料A－1－②－4）。これらのことは、教員の研究活動は十分に高いレベルにあり、同時に教育研究の分野においてもそのレベルの維持・向上を達成する上で、十分に満足できるものであることを示している。

2. 産学民連携テクノセンターによる地元企業、商工会議所等との交流を通して共同研究、受託研究の振興・推進を図る。

さらに、産学連携セミナー・インテグラルセミナーなどの技術セミナーや、産学民連携フォーラム・CIMSフォーラムといった講演会も毎年開催されており（資料A－1－②－5）、産学民連携の強化が図られた結果、テクノネット久留米の会員数も発足当時の50数団体から70団体に増加している（資料A－1－①－5）。昨年度から活動が始まり、平成25年2月に久留米高専において「テクノネットラボツアー」が、3月には「テクノネット久留米セミナー」が開催された（資料A－1－②－6）。

3. 共同研究、受託研究等による外部資金の導入を活性化するための支援・助成を進める。

本校では、テクノネット久留米を中心として、中小零細企業をも含めた全技術分野にわたる共同研究について、地域に根ざした取組を行っている。過去5年間の共同研究数の推移（資料A－1－②－7）並びに平成24年度に実施された共同研究テーマ一覧（資料A－1－②－8）から明らかのように、毎年数多くの共同研究が実施されており、その内容も心筋梗塞などで詰まった血管の治療向けに、生分解性素材性の血管拡張器具の開発をはじめとし、地元企業のニーズに適確に応えるものとなっている（資料A－1－②－9）。

4. 知的財産権に係る活動を支援するシステムを推進する。

知的財産に関しては、平成23年度の国立高専機構と産業技術総合研究所の包括的連携協定締結や、平成24年度の九州・沖縄地区高専と日本弁理士会九州支部の包括的連携協定締結など、高等教育機関として知的財産の権利化に向けた取り組みを進めてきているところであり、徐々にその効果が現れ始めている。（資料A－1－②－10）

5. テクノネット久留米を設立し地域連携・地域貢献を推進する。

本校では、テクノネット久留米を中心として、中小零細企業をも含めた全技術分野にわたる共同研究について、地域に根ざした取組を行っている。また、テクノネット久留米を中心とした支援組織との連携強化の結果、特に民間企業からの奨学寄附金、共同研究費及び受託研究費の受け入れ件数並びに総額が高い水準を維持している。さらに、産学民連携の強化が図られた結果、テクノネッ

ト久留米の会員数も発足当時の50数団体から70団体に増加している。昨年度から活動が始まり、平成25年2月に久留米高専において「テクノネットラボツアー」が、3月には「テクノネット久留米セミナー」が開催された。

（分析結果とその根拠理由） 研究論文数や研究発表件数及び外部資金獲得状況から、本校の研究活動は活発になされており、教員の研究成果に対する学協会などからの表彰として実を結びつつある。また、教員の指導によってロボットコンテストや飛行ロボットコンテスト、プログラミングコンテスト、エコランカー、デザインコンテスト、学生発表などにおいて毎年優秀な成績を残していることから、研究の成果を教育に反映させるという目的に沿った活動の成果が上がっている。また、産学民連携テクノセンターを中心として、地域ニーズに根ざした研究テーマが数多く設定され、共同研究が推進されている。

資料A－1－②－1

研究論文数及び学会発表数の推移

年度 種類	H21年度	H22年度	H23年度
研究論文数	59	84	83
口頭発表数	154	139	140

（出典：久留米高専紀要第26巻～第28巻）

資料A-1-②-2

外部資金獲得状況の推移

奨学寄附金

(千円)

	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
受入件数	25	21	32	16	23
受入金額	22,590	17,650	19,975	9,846	23,821

共同研究

(千円)

	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
受入件数	18	20	15	18	16
受入金額	7,340	6,545	4,225	5,857	4,476

受託研究（H24年度受託事業含む）

(千円)

	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
受入件数	6	5	2	4	3
受入金額	14,218	26,469	6,015	5,558	1,067

科学研究費補助金（間接経費含む）

(千円)

	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
受入件数	6	2	5	4	12
受入金額	8,680	1,930	8,100	4,420	17,030

(出典：平成20年度～24年度決算調書より抜粋)

資料A-1-②-3

教員の学協会賞等の表彰実績

賞	受賞者	年月
ポスター賞（電気化学会）	周 致霆	平成22年3月
日本非破壊検査協会学術奨励賞（日本非破壊検査協会）	笹栗信也	平成22年5月
日本機械学会機素潤滑設計部門優秀講演表彰	橋村真治	平成23年4月
日本工学教育協会賞	藤田雅俊	平成24年8月
日本工学教育協会賞	橋村真治	平成24年8月

(出典：総務課人事・労務係資料)

資料A－1－②－4

各種コンテスト等における表彰実績

賞	指導者 (代表顧問)	年度
Supercomputing Contest2008 情報処理学会若手奨励賞 電子情報通信学会情報・システムサイエティ スーパーコンピューティング奨励賞	黒木祥光	平成20年
第19回全国高等専門学校プログラミングコンテスト 自由部門 特別賞	黒木祥光	平成20年
第11回化学工学会学生発表会 優秀講演賞		平成20年
日本金属学会第11回優秀ポスター賞		平成20年
平成20年度パテントコンテスト 特許出願支援対象者大学部門	伊藤義文	平成20年
第9回日本情報オリンピック 成績優秀者 及び 地域別成績優秀者	黒木祥光	平成21年
第5回全日本学生室内飛行ロボットコンテストベストデザイン賞	原田豊満	平成21年
福岡モーターショー2009福岡県学生製作車両展 優秀エコカー賞	中武靖仁	平成21年
第42回九州・沖縄地区高専英語弁論大会 スピーチ部門第3位	江島孝則	平成21年
第10回日本情報オリンピック 成績優秀者 及び 地域別成績優秀者	黒木祥光	平成22年
平成22年度パテントコンテスト 特許出願支援対象者大学部門	伊藤義文	平成22年
第11回日本情報オリンピック九州・沖縄ブロック成績優秀者	黒木祥光	平成23年
福岡モーターショー2012九州学生車両展エコランカー部門 アイデア賞	中武靖仁	平成23年
城島瓦協同組合ロゴマーク数瓦デザイン・イメージ・コンペティション 最優秀賞	藤田雅俊	平成23年
第22回全国高等専門学校プログラミングコンテスト 競技部門優勝、自由部門特別賞	黒木祥光	平成23年
第9回全国高等学校パソコンコンクール(パソコン甲子園2011) モバイル部門 準グランプリ	黒木祥光	平成23年
第7回全日本学生室内飛行ロボットコンテスト ペストパイロット賞	原田豊満	平成23年
第44回九州沖縄地区高専英語弁論大会 スピーチ部門 第2位	江島孝則	平成23年
第5回アジア太平洋情報オリンピック 銅メダル	黒木祥光	平成23年
第48回化学関連支部合同九州大会 有機化学部門 ポスター賞	石井努	平成23年
第48回化学関連支部合同九州大会 ??? 優秀研究発表賞	濱上寿一	平成23年
NTTドコモアワード2012 開発部門優秀賞	黒木祥光	平成24年
パソコン甲子園2012モバイル部門第3位	黒木祥光	平成24年
第8回全日本学生室内飛行ロボットコンテスト ベストプレゼンテーション賞	田中大	平成24年
全国高等専門学校第23回プログラミングコンテスト課題部門・自由部門 敢闘賞	黒木祥光	平成24年
高専一長岡技科大 小型風車設計コンテスト 優秀設計賞(アイデア)	中武靖仁	平成24年
日本金属学会講演大会第20回優秀ポスター賞	周致霊	平成24年
日本金属学会講演大会第20回優秀ポスター賞	奥山哲也	平成24年
表面技術協会第126回講演大会第1回学生優秀講演賞	田中慎一	平成24年
高専技科大連携教育研究プロジェクト学生成果報告会 電気・電子情報工学分野 優秀賞	田中慎一	平成24年
日本機械学会九州学生会優秀講演賞	中武靖仁	平成24年
日本機械学会九州学生会優秀講演賞	橋村真治	平成24年
日本高専学会2012年度日本高専学会論文奨励賞 優秀賞	黒木祥光	平成24年
電子情報通信学会スマートインフォメディアシステム研究会若手研究優秀賞	黒木祥光	平成24年
JIDA-KIGS学生デザインコンペ「うつくしい暮らしをデザインする」 最優秀賞	藤田雅俊	平成24年
平成24年度パテントコンテスト特許出願支援対象発明	原田豊満	平成24年

(出典：学生課学生生活支援係資料)

資料A-1-②-5 (1/2)

平成20年度支部科学祭「新しい大学教育推進プログラム（教育GP）」掲載
CIMSを活用した機械要素教育と産学連携

TOP | 教育GP | 取組み | CIMS | イベント | お問い合わせ

イベント情報

TOP > インテグラル・セミナー アーカイブ

インテグラル・セミナー アーカイブ

第9回 公差設計インテグラルセミナー-公開講座開催のご案内

2010年11月16日 11:51 カタログ>インテグラル・セミナー | 公開講座

コンピュータの急速な発展と低価格化によりものづくりプロセスでは3次元CADが大勢に普及しています。その上で、従来の手書き図面や2次元CADでは出来なかった様々な解析技術を駆使し、試作レス化や高効率化が進んでいます。

3次元CADデータは容易に改変が可能であり、強度解析等のCAEやCAM加工に適用できます。また、設計プロセス内において非常に重要な公差設計に活用することも可能です。これは最終製品組立て時の寸法誤差の予測や誤差の発生確率を踏まえた部品公差の決定を可能にし、製品の品質保証に加えて、設計・製造コストの低減を行うことが可能になります。

本講座では、本校の教育GP活動における教育GPフォーラム、本校主催の3次元CAD公開講座として、「公差設計理論と3次元公差設計」を実施します。企業技術者にとって極めて重要な内容を行いますので、3次元CADの有効利用を検討している企業やこれから検討する企業には必見の内容です。また福岡県において、今後国際競争力のあるものづくり拠点を目指す上で、示唆に富み、実際に活用できる内容となっております。

1. 開催日時:平成22年11月2日(木) 10:00~17:00
3日(金) 9:00~16:00

1日目 インテグラルセミナー「公差設計とは？」
公開講座「公差設計理論と実践」

2日目 インテグラルセミナー「3D公差解析ソフトウェアの概要」
公開講座「TolAnalystを使った3次元公差解析」

2. 主催:久留米工業高等専門学校
共催:日本設計工学会、日本機械学会九州支部

3. 開催場所:久留米工業高等専門学校
機械材料専門棟 2階 CAD演習室

4. 対象者:社会人(一般企業および工業高校教員)
および日本設計工学会・日本機械学会会員

5. 募集人員:20名

6. 受講料:5,400円
テキスト代(別途):1日目:基盤編(3,000円/冊)
2日目:操作編(2,000円/冊)

7. 募集期間:11月26日(金) 定員になり次第締切

8. 申込方法:申し込み用紙をFAXするか、
E-mailより申し込み

Webより申し込みはしばらくお待ち下さい

9. 申込先:〒830-8555 久留米市小森野1-1-1
久留米工業高等専門学校 総務課 総務係
TEL:0942-35-9304
FAX:0942-35-9307

10. 講師:株式会社ブラナー 栗山弘氏 栗山長治氏

11. その他:筆記用具と開校電車をご利用下さい

2010
TolAnalyst
3D公差解析ソフトウェアの概要

久留米工業高等専門学校
機械材料専門棟 2階 CAD演習室

2010年11月16日 11:51 カタログ>インテグラル・セミナー | 公開講座

第9回 公差設計インテグラルセミナー-公開講座開催のご案内

第6回 インテグラルセミナー開催案内

3DCAD先端利用-公差設計講座 開催のご案内

第3回インテグラルセミナーについて

第3回インテグラルセミナー開催のご案内

カテゴリ一覧

CIMSフォーラム
インテグラル・セミナー

公開講座

月別のイベント

2010-11
2010-06
2010-03
2010-01
2009-12

アーカイブ一覧

イベントの検索

Keyword(s)

フィードの購読

RSS
Atom

(出典: CIMS ホームページ)

<http://evo.me.kurume-nct.ac.jp/GP/event/cat1/>

資料A-1-②-5 (2/2)



平成20年度 文部科学省「質の高い大学教育推進プログラム（教育GP）」採択

CIMSを活用した機械要素教育と産学連携

独立行政法人 国立高等専門学校機構
久留米工業高等専門学校

TOP | 教育GP | 取組み | CIMS | イベント | 問い合わせ

>> イベント情報

TOP > CIMSフォーラム アーカイブ

CIMSフォーラム アーカイブ

第6回 CIMSフォーラム 開催案内

2011年12月13日 10:02 | カテゴリー: CIMSフォーラム |

このたび、CIMSフォーラムは、「卒業生からのメッセージ～高専卒と大学卒のメリット/デメリット、ものづくりに必要なスキルや国際的な視野を持って活躍するために何が必要か～」というテーマで開催いたします。

最近、急激な円高による製造業の海外移転、生産現場での人材登用のあり方など多方面から国際化の波が押し寄せてきています。

このような情勢の中で、本校卒業生たちが、高専卒ということをどのように感じているか、大学卒とはどう違うのか、高専学生時代に必要なことは何か、などを率直に語っていただきます。

在学生、これから高専を目指すお子様をお持ちの保護者の方、興味をもたれる方は是非ご参加下さい。

1. 開催日時・スケジュール:

平成23年12月22日(木) 13:00～16:30

第I部: 卒業生からのメッセージ

- 講演1: 三菱重工業株式会社 山下 陽平 氏(34期生)
講演2: TOTOインフォム株式会社 藤原 英治 氏(34期生)
講演3: 黒崎播磨株式会社 隈 裕二 氏(36期生)
講演4: マツダ株式会社 柴田 俊作 氏(38期生)

第II部: 現役学生、および異職分野で活躍する卒業生からのメッセージ

- 講演5: 長岡技術科学大学大学院修士課程 倉掛 優 氏(43期生)
講演6: 株式会社久留米野卵場 古賀 宣彦 氏(34期生)
講演7: 株式会社ファースト工房 大西 智明 氏(33期生)

2. 開催場所: 久留米工業高等専門学校D4教室

3. 対象者: 久留米高専機械工学科2～5年生および専攻科機械コース1年生、教職員、社会人、保護者の方

4. 募集人員: 200名

5. 受講料: 無料

6. 申込: 不要

7. 主催: 久留米工業高等専門学校 機械工学科

8. 共催: 日本設計工学会

9. 問い合わせ: 久留米工業高等専門学校 総務課 総務係

TEL: 0942-35-9304、FAX: 0942-35-

9307

最近のイベント

第6回 CIMSフォーラム 開催案内

第5回教育GPフォーラム 開催案内

第4回 教育GPフォーラム 開催のご案内

第3回CIMSフォーラムについて

第3回CIMSフォーラム 卒業生からのメッセージ ～実践技術者として産業界で働くために～

カテゴリー一覧

CIMSフォーラム
インテグラル・セミナー

公開講座

月別のイベント

2011-12

2011-11

2011-02

2010-12

2010-11

アーカイブ一覧

イベントの検索

Keyword(s)

フィードの購読



(出典: CIMSホームページ)

<http://evo.me.kurume-nct.ac.jp/GP/event/cims/>

資料A－1－②－6（1/2）

平成24年度第1回テクノネット久留米ラボツアー報告

日 時：平成25年2月13日（水）15時00分～17時15分

場 所：久留米高専機械要素設計実験室

参加者：38名（うち会員20名）

1. 定刻に至り、橋村部門マネージャーの司会でラボツアーを進行することとなった。

2. テクノネット久留米幹事あいさつ

テクノネット久留米幹事の藤田久留米高専産学民連携テクノセンター長から挨拶があった。

3. 機械工学科実験室の見学（15:00～16:30）

橋村久留米高専部門マネージャーから資料に基づき、平成24年度第1回テクノネット久留米ラボツアーについて説明があった後、次のとおり見学を行った。

(1)15:00～15:20 機械要素設計実験室（説明者：橋村准教授）

(2)15:20～15:30 CAD/CAE 演習室 （説明者：中尾准教授）

(3)15:35～15:55 機械工作工場 （説明者：石丸准教授）

(4)16:00～16:10 材料力学実験室 （説明者：原田教授）

(5)16:10～16:20 熱力学実験室 （説明者：田中准教授）

(6)16:20～16:30 流体工学実験室 （説明者：中武准教授）

4. 意見交換（16:45～17:15）

まず、産学民連携テクノセンター報を基に、久留米高専教員が自己紹介および研究内容紹介を行った後、会員から次の意見があった。①ラボツアーをきっかけとした共同研究を増やし、テクノネット久留米が会員外企業に認知されるようラボツアーを充実させていただきたい。②機械の操作方法等、実際に動いている様子を見たい。③テクノネット久留米を介して実施することになった共同研究については、報告できる範囲で会員に周知してもらいたい。

また、3次元CAD/CAE公開講座について質問があり、藤田センター長から久留米高専主催の公開講座とテクノネット久留米事業の違いについて説明があった。

5. 技術交流会（18:00～20:00）

ラボツアー後、会場を日吉丸（久留米市日吉町24-12 1F）に移し、テクノネット久留米会員等11名と久留米高専教職員9名で技術交流会を行った。

（出典：テクノネット久留米（総務課企画情報係））

資料A-1-②-6 (2/2)

平成24年度第1回テクノネット久留米セミナー報告

テクノネット久留米技術者育成事業として、第1回テクノネット久留米セミナーを3月11日(月)から18日(月)までの5日間で下記のとおり開催したことを報告いたします。

記

1. 材料力学

日 時：3月11日(月) 18時00分～19時30分
 講 師：原田 豊満 機械工学科教授
 演 題：「材料力学による強度問題の解決の実際」
 受講者数：13名

2. 機械加工

日 時：3月12日(火) 18時00分～19時30分
 講 師：和泉 直志 機械工学科教授
 石丸 良平 機械工学科准教授
 演 題：「機械加工分野1」「機械加工分野2」
 受講者数：18名

3. トライボロジー

日 時：3月13日(水) 18時00分～19時30分
 講 師：和泉 直志 機械工学科教授
 演 題：「トライボロジー」
 受講者数：6名

4. 流体力学

日 時：3月14日(木) 18時00分～19時30分
 講 師：中武 靖仁 機械工学科准教授
 演 題：「流体力学(環境エネルギー工学)」
 受講者数：7名

5. 熱工学

日 時：3月18日(月) 18時00分～19時30分
 講 師：田中 大 機械工学科准教授
 演 題：「熱工学」
 受講者数：8名

6. 参加者の感想

(1) 今回セミナーにおいてはお世話になりました。

5回全てに参加申し込みをしていましたが、都合により4回参加、1回は欠席させて頂きました。個人的には私自身が2月に行われたラボツアーに参加していなかったため加工機等の説明を頂いた際に、実際に実機を見学させて頂ければより理解が深まったかと感じました。

また、それ以外にも座学だけではなく、関連する機器や実験装置等を見学させて頂いたら、より分かりやすかったように感じました。夕方からの開催で、参加者皆さんがお疲れの時間帯でもありますので参加者の興味を惹くためにもそういう工夫があれば良いかと感じました。

全体的には非常に興味深く拝聴しましたので、今後も是非継続して開催して頂きたいと思います。

(2) 先日のテクノネット久留米セミナーに参加させて頂き、ありがとうございました。

私は機械工学については、学校で学んで無かった為、不安でしたが日常生活において起こる現象等分かりやすかったです。これからも是非セミナーに参加させて頂き、勉強してこれからの仕事に活かしていきたいです。

(3) セミナーの改善点につきましてですが そのテーマの参加者が仕事・研究で現在抱えている問題点があれば可能な範囲で事前に資料としてまとめ、参加者に配布し、改善方法など講師の方と議論出来たら更に有意義なものとなるのではと感じております。

また、セミナーとは別ですが、研究発表の一般公開などがありましたら参加してみたいと思います。今回の様な機会には積極的に参加したく思います。

(出典：テクノネット久留米(総務課企画情報係))

資料 A-1-②-7

共同研究数の推移

学 科	平成 20年度	平成 21年度	平成 22年度	平成 23年度	平成 24年度
機械工学科	5	5	4	6	4
電気電子工学科	1	1	1	1	2
制御情報工学科	1	0	0	1	1
生物応用化学科	8	7	5	1) 7	4
材料工学科	3	7	5	1) 4	4
教育研究支援室	0	0	0	0	1
合 計	18	20	15	1) 18	16

1) 2学科（生物応用化学科、材料工学科）で対応した共同研究（1件）があるため合計と一致しない。

（出典：総務課企画情報係資料）

資料A-1-②-8

平成24年度 共同研究テーマ一覧

No	研 究 題 目	契約の相手方
1	高齢者を対象とした機能回復訓練用の教材開発	特定非営利活動法人 サイエンスクリエイト
2	新規導電性包埋剤の開発	久留米大学
3	丸東産業(株)福岡工場のクリーン化 (一般細菌数、真菌数の低減化)	丸東産業(株)
4	船小屋温泉掘削事業の炭酸鉱泉への影響調査	筑後市
5	コールドスプレー搭載用小型燃焼器の開発	有限会社エスエスシー
6	バイオイメーjing用蛍光タグの開発に関する基礎検討	豊橋技術科学大学
7	バイオイメーjing用蛍光タグの開発に関する基礎検討	豊橋技術科学大学
8	金属ナノ粒子担持ポーラスチタニア薄膜の作製と光触媒特性	豊橋技術科学大学
9	高性能・高機能ソフトマテリアルの分子設計および材料設計	豊橋技術科学大学
10	製品開発における試作の高効率化	株式会社アグリス
11	設計教育向けマイクロ風力発電システムの開発とそれを利用した技科大一高専教育研究ネットワークの構築	長岡技術科学大学
12	マグネシウム合金製ボルトのゆるみ特性と疲労強度特性に関する研究	長岡技術科学大学
13	テラヘルツ分光によるフッ素エラストマーのフィラー分散性についての評価検討	ダイキン工業株式会社
14	ガス供給監視システム FONET 用機器の自立電源確保のための電源装置試作	福岡酸素株式会社
15	耐熱付き性能に優れたハイスロール材の開発	株式会社クボタ
16	めっき水洗水からの金属電解回収技術の開発及び回収金属の再利用に関する研究	石川金属工業株式会社

(出典：総務課企画情報係資料)

資料A-1-②-9

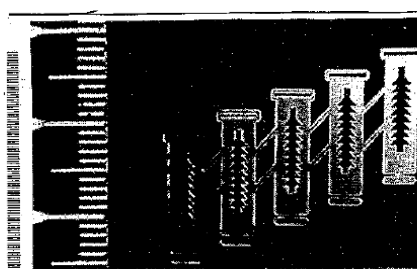
共同研究テーマ関連報道記事

日本経済新聞

2010年(平成22年)9月7日(火曜)

31 九州経済B

【第三種】



久留米大が開発した「ステント」の試作品。中央部の穴が特徴

炎症リスクを軽減

久留米大医療センターの臨床検査技師で医学博士の金原正昭氏が開発した。久留米工業高等専門学校(久留米市)と精密加工の北原ウエルテック(同)が協力、試作品を完成させた。

ステントは血管を押し広げて、血流を改善する医療器具で、一般的には金属製の網状の筒型構造。血管に挿入した後、

引っかかって戻らない「結束バンド」のような仕組みを採用。何枚ものシートを並べて連結することで、それぞれのシートを丸めると、全体で円筒状になるようにした。

試作品の素材には、生

久留米大

心筋梗塞など治療向け

生分解性の血管拡張器具

久留米大学(福岡県久留米市)は、心筋梗塞(こうそく)などで詰まった血管の治療向けに、生分解性素材製の血管拡張器具「ステント」を開発した。これまで生分解性素材では、強度の確保が課題だったが、独自の構造を採用することで克服した。一定期間後は体内で消滅するため、炎症のリスクを軽減できる。今後、動物実験で効果を確認、実用化をめざす。

筒の内側で風船を膨らませて展開、金属の固さで形を保つ。

金属製ステントは半永久的に患部にとどめ置かれるため、血管を傷つけて再び詰まりを起こす「再狭窄」につながる恐れがあるなどの課題があった。体内で溶けて分解する生分解性素材を使用すれば、炎症などのリスクは軽減されるが、素材として金属に比べ強度に劣る問題があった。

今年度中にも疑似血管

を使用した挿入試験や血液

液中での溶解性試験などを

開始。これらの試験データ

を基に動物実験などを

を行い、医療機器メーカー

との実用化をめざす。

(出典：日本経済新聞(平成22年9月7日))

資料A－1－②－10（1／2）

平成24年度第1回知的財産委員会議事要旨

日 時 平成24年6月28日（木）16時40分から17時20分
 場 所 産学民連携テクノセンター 2F 地域連携多目的室
 出席者 藤田知的財産委員長、越地専攻科主事補、橋村准教授、長田教授、松島准教授
 渡邊准教授、山本（郁）准教授、三原総務課長
 松本助教（発明者）
 欠席者 小宮准教授、宮本（泉）教授
 列席者 江島課長補佐、吉田企画情報係長、福田企画情報係員

審議事項

1. 発明等届の取り扱いについて（三次元測距装置）

藤田委員長から、機構知的財産権取扱規則第6条の規定に基づき、制御情報工学科松本光広助教より届出があった「三次元測距装置」の発明について、新規性、特許性、市場性等を審議願いたい旨依頼があった。次いで発明者である松本制御情報工学科助教から、資料に基づき発明の内容及び発明者としてのその評価等について、詳細に説明があった。

審議の結果、本件は職務発明であり、本委員会の評価は別紙評価書のとおりに特許性及び市場性の可能性も見込まれるとして、すみやかに高専機構本部へ発明等届を提出することとした。

なお、発明評価書（高専知的財産委員会用）については、各人記入の上企画情報係に提出し、集計結果を取りまとめることとした。

2. 保有特許の整理について

藤田委員長から、平成24年3月14日付け23機構企第196号保有特許の整理についてに基づき、機構に譲渡した特許について、本校の知的財産委員会で再評価を行うこととなり、過去3年間にわたって実施許諾の実績がなく、今後2年以内に実施許諾契約を締結する可能性が低い特許について、放棄もしくは譲渡の審議を行った結果以下のとおり取り扱うこととした。

（1）電動射出成形機の制御装置 元制御情報工学科教授 赤坂 則之（譲渡）

（2）海水淡水化蒸留装置、及び海水淡水化蒸留方法 （保有）

機械工学科准教授 中武 靖仁

機械工学科准教授 田中 大

（3）締付け力管理方法および締付け装置 （保有）

機械工学科准教授 橋村 真治

（4）ゴムの分解剤および分解方法 （保有）

生物応用化学科准教授 松田 貴暁

また、橋村委員から、譲渡された特許について維持経費の予算立てについて質問があり、後日メールにて回答することとした。

3. J S T特許化支援事業について

藤田委員長から、資料に基づき、独立行政法人科学技術振興機構知的財産戦略センターが行っている特許化支援事業について説明があり、特許主任調査員による特許相談等の支援を受けるために、確認書の取り交わし及び特許主任調査員の委嘱を行いたい旨の提案があり、審議の結果、これを了承した。

以 上

（出典：知的財産委員会）

資料 A-1-②-10 (2/2)

平成 24 年度第 4 回知的財産委員会議事要旨 (案)

日 時	平成 25 年 2 月 1 日 (金) 17 時 10 分から 17 時 50 分
場 所	産学民連携テクノセンター 2F 地域連携多目的室
出席者	藤田知的財産委員長、橋村准教授、松島准教授、渡邊准教授、山本 (郁) 准教授、三原総務課長、松本助教 (発明者)
欠席者	越地専攻科主事補、長田教授、小宮准教授、宮本 (泉) 教授
列席者	江島課長補佐、吉田企画情報係長、福田企画情報係員

審議事項

1. 発明等届の取り扱いについて (画像合成方法と装置)

藤田委員長から、機構知的財産権取扱規則第 6 条の規定に基づき、制御情報工学科松本光広助教より届出があった「画像合成方法と装置」の発明について、新規性、特許性、市場性等を審議願いたい旨依頼があった。次いで発明者である松本制御情報工学科助教から、資料に基づき発明の内容及び発明者としてのその評価等について、詳細に説明があった。

審議の結果、本件は職務発明であり、本委員会の評価は別紙評価書のとおり特許性及び市場性の可能性も見込まれるとして、すみやかに高専機構本部へ発明等届を提出することとした。

なお、発明評価書 (高専知的財産委員会用) については、各人記入の上企画情報係に提出し、集計結果を取りまとめることとした。

2. 日本弁理士会と九州沖縄地区国立高等専門学校との包括連携に関する協定書について

藤田委員長から、資料に基づき、平成 24 年 12 月 10 日に調印した「日本弁理士会と九州沖縄地区国立高等専門学校との包括連携に関する協定書」について説明があり、今後具体的な連携については、日本弁理士会九州支部と九州沖縄地区高専テクノセンター等長との協議で決定する旨の報告があった。

以 上

(出典：知的財産委員会)

観点A－1－③： 研究活動等の実施状況や問題点を把握し、改善を図っていくための体制が整備され、機能しているか。

（観点に係る状況） 本校では、従来から各教員の研究活動業績を、各学科の紀要編集委員が汲み上げ、校長を委員長とする紀要編集委員会にて集積した後、「久留米工業高等専門学校 紀要」に掲載し、内外に公開してきた（資料A－1－③－1）。共同研究や受託研究などの受け入れ状況については、産学民連携テクノセンターが掌握しており、また、新たな共同研究・受託研究の採択を目指して、平成21年度からテクノセンター報（別添資料A－1－③－2）を発行し、近隣企業などへの配布を行うなどの試みがなされている。さらに、学科長委員会及び教員会議などの機会を捉えて、校長及び教務主事より、科研費申請に採択されるような研究、本校全体あるいは複数学科が連携したプロジェクト的な研究、企業との共同研究などを活発に行うよう、周知が図られている。加えて、科研費の採択件数の増加を図るために、説明会を兼ねた事前研修会を実施している。本校の内部での科研費的な位置づけで、平成22年度より実施している校長裁量経費による「研究シーズ創出促進助成制度」（資料A－1－③－3）や、平成24年度からの、各学科の特色ある研究や（資料A－1－③－4）、文部科学省科学研究費補助金の不採択テーマについての支援（資料A－1－①－3）により科学研究費の件数が増加している（資料A－1－②－2）。

（分析結果とその根拠理由） 本校では、研究活動の実施状況や改善点を集約する体制は特に組織していないが、学科長委員会が、それらを集約する機能を有しており、内外への周知も紀要の発刊や産学民連携テクノセンターを通じて活発に行われている。現在では、教員会議が定期的に開催され、研究を活発化する取組や改善点を集約するといったことも継続的に議論されている。校長裁量経費の重点配分などの方策を有効に活用し、教員の研究推進の支援を推進している。

資料 A-1-③-1 (1/5)

久留米工業高等専門学校紀要編集委員会規則

[昭和 60 年 4 月 1 日制定]

第 1 条 この規則は、久留米工業高等専門学校紀要出版規則第 4 条第 2 項の規定に基づき、久留米工業高等専門学校紀要編集委員会（以下「委員会」という。）に関し必要な事項を定めることを目的とする。

第 2 条 委員会は、紀要の編集、刊行に関し必要な事項を協議する。

第 3 条 委員会は、次の各号に掲げる者をもって組織する。

- (1) 校長
- (2) 教務主事
- (3) 専攻科・教務主事補から各 1 名
- (4) 各専門学科から各 1 名
- (5) 一般科目から 5 名（数学、物理・化学、外国語、国語・人文及び体育部門からそれぞれ 1 名）
- (6) 学生課長
- (7) その他校長が必要と認めた者

第 4 条 前条第 3 号、第 4 号及び第 5 号の委員の任期は、2 年とする。ただし、再任を妨げない。

第 5 条 委員会の委員長は校長とする。

第 6 条 委員会に副委員長を置き、委員の互選によって定める。

第 7 条 委員会の事務は、学生課図書係で処理する。

第 8 条 投稿についての内規は、別に定める。

附 則

1 この規則は、昭和 60 年 4 月 1 日から施行する。

2 久留米工業高等専門学校研究報告編集委員会規則（昭和 46 年 4 月 1 日制定）は、この規則施行の日から廃止する。

附 則

この規則は、平成 13 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この規則は、平成 19 年 4 月 1 日から施行する。

（出典：久留米工業高等専門学校規則集）

資料A-1-③-1 (2/5)

第1回企画委員会 議事録

■日 時 平成24年4月16日(月) 17時00分から19時05分

■場 所 大会議室

■出席者 津田委員長、馬越教務主事、櫻木学生主事、江崎寮務主事、
原田機械工学科長、池田電気電子工学科長、江頭制御情報工学科長、中畠生物応用化学
科長、田中材料工学科長、福田一般文科学科長、山崎一般理科学科長、中武・中野・周・
金城各企画主事補、藤田産学民連携テクノセンター長、笈木学生相談室長、松崎事務部
長、三原総務課長、磯田学生課長

欠席者 松永専攻科主事

■審議事項

○平成24年度計画の策定について

委員長から、平成24年度年度計画(案)について審議する旨の発言があり、続いて、資料に基づき、項目ごとの確認を行い、次の意見が出された。

I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するために取るべき措置

1 教育に関する目標

(1) 入学者の確保

- ・④「新入生数学診断テスト、英語外部評価テストを引き続き実施する」旨の記載は、⑤に記載する方が適当である。よって、④の担当部署にある一般科目(理科)を削除する。

(2) 教育課程の編成等

- ・①、②の担当部署の掲載順については、内容から下記のとおりとした方がより適当である。

企画主事室

教務主事室

専攻科主事室

教育課程表等の改善検討専門部会

各学科

3高専連携推進担当者

総務課

- ・③の担当部署について、「各学科」の中には一般科目も含まれるため、「一般科目(文科・理科)」の表記を削除する。
- ・⑥の「本校教員に毎年「功労賞」を募集し、功績を認められた者に対して授与する」の記載については、より適切な表現に修正する。
- ・⑦の「国内在外研究員」の表記は、機構の表記に揃えて「国内外研究員」に修正する。また、担当部署に、総務課(人事・労務係)を追加する。

(4) 教育の質の向上及び改善のためのシステム

- ・①の「教育内容のデータベース化」については、電子システム化することのみではなく、蓄積さ

れた情報を活用すること全般を指すものである。

また、担当部署に、教務主事室を追加する。

- ・ ⑥の「九州大学総合理工学研究科と連携した専攻科インターンシップ」について、一般的にはインターンシップといえは企業における就業体験が主だが、機構本部の年度計画においても産学官連携によるインターンシップの実施が謳われており、就職先は一般企業に限られる訳ではない。

また、研究開発に携わる部署に就職することもあるので、大学等におけるインターンシップの体験は有意義なものであると考えられる。

本校におけるインターンシップの目的を明確にしておいた方が良い。

本日出された意見を、委員長から専攻科主事へ伝えることとする。

- ・ ⑨「高等教育コンソーシアム久留米へ参画し、「英語、数学、物理、化学、生物などのリメディアル e-Learning 教材の提供を受け、リメディアル教育に活用する。」については、まだコンソーシアムにおいて提供できる状況ではないので、削除する。

また、「教育用電子計算機システムの効果的な活用」を図ることから、担当部署に各学科を加える。

(5) 学生支援・生活支援等

- ・ ②中の「総合地域連携センター化構想ビジョンを促進する」の記載について、ここでは機構の年度計画において学生支援・生活支援等に関する計画となっているので、(6) 教育環境の整備・活用に入れた方が適切である。

(6) 教育環境の整備・活用

- ・ ②に「総合地域連携センター化構想ビジョンの促進」を加え、担当部署に総合情報センター及び図書館を加える。

4 管理運営に関する事項

- ・ ⑥の「情報セキュリティ対策」に関して、担当部署に情報セキュリティ管理委員会を加える。

以上の意見交換の後、本日出された意見を年度計画（案）に反映して校長に答申し、校長決裁のうえ機構本部へ提出すると共に、次回学科長委員会へ報告することとした。

(出典：平成 24 年第 1 回企画委員会議事録)

資料 A-1-③-1 (3/5)

第 2 回企画委員会 議事録

- 日 時 平成 24 年 10 月 25 日 (木) 16 時 50 分から 19 時 23 分
- 場 所 大会議室
- 出席者 津田委員長、馬越教務主事、櫻木学生主事、松永専攻科主事、
池田電気電子工学科長、江頭制御情報工学科長、中畠生物応用化学科長、田中材料工学科長、山崎一般理科学科長、中武企画主事補、中野企画主事補、周企画主事補、金城企画主事補、藤田産学民連携テクノセンター長、辻寮務主事補 (江崎寮務主事の代理)、山口学生相談室員 (笈木学生相談室長の代理)、松崎事務部長、三原総務課長、井手学生課長補佐 (磯田学生課長の代理)
- 欠席者 原田機械工学科長、福田一般文科学科長

■審議事項

(1) 平成 24 年度計画上半期進捗状況について

委員長から、平成 24 年度計画の上半期の進捗状況について、資料 1 に基づき各項目の説明が行われ、委員から次の意見が出された。

I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するために取るべき措置

1 教育に関する目標

(1) 入学者の確保

- ・ ⑤【一般理科】の新入生に対しての数学診断テストの実施について、毎年でなくてもいいので、テストの結果を公表し、情報を共有した方がいいのではないかな。

(2) 教育課程の編成等

- ・ ①、②【専攻科主事室】の専攻科棟の改修計画に合わせた環境整備について、専攻科棟改修工事は建築後 20 年以内で営繕要求ができないことから、「専攻科棟の改修計画に合わせた」は削除すべきである。
- ・ ④【教務主事室】の科目担当者間の授業参観について、これまでのところまだ実績報告がないので、先生方には是非実施をお願いしたい。
- ・ ⑤について、次のとおり訂正する。

第 45 回九州沖縄地区国立高等専門学校英語弁論大会 (プレコン)

→ (プレコン) を削除

(4) 教育の質の向上及び改善のためのシステム

- ・ ③の学校の枠を越えた学生交流活動に関連して、本校では一日体験入学やふれあい理工学展に学生を参加させて、自己の学習の成果を発する場として体験させている。このことについて、年度計画のどの項目に対応するか分からないが、記載することを検討した方がよい。
- ・ ⑧【生物応用化学科】の共同研究等について、松山准教授も共同研究を行っているので、確認していただきたい。

(6) 教育環境の整備・活用

- ・ ②の進捗状況欄の【教務主事室】は、【施設・環境委員会】に訂正する。

3 社会との連携、国際交流等に関する事項

- ・ ⑥－1の「シンガポール・テマセクポリテク」の表記を統一する。なお、この項目に限らず、全体的に表記の統一について見直す。

本日出された意見を踏まえ、進捗状況の修正・整理等を行うこととした。また、これをもとに機構本部への進捗状況の報告書を作成することとした。

なお、今年度より網羅的な報告を行うのではなく、機構本部の指定した事項について報告することに変更された旨の説明があった。

以 上

(出典：平成 24 年第 2 回企画委員会議事録)

資料 A-1-③-1 (4/5)

平成 24 年度 (第 1 回) 自己評価検討委員会議事録

1. 日 時 平成 25 年 3 月 13 日 (金) 9 時 30 分から 11 時 40 分
2. 場 所 大会議室
3. 出席者 津田企画主事、馬越教務主事、櫻木学生主事、江崎寮務主事、松永専攻科主事、原田機械工学科長 (代理：和泉教授)、池田電気電子工学科長、江頭制御情報工学科長 (総合情報センター長)、中畠生物応用化学科長、田中材料工学科長、福田一般文科学長、山崎一般理科学長、中武企画主事補、中野企画主事補、周企画主事補、金城企画主事補、笈木学生相談室長、松崎事務部長、三原総務課長、磯田学生課長

欠席者 藤田産学民連携テクノセンター長、酒井准教授

4. 審議事項

(1) 平成 24 年度年度計画の実績報告 (自己点検評価) について

委員長から、平成 24 年度年度計画に対する実績報告並びに自己点検評価について各担当部署より報告願いたい旨説明があり、次いで年度計画項目順に各部署から資料に基づき実績の報告説明、並びに自己評価が述べられた。審議の結果、別添資料のと通りの評価を行った。

なお、評価基準は次のとおり

- ◎ 達成
- ほぼ達成
- △ 取り組みが不十分で継続の必要あり
- × 取り組みが不十分で今後の継続については要検討

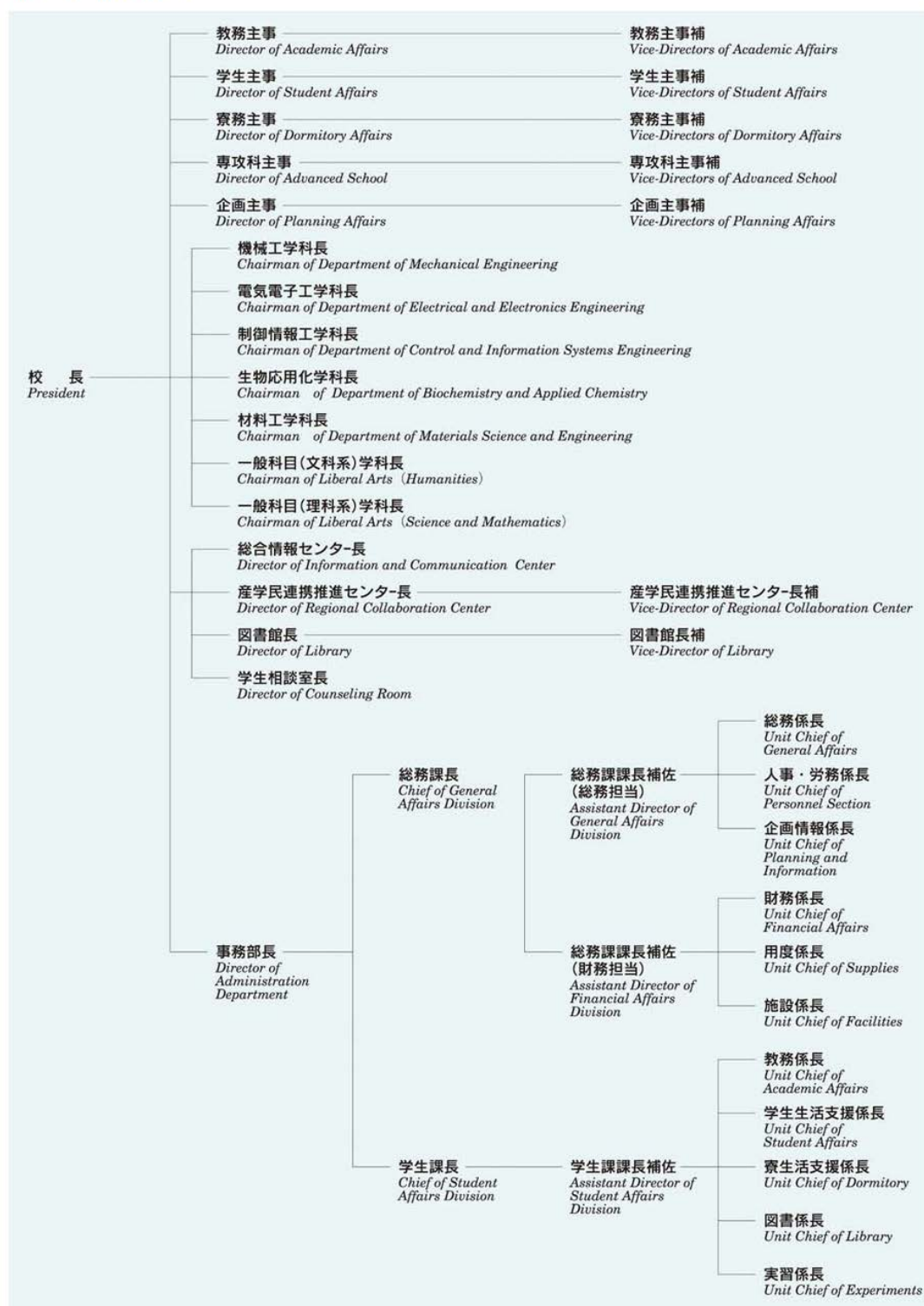
また、次のような意見・議論があり、今後の検討事項とされた。

- ・ 取り組み事項の記載のない学科の取扱いをどうするか。
- ・ 教育に関することの成果の達成度評価は難しいものがある。取り組みと評価を分けてはどうか。
- ・ 3 社会との連携、国際交流等に関する事項①-④の実績報告に、各学科の取り組み貢献を産学民連携テクノセンターで取り纏めるか、各学科特色ある活動を各学科個別に記載するよう改める。
- ・ 年度計画を作る段階で担当部署をきめているが、報告を上げる部署の工夫が必要である。
- ・ 年度計画の自己評価では概ね達成されている場合、学校として何が問題であるのか、何を変える必要があるのか。次期中期目標・中期計画をも見据え検討が必要。
- ・ 年度計画を達成可能かどうか、学校としての作戦・戦略を立てるべきで、次期企画主事室へ要望したい。

(出典：平成 24 年第 1 回自己評価検討委員会議事録)

資料A-1-③-1 (5/5)

久留米高専 組織図



(出典：久留米高専ホームページ)

<http://apollo.cc.kurume-nct.ac.jp/kikaku/Organization.html>

資料 A-1-③-3

平成 24 年 8 月 15 日

全 教 員 各位

校 長

平成 24 年度校長裁量経費の申請について（通知）

第 4 回学科長委員会（7 月 26 日開催）で各学科長へお知らせしましたが、本年度は下記により校長裁量経費の配分を行います。

配分を希望される場合は、それぞれの担当係宛てに、申請書類を紙媒体若しくは電子データ（メール送信）により、**平成 24 年 9 月 3 日（月）**までに提出してください。

記

（１）特色ある学科づくりの推進（一般科目（文科系、理科系）を含む。）

提出先 : 総務課課長補佐 藤川

e-mail : fujikawa@kurume-nct.ac.jp

- ・本校創立 50 周年（平成 26 年）に向けて、各学科の特色化を推進し、全高専の中でのオンリーワンの確立を図るための取組に対して経費を配分します。
- ・特色化のコンセプトと具体的な取組計画及び今年度必要経費（1 学科当たり 100 万円～300 万円程度）を別紙 1 に記入の上、各学科長を経由して提出して下さい。（各学科 1 件のみ）
- ・今回配分される取組については、継続的な理念の下で、平成 24 年度及び平成 25 年度においても当該取組を進めるための経費を、校長裁量経費により配分（配分額は各年度で検討して決定）することを考えています。
- （※本経費での取組期限は、平成 25 年度末となっております。）
- ・つきましては、前年度採択を受けた取組につきましても、その進捗状況を踏まえ、年度毎の計画と必要経費の見直しを行い、改めて申請していただきますよう、お願いいたします。
- ・事情により取組を中止し、或いは題目を変更するなど、新規に申請する事も可能ですが、その場合は理由書(様式任意)を添え事務担当まで連絡願います。
- ・学科内で薄く広く配分する取組よりは、特色のために重点化して配分する取組を優先的に考慮します。
- ・おって、申請の際は、平成 23 年度研究成果実績報告並びに本年 7 月末までの進捗状況を別紙 2 により報告願います。
- ・提出内容について、校長、5 主事及び事務部長の合議により検討の上、採否及び配分額を決定し、9 月の学科長委員会でお知らせします。
- ・取組内容については、適宜 HP 等により対外的に紹介することを予定しています。

(2) 研究シーズ創出促進助成

提出先 : 総務課企画情報係

e-mail : Pi-staff.GAD@ON.kurume-nct.ac.jp

- ・本校教員が、個人又はグループ（本校技術職員又は他機関の研究者等を含む。）で行う研究であって、本校の産学連携等に寄与できるもの、或いは学術的価値が高いもので研究シーズ創出の促進に寄与することが期待できる研究を採択します。
- ・昨年度校長裁量経費による助成を受けているプロジェクトは対象外とします。
- ・個人単独の申請に限らず、学科の枠を越えたプロジェクトなど複数人での申請についても対象とします。特に若手の研究者の積極的な応募を期待します。
- ・申請額は1件100万円を限度とし、備品又は消耗品で今年度中（平成25年3月まで）に購入（納品）可能なものとします。なお、備品等の購入については、参考となるカタログ、見積書等を添付してください。
- ・希望者は、申請書別紙3及びA4版1～2ページの補足資料（様式任意）を付け、研究の背景、これまでの実績、研究実施方法などを書いて提出して下さい。
- ・採択された研究成果については、「久留米高専紀要」、論文集「高専教育」又は各学協会に研究論文を投稿することを義務とします。
- ・提出された書類に基づき、校長、教務主事、専攻科主事、産学民連携テクノセンター長により審査を行い、結果は9月の学科長委員会でお知らせします。
- ・採択者は、事業終了後、別紙4により報告願います。

(3) 平成23年度不採択の科学研究費補助金申請分に係る研究への支援

提出先 : 総務課課長補佐 藤川

e-mail : fujikawa@kurume-nct.ac.jp

- ・今後の科研費申請へのインセンティブとなるように、平成24年度申請分で不採択となった科学研究費補助金に係る研究計画のうち、審査結果のおおよその順位が「A」（応募細目における採択されなかった研究課題全体の中で上位20%）とされた研究課題について、経費の配分を希望する場合は、1件当たり100万円（科研費申請額が100万円を下回る場合は申請額）を上限として、今年度に限り経費を配分します。（配分額は、校長、企画主事、教務主事の合議により検討の上、決定します。）
- ・希望者は、審査結果開示のコピーを添付の上、当該申請書のどの部分を実施する計画かを明らかにする簡単な説明及び配分希望額を記載した文書（様式自由）を提出して下さい。

※審査結果開示は、（独）日本学術振興会の科学研究費補助金事業電子申請システムの「応募者向けメニュー＞審査結果開示メニュー＞審査結果開示」のページで、あらかじめ開示を希望した申請者により確認できます。

※成果報告について

平成23年度において、上記経費の配分を受けた学科等におかれましては、成果報告書を平成24年9月3日（月）までに上記の担当まで、必ず提出してください。

（出典：平成24年総務課資料）

資料 A-1-③-4

					別紙 3
平成 24 年度校長裁量経費「研究シーズ創出促進助成」申請書					
					申請日 年 月 日
研 究 題 目					
申 請 者	氏 名				
	所属学科		職 名		
研究経費申請額（円）					
研 究 の 目 的					
研 究 内 容	1 ページ				
研究内容については、A4版1～2ページで研究の背景、これまでの実績、研究実施方法などの補足資料を付けて下さい。(様式任意)					
期 待 さ れ る 成 果					
本研究に参加する学内の教員及び職員とその役割	氏 名	学科／部署 ・ 職名	現在の専門	役割分担	
研 究 実 施 場 所					

(2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点) 産学民連携テクノセンターが設置されており、産学民連携テクノセンター棟が建設され、重点研究プロジェクトによる効率的な運用や、各種セミナーなどに活用されている。また、地域産業の発展に寄与することを目的に、テクノネット久留米が設置され、産学の研究交流、並びに久留米高専産学民連携フォーラムを開催している。

経費的な側面では、教員のより良い研究への支援や、学科の特徴を明確にするための援助をするため、校長裁量経費の重点的な配分を行っている。また、教員の指導によって、ロボットコンテストや飛行ロボットコンテスト、プログラミングコンテスト、エコランカー、デザインコンテスト、学生発表などにおいて本校学生が毎年優秀な成績を残しており、目的に沿った研究・教育活動の成果が上げられている。

(改善を要する点) 本校における外部資金獲得の状況については他機関に比して遜色ないレベルにあると評価できるが、知的財産の取得や、研究内容・研究成果の対外的アピールに関しては、今後さらに伸長する可能性を残している。ここ数年で研究者が大きく入れ替わる時期にさしかかっており、知財振興や研究情報公開の取組みをより一層進める必要がある。

(3) 選択的評価事項Aの自己評価の概要

久留米高専産学民連携推進センターが「地域社会への貢献」を目的に、平成12年4月、本校に設置され、平成22年4月には産学民連携テクノセンターとして再スタートを切った。また本校の教育・研究及び同センターを支援する組織として、地元企業、公的研究機関、久留米商工会議所及び久留米市役所から構成される「久留米高専産学民連携推進協力会」が平成13年6月に設立され、平成24年10月にはテクノネット久留米として発展的な新組織として再設立された。さらに本校の連携活動の協力・支援組織としては、久留米商工会議所各部会及び中小企業家同友会久留米支部が挙げられるが、平成23年度に包括的連携協定を締結した産業総合研究所九州センターや日本弁理士会九州支部など、久留米高専産学民連携フォーラムや交流会を通して、地域産業のニーズの把握並びに本校教員の研究シーズの発信を行うなど、連携活動のための情報交換を推進している。これらの改善活動が進められており、社会状況に対応した産学連携の在り方が、継続的に検討されるシステムとした運用されている。

平成15年度からは福岡県派遣のコーディネーター2名(久留米リサーチパーク所属)と、平成25年度からは本校に配属された産学民連携コーディネーターとの連携も図り、地域連携や共同研究に関する取組を一層強化するよう体制を整えた。このような取組の結果、産学民連携推進協力会の会員数は大幅に増加するとともに、企業ニーズに応える共同研究が実施されるなど、地域産業の技術開発や技術教育の振興を図っており、学生パテントコンテストの数次の入賞などの結果として表れている。

加えて、教員による教育指導の結果、ロボットコンテストやプログラミングコンテストなどにおいて、本校学生が毎年優秀な成績を残している。これらのことから、教員の研究活動は十分に高いレベルにあり、同時に教育研究の分野においてもそのレベルの維持・向上を達成する上で、十分に満足できるものであることを示している。

研究活動の実施状況や改善点を集約する体制は特に組織していないが、学科長委員会がそれらを集約する機能を有しており、内外への周知も紀要編纂委員会による紀要の発刊や、産学民連携テクノセンターによるテクノセンター報による校内技術情報の広報を通じて行われている。現在では、教員会議が定期的開催され、研究を活発化する取組や改善点を集約することも継続的に議論され、改善が

図られている。

（４）目的の達成状況の判断

目的の達成状況が良好である。

選択的評価事項B「正規課程の学生以外に対する教育サービスの状況」に係る目的

以下の活動を通して、地域社会への貢献、社会の多様なニーズに対応した教育サービスを行い、本校に対する社会の理解を得ることを目的とする。

1. 中学生を対象とした久留米高専オープンキャンパス（一日体験入学）を実施し、中学生が本校に一層興味をもてるように改善していく。
2. 大学等との単位互換制度を推進する。
3. 九州沖縄地区高専の専攻科学生を対象としたサマーレクチャーを実施する。
4. 地元企業や市民を対象とした公開講座を実施する。
5. 地元企業や他高専とのフォーラム、シンポジウムを開催する。
6. 科学技術に関する地域イベントに参加する。
7. 久留米市民大学講座、地元小中学校への理科教育、教員研修への出張講義を行う。

日本の教育上の課題となっている理科離れなどの課題に対し、高専と初等・中等教育の連携を進め改善を図るとともに、優秀な生徒の受験を促すための活動として1の目的を上げている。より広く科学技術への興味を高め、受験と共に入学後の総合的な科学技術教育の実践を、対象生徒のみならず社会に対してアピールすることを目指す。

2は高専での教員・教育設備の不足を、地域の大学などとの連携で改善していく取り組み。単なる単位互換から、多様な受講機会の創出をめざし、他大学との連携を一層深める。また高専での教育資源を他大学にも活用してもらうためのシステムの改善。

3は九州沖縄地区高専間での教育連携を進める取り組みについてである。特に夏休みを利用して開催するサマーレクチャーについては、他高専を牽引する姿勢で取り組み、他高専を含めた学生の学習機会の創出に尽力する。

本校の持つ高い技術教育力を、地域の産業界や市民に還元する目的として4をあげる。本校主催の講座から、地域自治体やコンソーシアムが企画運営するものまで、多様な学習機会の創出を目指している。

3、4での活動も踏まえ、総合的な教育イベントの開催運営に積極的に関わることを5の目的としてあげている。特に本校発祥のイベントもあることから、他高専や地域産業界を牽引する意識をもって事業を推進する。

1の目的にも関連するが、本校の科学技術資源を地域社会に還元する多様なイベントに積極的に参画する。ゴム産業の集積地として、からくり儀衛門で有名な田中久重の出身地としてなど、本校固有の技術資源も多く有しており、地域への貢献を能動的に進めることを6の目的としている。

以上の多様な活動への本校教員の積極的な参画を促すための目的として7をあげる。正規課程外の対象に対する教育サービスは、教員の能力向上にも寄与する活動であることから、より多くの教員の参加を促す運営を行う。

選択的評価事項B 正規課程の学生以外に対する教育サービスの状況

(1) 観点ごとの分析

観点B-1-①： 高等専門学校の教育サービスの目的に照らして、公開講座等の正規課程の学生以外に対する教育サービスが計画的に実施されているか。

(観点に係る状況) 高等専門学校設置基準第21条において、当該高等専門学校の学生以外の者への授業科目の履修を認め、単位の認定を行っている。また、学校教育法第69条において公開講座の施設を設けることができると規定されている。本校ではこれらを踏まえ、社会に開かれた学校として本校の持つ資産を活用し、これらのサービスに取り組んでいる。

1. 中学生を対象とした久留米高専オープンキャンパス(一日体験入学)を実施し、中学生が本校に一層興味をもてるように改善していく。(別冊資料・高専サイエンス支援ネットin九州沖縄 実践事例テキスト集Ⅲ)

中学生向けには、夏休み期間を利用し公開講座を実施してきた(資料B-1-①-1)。各専門学科の内容を講義・実習を通して理解をしてもらうことを目的にした「一日体験入学」が、開催されている(資料B-1-①-2)。「一日体験入学」では本校の専門5学科と一般理科の内容を時間割に沿って体験できるプログラムとして、専門分野ごとの研究内容や授業内容の違いを比較してもらえるよう配慮している。

これに加え、九州・沖縄地区の各高専が連携してこれらの事業を行うため「九州沖縄地区高専科学技術教育支援WG」が組織され、合意書を締結した(資料B-1-①-3)。この取組の中では、各高専では地区教育委員会や小中学校等との連携が進み、「サイエンス・パートナーシップ・プロジェクト(SPP)」事業・「地域の科学舎 地域活動支援」事業への応募や地域イベントへの積極的参加など、活動の質の向上を図ることができた(資料B-1-①-4)。

2. 大学等との単位互換制度を推進する。

本校は久留米市内にある久留米大学、久留米工業大学、久留米信愛女学院短期大学及び聖マリア学院短期大学と平成16年に「久留米市内大学等单位互換に関する協定書」(資料B-1-①-5、詳細は別添資料)を締結した。これにより、本校は専攻科の指定された科目にこれらの大学などに在籍する単位互換学生を「特別聴講生」として若干名受け入れている。

平成21年度からは久留米市単位互換協定校と久留米市が「大学教育充実のための戦略的大学連携支援プログラム」(連携GP)に採択され、久留米市内の5高等教育機関が、「より緊密な連携」の下で地域高度人材育成事業を推進するため「高等教育コンソーシアム久留米」が設立され、単位互換授業の教育サービスを展開している(資料B-1-①-7)。

3. 九州沖縄地区高専の専攻科学生を対象としたサマーレクチャーを実施する。

九州各高専合同の専攻科集中講義「九州高専サマーレクチャー」が平成15年8月に、久留米高専で初めて開催され、現在も続けられている(資料B-1-①-8)。このサマーレクチャーは、九州地区の専攻科学生が一堂に会して講義を受講するだけでなく、お互いの親睦と友情の輪を広げることが目的としたものである。これにより高専間の単位互換が可能になった(資料B-1-①-9)。

また、特定の専門事項に関して研究を志願する者に対しては研究生制度が、専門の授業科目について聴講を志願する者に対しては聴講生制度が、さらに所定の授業科目について履修を志願する者に対しては単位を修得できる科目等履修生の制度がそれぞれ設定されている(資料B-1-①-10)。

4. 地元企業や市民を対象とした公開講座を実施する。

本校の持つ設備やノウハウを利用して技術者や企業を支援するプロジェクトも実施している。従

来から実施してきた歯車加工講座は、全国からの受講者を受け入れてきたが、平成 17 年度より九州大学の中核人材育成事業の一環として加工実習を実施してきた。平成 24 年度からは、これを引き継いだ（社）日本歯車工業会 J GMA ギヤカレッジに参画し、基礎実習を担当している（資料 B-1-①-11）。

また平成 18 年度より「高専を活かした人材育成事業」として、久留米リサーチ・パーク・福岡県工業技術センターとの共催で行ってきた「ゴム加工技術者育成事業」では加工実習と講義を受け持ってきた。この事業は先端素材加工技術者育成事業「ゴム加工技術者人材育成講座」に引き継がれ、現在も共催するとともに、講師を派遣している（資料 B-1-①-12）。

また物質・材料系の技術者講座として、腐食防食協会九州支部との共催により、今年が 6 回目となる「腐食防食技術研修会」を実施している（資料 B-1-①-13）。

機械工学科においては、学生教育の高度化を目指し導入した solidworks を活用し、平成 18 年より公開講座「3 次元 CAD 導入コース～初心者のための 3 次元 CAD～」を実施してきた。平成 20 年度からは「CIMS を活用した機械要素設計と産学連携」が教育 GP として選定されたことをきっかけとして「CAE・CAM 講座」「3D-CAD 公差設計講座」に発展させている。その後、地域の技術者や教員、社会、企業、一般者を支援するために様々なセミナーや講演会を実施している（資料 B-1-①-14）。

加えて平成 23 年度から、手仕上げ加工技術での高い実績を持つ技術職員が着任したことから、教育技術支援室主導の「仕上げ作業技術講習会」を実施しており、教員・技術職員が能動的に地域の技術者教育に携わってきている（資料 B-1-①-15）。

これら以外に、様々な技術に関する話題・シーズを提供するため、平成 25 年 2 月に産学民連携テクノセンター主催の「テクノネット久留米ラボツアー」が、3 月には「テクノネット久留米セミナー」が開催された（資料 B-1-①-16）。これらの講座は九州大学や各学協会、福岡県や久留米市などの公共団体との連携により実施しているものであり、地域のみならず全国の技術者・研究者の支援に結びついている。

5. 地元企業や他高専とのフォーラム、シンポジウムを開催する。

他高専との連携事業としては、本校が立ち上げた九州沖縄地区高専フォーラム及び全国規模の高専シンポジウムが挙げられる。平成 3 年、久留米高専において「第 1 回久留米高専フォーラム」が開催された。これは九州地区の化学系高専教員の交流を盛んにし、教育・研究の活性化を目的としたものである。以降 3 年間は久留米高専においてフォーラムが開催され、第 4 回以降は担当を各高専の輪番として、名称も「九州沖縄地区高専フォーラム」と改称し今日に至っている（資料 B-1-①-17）。

主として専攻科学生が研究の成果を発表できる場として、「第 1 回西日本地区高専シンポジウム」が、平成 7 年、久留米市において開催された。第 2 回以降は全国規模の「高専シンポジウム」として学生の研究発表の場となっているばかりでなく、物質工学系に留まらず他分野へも拡大している（資料 B-1-①-18）。

6. 科学技術に関する地域イベントに参加する。

日本初の蒸気機関をつくった「からくり儀衛門・田中久重」の出身地として、久留米市主催の「なつかしの風景・筑後軌道」展や、久留米大学主催の「久留米の交通と鉄路」展に、田中久重の蒸気機関車再現模型を展示、実走させるイベントなどに積極的に参加している（資料 B-1-①-19）。

これら各種の取組は毎年実施され、案内や小冊子を関係機関に配布するほか、「久留米市広報」な

どへの案内記事の掲載やポスターによる広報を通し、各方面への周知に努めている。

また「イノベーション・ジャパン」「ものづくりフェア福岡」などの研究シーズの展示会等に積極的に参加し、科学技術振興と地域への技術貢献に寄与している。

7. 久留米市民大学講座、地元小中学校への理科教育、教員研修への出張講義を行う。

地域の生涯学習の一助として、様々なイベントに本校教職員・学生が参加し、生涯学習や教育支援などの地域貢献も行っている（資料B-1-①-20）。そのほか、地域の小中高校や各種団体と連携し、教員が専門性を活かして出前授業などを行っている。一例として、学生、市民を対象に特色ある市内の5高等教育機関が地域における「知の拠点」としての役割を果たし、教育研究力を向上させ、次代の地域の発展を担う中核的人材育成を図るとともに、知的・人的資源を生かしながら地域の活性化に貢献することを目指すため、平成21年12月からは「高等教育コンソーシアム久留米」が設立され、「共同講義」、「市民公開講座」、「かんきょうカレッジ」を行っている（資料B-1-①-21）。また例年11月には久留米市の生涯学習支援施設である「えーるピア久留米」において「マナビィランド」が開催され、子供たちへ科学の興味を持たせるための実験を中心としたイベントに5つの専門学科と一般理科から、TAとなる学生の協力を得ながら参加を続けている（資料B-1-①-22）。

高専間では毎年開催される「全国高専教育フォーラム」や「全国高専テクノフォーラム」などの発表展示会に参加し、教員を研修の一環として派遣している。

本校の施設に関しても広く一般に開放し、地域の教育や様々な催し及び生涯学習の場に提供している例として、図書館の一般市民への開放があり、蔵書などの貸し出しなどを行っている（資料B-1-①-23）。より一層市民に開かれた図書館とするため、平成24年8月より改修工事を行い、平成25年4月より供用再開した。これに先立ち、平成20年に、図書館や産学民連携テクノセンターなどをフェーズ1、工作実習工場や関連する専門学科実習施設をフェーズ2として、これらの機能を「総合地域連携センター（IRCOC）」として統合・整備し、地域連携、産学官連携を強化する体制づくりを進めている（資料B-1-①-24、詳細は別添資料）。平成25年8月からは工作実習工場及び関連施設の改修工事を行い、平成26年4月からの「ものづくりセンター」としての再稼働を目指している。

（分析結果とその根拠理由） 正規課程の学生以外に対する教育サービスが計画的及び積極的に実施されている。その内容、対象者は多岐に渡り、本校の教育研究の成果及び資産が広く社会に還元されている。

資料B－1－①－1

小中学生向け公開講座一覧(平成20年～平成24年)

区 分		講 座 名	実施時期	対象/人数	実施場所
H20	1	中学生向け公開講座「あなたも一日サイエンティスト」	平成20年7月31日・8月1日	中学生／24名	久留米高専
H21	1	中学生向け公開講座「あなたも一日サイエンティスト」	平成21年7月30日・31日	中学生／14名	久留米高専
H22	1	中学生向け公開講座「あなたも一日サイエンティスト」	平成22年7月29日・30日	中学生／20名	久留米高専
	2	中学生向け公開講座「エレクトロニクスサマースクール」	平成22年8月3日・4日	中学生／28名	久留米高専
	3	「ミニロボコン教室～オリジナルブルドーザーロボを作ってバトルしよう～」	平成22年8月7日	小学生・中学生／20名	福岡県青少年科学館
H23	1	中学生向けの公開講座「あなたも一日サイエンティスト」	平成23年7月27日～7月29日	中学生／20名	久留米高専
	2	中学生向けの公開講座「エレクトロニクスサマースクール」	平成23年8月2日～8月3日	中学生／25名	久留米高専
	3	中学生向けの公開講座「ソーラーカーを作ろう！」	平成23年8月4日～8月5日	中学生／20名	久留米高専
	4	小学生体験フェア～エブリバディ ゴー！くるめ子どもキャンパス！～「簡単なラジオ製作にチャレンジしよう」	平成23年12月11日	小学生・保護者等／約50名	コンソーシアム・サテライト
	5	小学生向け公開講座「いっしょに、作ってみよう！ラジオを組み立てよう」	平成24年3月24日	小学生・保護者等／名	久留米高専
H24	1	中学生向け公開講座「ソーラーカーを作ろう！」	平成24年7月25日～26日 平成24年8月7日～8日	中学生／20名 中学生／18名	久留米高専
	2	中学生向け公開講座「体験！数学ワンダーランド」	平成24年7月27日	中学生／46名	久留米高専
	3	中学生向けの公開講座「エレクトロニクスサマースクール」	平成24年8月2日～3日	中学生／24名	久留米高専
	4	小学生向け公開講座「いっしょに、作ってみよう！～ラジオを組み立てよう～」	平成25年3月23日	小学生・保護者／	久留米高専

(出典：総務課企画情報係資料)

資料B-1-①-2 (1/3)

平成24年度 久留米高専一日体験入学 (H24.8.20/21)

◎日 程 受 付 8時50分～ 9時20分 (機械・材料工学科棟エントランスホール)
開 講 式 9時20分～ 9時30分 (D 4 教室 (A～H)、 D 1 教室(I～L))
体験時間 9時45分～16時15分

時 間	9:45 ～10:30	10:45 ～11:30	11:30 ～12:30	12:30 ～13:15	13:30 ～14:15	14:30 ～15:15	15:30 ～16:15
グループ							
A	機 械 I	電 気 電 子 I	昼 食 (学生会説明)	制 御 情 報 I	生物応用化学 I	材 料 I	一 般 I
B	機 械 II	電 気 電 子 II		制 御 情 報 II	生物応用化学 II	材 料 II	一 般 II
C	電 気 電 子 I	制 御 情 報 I		生物応用化学 I	材 料 I	一 般 I	機 械 I
D	電 気 電 子 II	制 御 情 報 II		生物応用化学 II	材 料 II	一 般 II	機 械 II
E	制 御 情 報 I	生物応用化学 I		材 料 I	一 般 I	機 械 I	電 気 電 子 I
F	制 御 情 報 II	生物応用化学 II		材 料 II	一 般 II	機 械 II	電 気 電 子 II

時 間	9:45 ～10:30	10:45 ～11:30	11:45 ～12:30	12:30 ～13:30	13:30 ～14:15	14:30 ～15:15	15:30 ～16:15
グループ							
G	生物応用化学 I	材 料 I	一 般 I	昼 食 (学生会説明)	機 械 I	電 気 電 子 I	制 御 情 報 I
H	生物応用化学 II	材 料 II	一 般 II		機 械 II	電 気 電 子 II	制 御 情 報 II
I	材 料 I	一 般 I	機 械 I		電 気 電 子 I	制 御 情 報 I	生物応用化学 I
J	材 料 II	一 般 II	機 械 II		電 気 電 子 II	制 御 情 報 II	生物応用化学 II
K	一 般 I	機 械 I	電 気 電 子 I		制 御 情 報 I	生物応用化学 I	材 料 I
L	一 般 II	機 械 II	電 気 電 子 II		制 御 情 報 II	生物応用化学 II	材 料 II

◎教 室

機 械 I	CAD演習室(機・材棟2階)
機 械 II	機械要素設計実験室 (機・材棟 2 階)
電 気 電 子 I	総合実験室 (電気制御棟 3 階)
電 気 電 子 II	電子通信実験室 (電気制御棟 4 階)
制 御 情 報 I	制御情報実験室(電気制御棟 2 階東側)
制 御 情 報 II	E S 1 (3 S ホームルーム) 教室
生物応用化学 I	C 1 教室 (全体) ・ C 2 教室 (生化系)
生物応用化学 II	高分子第一・第二・有機機能化学・有機合成化学各実験室 (応化系) ・ C J (生化系準備室)
材 料 I	材料評価実験室(機・材棟 3 階 M J)、
材 料 II	AM 1 教室 (機・材棟、3 A 教室)
一 般 I	(文科) D 1 教室、(数学) 2 0 4 教室
一 般 II	(理科) (化学) 化学実験室、(物理) 物理実験室 (一般文科・理科棟 2 階 P J)

(出典：学生課教務係資料)

資料B-1-①-2 (2/3)

平成24年度一日体験入学授業内容の概要

機械工学科：機械Ⅰ、機械Ⅱ

皆さんは機械工学という言葉聞いてどのようなことを想像しますか？ 自動車やエアコンなど、皆さんの身のまわりには、たくさんの便利な機械があります。また工場では、ものづくりのために、多くのロボットが使われています。これらの機械は、現代の生活には欠かせないものです。また環境問題やエネルギー問題を解決して、より安全で快適な社会を実現するためには、これからこれまで以上にいろいろな機械が必要になります。機械工学は、このような機械を作ったり効率よく運転したりするために必要な学問で、工学のなかでも主要な分野の一つです。

機械などのものづくりには、

1. 作りたいものを設計図に描き、これを機械で加工する (設計・加工)
2. 小型・軽量でしかも壊れない強さにする (材料力学)
3. ロボットなど、機械を自在に操る (制御工学)

4. 自動車のエンジンなど、熱エネルギーから動力を生み出す（熱流体工学）などが必要となります。

今日は、機械工学の基礎について、体験を通して楽しく勉強しましょう。

電気電子工学科：電気電子Ⅰ、電気電子Ⅱ

電気電子技術は、産業・交通・電気エネルギー・情報・通信・医療・家電などのあらゆる分野を支えています。私たちの学科ではこのような分野で活躍出来る技術者を育てるため、実験、実習に多くの時間を当てています。

この体験入学では、1年生の授業「電気電子工作実習」の一部を取りあげます。内容は2種類あり、グループの人と協力してチャレンジします。一つはPICと呼ばれるマイクロコンピュータを使って音楽を演奏するものです。まず半田付けを行って回路を作成します。次に、楽譜のデータをパソコンに入力し、ほんの豆粒ほどのPICにこれを書き込めば完成です。“さくら さくら” や “翼を下さい”、を PIC 回路に演奏させましょう。楽譜データを変えれば他の曲も演奏できます。

二つ目はネオジウム磁石という強力な磁石を使って、ワイヤーモーターと呼ばれるとても簡単なモーターを作る実習です。原理は中学校で習ったフレミングの左手の法則の応用で実習の中で詳しく説明します。手先の器用さが必要ですが、高専の優しいお兄さんやお姉さんが手伝ってくれます。

他にも音声の変換、レーザーによる一筆書き、アラゴの円盤、超音波による不思議な音場形成、磁性体の着磁などいろいろなデモンストレーションを体験してください。

制御情報工学科：制御情報Ⅰ、制御情報Ⅱ

本学科では、国語、数学、理科、社会、英語、芸術外を基礎として、対象物の計測や制御のためのメカトロニクス（メカニクス：機械、エレクトロニクス：電気・電子）技術、および情報の収集や加工、伝達のための ICT（情報通信技術）について学びます。

本日の授業では、本科3年後期で行った、自走式ロボットカーの実験を体験します。パソコン上で走行のためのプログラムを主にマウスを使って組み、組んだプログラムをロボットカーに転送し、実際にロボットカーを走行させます。各人でいろいろな走行のアイディアを出し、工夫し、チャレンジし、実現してください。

また、倒立振子の制御や手製の4ビットCPU（中央処理装置）など、現在実際に授業や実験、卒業研究などで行っている内容を、デモンストレーションもしくは展示します。先輩である学生や先生の説明を聞き、わからないことはどんどん質問して、制御情報工学科を存分に体験していただきたいと思います。

生物応用化学科：生物応用化学Ⅰ、生物応用化学Ⅱ

化学と生物は、私たちが日々生活していく上で必要不可欠なものです。私たちが普段何気なく手にしたり、食べたりするモノすべてが、化学や生物の技術を基にして作られているといっても過言ではありません。本一日体験入学では、2個のテーマを通して「化学」「生物」の奥深さ・面白さを実感してもらいます。（生物応用化学Ⅰ、Ⅱは同じ内容で、生物化学と応用化学の両コースとも体験できます。）

中学生の皆さんは、ホタルやヤコウタケが発する綺麗な光を見たことがありますか？これらは発光現象と呼ばれ、化学と生物の偉大な力により生じています。現在では、この発光は「ガン腫瘍等の検出」や「テレビ・パソコン等の色表示」に広く展開されています。生物化学コースでは、この不思議な「発光」に触れてもらうために、血痕捜査で実用化されている「ルミノール発光」や、ホタルの酵素を用いた「ルシフェラーゼ発光」の実験を体験します。

応用化学コースはナイロンの合成実験を行います。ナイロンは、1940年にアメリカのデュポン社によって開発された人類史上初の合成繊維「石炭と空気と水から作られた、蜘蛛の糸より細く鋼鉄より強い合成の絹！」です。本格的な化学合成の実験設備を備えた生物応用化学科の実験室で実際にナイロンの糸を合成する実験を行います。2つの薬液の界面に生成する「もやもやしたもの」を引っ張ると、あら！不思議！ナイロンの糸の出来上がりです。

材料工学科：材料Ⅰ、材料Ⅱ

私たちは、鉄、アルミニウム、銅、マグネシウム、ガラスなど数多くの「材料」に囲まれて生活しています。紀元前より人類は、木や石、金属などの材料を自在に使いこなし、時代の要請に応じて、次々に新しい材料を開発してきました。例えば、超高層ビル、スポーツカー、新幹線のぞみ号、超音速飛行機、宇宙ロケット、大型豪華船などを作ってきました。現在では、「材料工学」は、コンピュータ用半導体や燃料電池用電極のような、最先端の技術を支える重要な学問分野となってきました。今回の一日体験入学では、「金属材料」や「セラミックス材料」の基本構成単位である結晶の観察、溶けた材料が固まる凝固の観察、温度を利用した発電など材料の不思議な現象を体験して下さい。

一般科目：一般Ⅰ、一般Ⅱ

高専の3年までは、高校と同じように国語、数学、物理、化学、英語、倫理、世界史、日本史、保健体育等の基礎科目があります。久留米高専では、受験にとらわれなくて、広い視野と豊かな心をはぐくむことは大変大切なことだと考え、これらの科目を重視しています。また、数学や自然科学の基礎知識は、優れた技術者となるために欠くことはできません。

具体的な内容は、各グループによって異なりますが、一般科目を中心に高専で学ぶことについて、物理や化学の実験を含めて説明します。

(出典：学生課教務係資料)

資料B-1-①-2 (3/3)

一日体験入学参加者数一覧(平成20年～平成24年度)

年度		H20	H21	H22	H23	H24
中学校数 [校]		143	152	147	152	165
参加人数 [人]	1 日目	256	288	300	294	291
	2 日目	196	287	300	294	279
	計	452	575	600	588	570

(出典：学生課教務係資料)

資料B-1-①-3

「科学技術教育支援」に関する合意書

九州沖縄地区高専 科学技術教育支援 WG

1. 趣 旨

科学技術は我が国を支える柱であり、このための人材育成に力を注ぐことは教育の重要な課題のひとつである。しかし、近年、小中学校での「理科離れ」が強く指摘されながら、効果的な施策が組織的・重点的に実施されているとは言い難い状況にある。これは、高専教育全体にとっても大きな問題であり、独自に何らかの努力を払う時期に来ている。

子供たちが科学技術に興味を持つためには、小中学校等の授業の中で「実験」「実習」を導入することが効果的であると考えられるが、現実には「適当な器具がない」「時間と手間がかかる」「一人でやるのは大変」等々の理由で敬遠されているのが実情であり、こうした現場の先生方を積極的に支援していくことが極めて有効であると考えられる。

高専教育は、従来から「ものづくり」を基盤とした実践的教育を目指しており、こうした「科学技術教育支援」に貢献できる大きな可能性をもっている。特に、九州沖縄地区では、少子化が進み、理科教員の確保が困難な小中学校も増えており、国立高専 10 校が組織的に連携して、こうした支援活動を行うことには大きな意義がある。

本 WG の参加校は、こうした現状を十分に認識し、従来からの各校での支援実績を活かしつつ、協力・連携して「科学技術教育支援」活動に取り組むこととする。

2. 活動内容

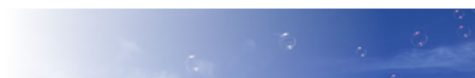
今年度発足した本WGは、九州沖縄地区校長会の同意を得て、「科学技術教育支援」という枠組みのもとに、以下の活動について協力・連携する。

- a) 本 WG の名称を「九州沖縄地区高専 科学技術教育支援 WG」として活動する。
- b) 活動の目標は、九州沖縄地区高専での連携した科学技術教育支援体制づくりであり、これを軌道に乗せるため、今後 5 年を目途にその基盤作りをめざす。
- c) このために、本 WG 会議を少なくとも年 1 回実施し、WG 長を選任して、本活動を継続していくためのネットワークを維持する。
- d) 各校で実施している支援活動（理科実験授業、工作教室、器具貸出、科学フェア等への出展、教員研修、その他）の実績をさらに積み上げながら、これらの活動についての情報交換を行い、相互の活動の充実を図る。
- e) これらの活動を、九州沖縄地区全体に 広く紹介していくためのパンフレット 作りを共同で取り組む。（来年度には暫定版を作成）
- f) 各校で、これらの活動に教員全体の理解が得られ、教育支援が高専全体の役割として認識され、参加協力者が増えていくように努力する。

出典：「科学技術教育支援」に関する合意書

資料B-1-①-4

高等教育コンソーシアム久留米における教育支援活動

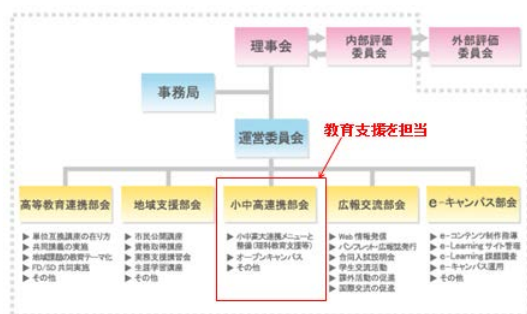


久留米高専 越地尚宏(こしじなおひろ)
(コンソーシアム 小中高連携部会 部会)

参加機関



高等教育コンソーシアム久留米の組織構成



活動実績 教員研修(2)

中学校教員向け実習講座「筑後川の水環境について学ぼう」
—自然環境と水利用についての講義と実習—



講師による講演



水の硬度の測定実習

高等教育コンソーシアム久留米とは

- 久留米市内の5高等教育機関が、「より緊密な連携」の下で地域高度人材育成事業を推進するため「高等教育コンソーシアム久留米」を形成
- コンソーシアムは地域の『知』の創造主体として、単位互換や公開講座など既存事業の組織化・高度化を図ることを目的とする。

高等教育コンソーシアム久留米
(サテライト・キャンパス)

研修室

久留米大学 11
G02B4C01 142

パソコン研修室



活動実績(1) 教員研修

中学校教員向けの放射線講座を開催



講師による講演



自作の霧箱実験と「はかるくん」による放射線測定実習

活動実績 出前授業

「八女市立筑南小学校」にて出前授業を開催



久留米市立筑南小学校にて出前授業を開催



活動実績 久留米市理科センターとの共催事業



出前実験講座やロボットの実演



共同で実施した
小学生向けイベント

くるめ子どもキャンパス

サテライトキャンパスを
会場に各校がイベント
(実習教室や体験型イベント)を
実施

子供キャンパスの様子



その他のコンソーシアムの活動例



今後の展望と課題

- ・ 今までは理科・技術教育支援が先行
- ・ 今後は各構成大学・高専の特色を生かして
文系科目・分野等での支援も視野に
(例: 教員研修
新指導用要領に対応した英語教育に
関するワークショップの開催など)

(出典：平成 24 年度高等教育コンソーシアム久留米・事業報告書)

資料B-1-①-7

平成24年度前期開講科目一覧

区 分	科 目 名	単位数	開講時期	担当教員	受入人数	曜 日	時 限	講義室名
一般科目	工学倫理	2	2年前期	藤木 篤	5	水	1	T2
前期:1科目								
専門基礎科目	地球環境と現代生物学	2	1年前期	中武靖仁/中島裕之	5	月	1	A3
前期:5科目	現代物理学	2	1年前期	谷 太郎	5	金	1	A3
	応用数理Ⅰ	2	1年前期	菰田 智恵子	5	水	1	A3
	応用数理Ⅲ	2	2年前期	川嶋 克利	5	火	2	T2
	物性化学	2	1年前期	辻 豊	5	金	2	A3
専門科目(機械・電気システム工学専攻)	弾塑性力学	2	1年前期	原田 豊満	5	水	2	機械要素設計実習室
前期:11科目	生産加工学	2	2年前期	和泉 直志	5	火	3	A1
	計算力学	2	2年前期	中尾 哲也	5	木	3	A3
	メカトロニクス工学	2	2年前期	綾部 隆	5	月	2	A2
	デジタル制御	2	1年前期	江頭 成人	5	木	2	A3
	コンピュータグラフィックス	2	2年前期	黒木 祥光	5	木	1	A1
	パターン認識	2	2年前期	丸山 延康	5	火	1	A3/SJ/A4
	形式言語とオートマトン	2	1年前期	小田 幹雄	5	火	1	C4
	光エレクトロニクス	2	2年前期	平川 靖之	5	金	1	A1
	デジタル信号処理	2	1年前期	池田 隆	5	火	2	A1/A4
	プラズマ工学	2	2年前期	宮崎 浩一	5	金	2	A1
専門科目(物質工学専攻)	有機反応化学	2	1年前期	石井 努	5	木	2	C2
前期:10科目	有機構造化学	2	2年前期	津田 祐輔	5	月	2	C3
	生体物質化学	2	1年前期	炭木 宏和	5	水	2	C4
	化学工学特論	2	2年前期	泉本 英次	5	木	3	A1
	分子生物学	2	2年前期	中島 裕之	5	金	1	A2
	応用物理化学	2	2年前期	梶 隆彦	5	金	2	A2
	機能性無機材料学	2	1年前期	濱上 寿一	5	月	2	A1
	半導体材料	2	1年前期	奥山 哲也	5	火	1	A1
	材料組織制御	2	2年前期	山本 都	5	火	1	A2
	高温強度学	2	2年前期	周 致霆	5	木	1	A2

平成24年度後期開講科目一覧

区 分	科 目 名	単位数	開講時期	担当教員	受入人数	曜 日	時 限	講義室名
一般科目	環境倫理学	2	1年後期	藤木 篤	5	月	1	A3
後期:1科目								
専門基礎科目	応用数理Ⅱ	2	1年後期	菰田 智恵子	5	水	1	A3
後期:5科目	量子力学	2	1年後期	越地 尚宏	5	木	2	T2
	応用情報処理	2	1年後期	松島 宏典	5	水	3	K1
	画像工学	2	1年後期	黒木 祥光	5	月	2	A3
	統計力学及び熱力学	2	2年後期	篠島 弘幸	5	火	1	C3
専門科目(機械・電気システム工学専攻)	破壊力学	2	1年後期	橋村 真治	5	水	2	A1
後期:8科目	応用流動工学	2	1年後期	中武 靖仁	5	月	3	A1
	移動現象論	2	1年後期	松永 崇	5	金	2	A1
	設計システム工学	2	1年後期	藤田 雅俊	5	火	2	A1/T2
	システム制御工学	2	1年後期	江頭 成人	5	金	3	A1
	データベース	2	1年後期	中野 明	5	火	1	A1/K2
	応用電磁気学	2	1年後期	平川 靖之	5	木	1	A1
	集積回路工学	2	1年後期	長田 芳裕	5	木	3	A1
専門科目(物質工学専攻)	生体機能分子学	2	1年後期	中島 裕之	5	火	1	A2
後期:7科目	機能有機材料特論	2	1年後期	津田 祐輔	5	水	2	C4
	高分子材料特論	2	1年後期	津田 祐輔	5	火	2	C2
	構造材料学	2	1年後期	川上 雄士	5	月	3	A2
	腐食防食工学	2	1年後期	田中 慎一	5	木	1	A2
	材料強度学	2	1年後期	笹栗 信也	5	火	3	A2
	表面処理工学	2	1年後期	矢野 正明	5	木	3	A2

(出典：学生課教務係資料)

資料B－１－①－８

サマーレクチャーのテーマ・担当学科一覧

年度	開催校	期間	テーマ	担当学科
24	久留米高専	8/6-8/10	マルチメディア表現と技術	制御情報工学科
23	久留米高専	8/22-8/26	ものづくりの現場から	機械工学科
	熊本高専 八代キャンパス	9/5-9/9	パソコンを利用した計測制御システム	
22	久留米高専	7/26-7/30	最新の計測技術とセンシング応用	電気電子工学科
21	久留米高専	8/17-8/21	専攻科生に求められるバイオテクノロジーファン ダメンタルズ	生物応用化学科
	久留米高専	8/3-8/7	低環境負荷社会実現に向けてのアルミニウム の利用技術	材料工学科
	八代高専	8/10-8/14	第2回 初級英語学習者のための TOEIC 講座	
20	八代高専	8/18-8/22	バイオテクノロジーと生物資源の有効利用	
	有明高専	8/18-8/22	レーザとその応用特講	
	久留米高専	8/4-8/8	光・エネルギー・環境関連材料の最前線	材料工学科

(出典：テクノネット久留米（総務課企画情報係))

資料B-1-①-9 (1/2)

平成24年度 機電系サマーレクチャー

(制御情報工学科主催)

平成24年5月31日

【目 的】コンピュータ技術・情報処理技術と通信技術の発展と融合により、我々を取り巻く社会はマルチメディア社会に大きく変容してきた。デジタル化された情報は表現が多様化になり、又情報の取り扱い技術も目覚ましい進歩を成し遂げている。本レクチャーではマルチメディアの情報表現、基礎・応用技術や最新の研究を解説する講演、見学会を開催し、専攻科生のマルチメディア表現と技術に対する専門知識の向上を図る。

【セミナー題目】「マルチメディア表現と技術」

【学生数】情報工学の基礎知識を持つ専攻科1, 2年生 35名程度

【講 師】久留米高専攻科の制御情報工学関連教員及び外部講師

【単位の認定】久留米高専で成績評価する。単位の認定については各高専の規則に従う

【期間及び実施場所】 期間：平成24年8月6日(月)～8月10日(金)

場所：専攻科大講義室・情報システム実験室・パソコン室・安川電機行橋工場

工場見学：福岡県行橋市安川電機行橋工場

【宿 泊】久留米高専 筑水寮(男子学生)、つつじ寮(女子学生)(人数制限あり)

〔 日 程 〕

区 分	8月6日(月)	8月7日(火)	8月8日(水)	8月9日(木)	8月10日(金)
1 限	9:00～9:50 受講手続き 10:00 開講式 (A3) 制御情報工学科 学科長 江頭 教授	「画像処理技術を用いた高度道路交通システムへの取り組み」 (SJ) 制御情報工学科 松島 准教授	工場見学 (貸切りバスを利用) 9:00～9:30 概要説明 川口 教授・松本 助教	「マルチメディアの基礎技術-デザインパターン」 (K2) 制御情報工学科 中野 准教授	「マルチメディアを利用したeラーニング」 (A3) 制御情報工学科 熊丸 准教授
2 限	「マルチメディア処理の基礎と応用」 (A3) 制御情報工学科 丸山 教授	「コンピュータによるデジタル制御の応用例」 (SJ) 制御情報工学科 江崎 教授	9:50 集合 10:00 出発 12:30 安川電機行橋工場着	「ブラインド信号分離による信号推定法」 (D3) 制御情報工学科 小田 准教授	「産業用多関節型ロボットの遠隔制御」 (A3) 制御情報工学科 江頭 教授
3 限	「仮想空間の設計と活用」 (A3) 九州大学大学院芸術工学研究院・総合研究博物館館長 竹田 仰 教授	「ハードウェアを並列動作させるためのストリーム処理とコンピュータビジョン」 (A3) 長崎大学大学院 小栗 清 教授	13:10～14:30 工場見学 (福岡県行橋市安川電機行橋工場) 14:30 安川電機行橋工場発	「身体的行為を積極的に利用した教育支援システムの開発とその運用例」 (A3) 筑波大学大学院 山下 淳 講師	12:30 開講式
4 限		「パターン情報処理とその応用」 (A3) 長崎大学大学院 喜安 千弥 教授	16:30 帰着	「3Dグラフィックスによる剛体の力学シミュレーション」 (K2) 制御情報工学科 綾部 教授	

1 限 8:40～10:20 2 限 10:30～12:10 3 限 13:00～14:40 4 限 14:50～16:30

(出典：学生課教務係資料)

資料B-1-①-9 (2/2)

平成24年度 久留米工業高等専門学校

専攻科 機械・電気システム工学専攻

電気電子工学コース 1年

シラバス(授業計画)

科目名	制御情報工学特論			シラバス コード	6E28	担当教員		江頭成人			
期間	前期	授業 形態	集中講義	授業 時数	30	必修 選択	選択	一般 専門	専門	単位数	2
授業の目的											
平成15年度から九州高専間の特別聴講学生制度に基づく単位互換科目として、サマーレクチャーと銘打ち、本校を中心に夏休み期間中1週間2単位の集中講義を実施している。その目的は、各高専の特徴を活かした専門特論を少人数の専攻科学生を対象に広く深く教授し、特化専門分野の高度技術の修得、今日最先端技術についての実際の技量の修得、および専攻科学生の相互交流である。											
到達目標										JABEE プログラム目標	
1. 該当する分野の専門技術に関する知識を修得し、それらの問題解決に応用できる能力を養う。 2. 日本語による論理的な記述力、口頭発表力、討議などのコミュニケーション能力を養う。 3. 自主的、継続的に学習できる能力を養う。										D,E,G	
学習内容											
コンピュータ技術・情報処理技術と通信技術の発展と融合により、我々を取り巻く社会はマルチメディア社会に大きく変容してきた。デジタル化された情報は表現が多様化になり、また情報の扱い技術も目覚ましい進歩と成り遂げている。本レクチャーでは、マルチメディアの情報表現、基礎・応用技術や最新の研究を解説する講演、見学会を開催し、専攻科生のマルチメディア表現と技術に対する専門知識の向上を図る。											
教材および参考図書											
授業内容をまとめたテキスト、資料など											
授業の進め方と履修上の注意											
講義、演習、実習、実験、見学会などにより実施される。											
評価方法											
各担当講師がレポート、演習課題などを評価する。 再試験は必要に応じて行う。 評価基準：60点以上を合格とする。											

資料B-1-①-10 (1/3)

久留米工業高等専門学校聴講生規則

(目的)

第1条 この規則は、久留米工業高等専門学校学則第42条の規定に基づき、久留米工業高等専門学校聴講生（以下「聴講生」という。）に関し、必要な事項を定めることを目的とする。

(入学資格)

第2条 聴講生として入学することができる者は、高等学校を卒業した者、又はこれと同等以上の学力があると認められる者とする。

(入学の出願手続き)

第3条 聴講生として入学を志願する者は、所定の入学願書に次の各号に掲げる書類及び検定料を添えて、入学時14日前までに校長に願い出なければならない。

(1) 履歴書

(2) 前条の資格を証明しうる書類

(3) 健康診断書

(4) 志願者が現に職を有しているときは、勤務先所属長の承諾書

(入学許可)

第4条 志願者の入学については、校長が適当と認めた場合にこれを許可する。

2 入学を許可された者は、許可されたときに所定の誓約書を提出しなければならない。

(入学の時期及び聴講の期間等)

第5条 入学の時期は、学期の始めとする。ただし、特別の事情があるときはこの限りでない。

第6条 聴講は、原則として週5科目以内とする。ただし、実験及び実習は認めない。

2 聴講期間は、原則として1学期又は1ケ年とする。ただし、当該年度を越えることはできない。

3 聴講期間の延長を希望する場合は、所定の聴講期間延長願書に、延長希望者が現に職を有しているときは、勤務先所属長の承諾書を添えて校長に願い出なければならない。

4 聴講期間の延長は、校長が許可する。

(検定料、入学料及び授業料の額)

第7条 検定料、入学料及び授業料の額は、独立行政法人国立高等専門学校機構における授業料その

他の費用に関する規則（独立行政法人国立高等専門学校機構規則第35号）（以下「規則」という。）に定める額とする。

(入学料及び授業料の納付)

第8条 入学料は、入学を許可されたときに納付しなければならない。

2 授業料は、聴講期間に相当する額を聴講当初の月に納付しなければならない。ただし、聴講期間が後期にまたがるときは、後期分の額は、その当初に納付するものとする。

(検定料等の還付)

第9条 既納の検定料、入学料及び授業料は還付しない。

(聴講生の除籍等)

第10条 聴講生が、聴講期間中やむを得ぬ理由で聴講を中断する場合、又は聴講を中止する場合は、校長の許可を得なければならない。

2 校長は、聴講生がその本分に反する行為があったとみとめられたときは、除籍することができる。

附 則

この規則は、昭和56年 4月30日から施行する。

附 則

この規則は、昭和57年 4月 1日から施行する。

附 則

1 この規則は、昭和58年4月 1日から施行する。

2 昭和58年度の入学に係る検定料の額は、この規則による改正後の久留米工業高等専門学校聴講生規則第7条の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則

この規則は、昭和59年 3月31日から施行する。

附 則

この規則は、平成19年 4月 1日から施行する。

(出典：久留米工業高等専門学校規則集)

資料B-1-①-10 (2/3)

久留米工業高等専門学校科目等履修生規則

(平成 4 年 9 月 17 日制定)

(目的)

第1条 この規則は、久留米工業高等専門学校学則第42条の規定に基づき、久留米工業高等専門学校科目等履修生（以下「科目等履修生」という。）に関し、必要な事項を定めることを目的とする。

(入学資格)

第2条 科目等履修生として入学することができる者は、高等学校を卒業した者又はこれと同等以上の学力があると認められる者とする。

(入学の出願手続き)

第3条 研科目等履修生として入学を志願する者は、所定の入学願書に次の各号に掲げる書類及び検定料を添えて、入学時14日前までに校長に願い出なければならない。

(1) 履歴書

(2) 前条の資格を証明しうる書類

(3) 健康診断書

(4) 志願者が現に職を有しているときは、勤務先所属長の出願承諾書

(入学許可)

第4条 志願者の入学については、書類選考のうえ校長が適当と認めた場合にこれを許可する。

2 入学を許可された者は、入学時までに所定の誓約書を提出しなければならない。

(入学の時期)

第5条 入学の時期は、学期の始めとする。

(履修の期間)

第6条 履修の期間は、1年以内とし当該年度を超えることはできない。

2 履修期間の延長を希望する場合は所定の延長願に延長希望者が現に職を有しているときは、勤務先所属長の承諾書を添えて、校長に願い出なければならない。

3 履修期間の延長は、校長が許可する。

(履修の科目)

第7条 履修科目は、原則として週5科目以内とする。

(指導教員)

第8条 校長は、科目等履修生に対し、履修に関する必要な助言を与えるため指導教員を定める。

(検定料、入学料及び授業料の額)

第9条 検定料、入学料及び授業料の額は、独立行政法人国立高等専門学校機構における授業料の

他の費用に関する規則（独立行政法人国立高等専門学校機構規則第35号）（以下「規則」という。）に定める、履修生に係る授業料その他の費用の額によるものとする。

(入学料及び授業料の納付)

第10条 入学料は、入学を許可されたときに納付しなければならない。

2 授業料は、履修する単位に係る額を履修当初の月に納付しなければならない。ただし、履修期間が後期にまたがるときは、後期分の額はその当初の月に納付するものとする。

(検定料等の還付)

第11条 既納の検定料、入学料及び授業料は還付しない。

(単位の履修の認定)

第12条 科目等履修生が所定の履修を修めた場合に、校長はその科目の単位の修得を認定することができる。

2 単位の修得を認定するにあたっては、久留米工業高等専門学校学業成績の評価並びに単位の認定及び及落に関する規程第1条から第12条までの規定を準用する。

3 修得した科目と単位については、願い出により単位修得証明書を交付する。

(科目等履修生の除籍等)

第13条 科目等履修生が、履修期間中やむを得ぬ理由で履修を中断する場合、又は履修を中止する場合は、校長の許可を得なければならない。

2 校長は、科目等履修生がその本分に反する行為があったと認められたときは、除籍することができる。

附 則

この規則は、平成 4 年 9 月 17 日から施行する。

附 則

この規則は、平成19年 4 月 1 日から施行する。

資料B－1－①－10（3／3）

久留米工業高等専門学校特別聴講学生規則

（趣 旨）

第1条 この規則は、学則第41条第2項の規定に基づき、特別聴講学生について必要な事項を定めるものとする。

（入学資格）

第2条 他の高等専門学校、短期大学並びに大学又は外国の大学の学生で、本校における授業科目を履修しようとする者があるときは、当該他大学等との協議に基づき、特別聴講学生として受入れることができる。

（入学時期）

第3条 特別聴講学生の入学の時期は、原則として、学年又は学期の始めとする。

（出願手続）

第4条 特別聴講学生として入学を志願する者は、入学願書（別記様式第1号）を所属の大学等を通じて、校長に提出しなければならない。

（入学許可）

第5条 特別聴講学生の入学の許可は、校長が決定する。

（履修科目）

第6条 特別聴講学生が履修できる科目は、原則として、実験、実習を除く専門科目及び専攻科の専門科目とする。

（検定料、入学料及び授業料）

第7条 検定料及び入学料は、徴収しない。

2 授業料については、当該他大学等との間で、相互に不徴収とされている場合には徴収しない。

（単位の認定）

第8条 履修科目に係る単位の認定は、本校の定める評価基準に基づいて行う。

（単位修得等証明書）

第9条 特別聴講学生には、願い出により履修した科目の単位修得証明書又は履修証明書を交付することができる。

（退 学）

第10条 学則等の学内諸規定に違反した者又は疾病その他やむ得ない事情により成績の見込みがない者に対しては、校長は退学を命ずることができる。

（その他規定等の準用）

第11条 この規則に定めるもののほか、必要な事項は、学則等の学内諸規定を準用する。

附 則

この規則は、平成15年4月1日から施行する。

（出典：久留米工業高等専門学校規則集）

資料B-1-①-11

JGMAギヤカレッジ「マスターコース」「基礎実習」について

機械工学科 櫻木 功

1. 概要

最近、企業では、継承すべき技術・ノウハウを持った「団塊の世代」が定年を迎え、それらが十分に伝承されずに次世代に移行している。そこで企業では、最新の技術を導入し、最適な生産方式を確立したいのですが、伝承すべき技術・ノウハウが不十分で、その方式を確立できない状況にある。

本校には歯車に関する設備が整っているので、本校の設備を活用して、日本歯車工業会が主催する「基礎実習」分野を担当し、社会人に具体的に実習を通じて歯切りについての理解を深めさせる。特に、企業の求める高能率・高精度・低価格の歯切りの基礎を理解させ、本校が社会に貢献することを目的とする。

2. 開催時間： 受付（8:30～） 8/2（木）09:00～16:30 8/3（金）09:00～16:00

3. 会場： 久留米工業高等専門学校 （福岡県久留米市小森野1-1-1 TEL0942-35-9300）

受付場所：機械・材料専門棟1階玄関

説明等場所：D3教室

実習場所：機械工作工場

担当者：櫻木、和泉、石丸、大津、教育研究支援室第一技術グループ、米倉（本校名誉教授）

4. 時間割・実習内容

2日（木） 09:00～09:20 開式（D3教室）
09:20～09:30 工作工場へ移動 実習準備

実習内容	責任者	8月2日（木）		8月3日（金）	
		09:30～ 12:30	13:30～ 16:30	09:00～ 12:00	13:00～ 16:00
①. ホブ切りの基本・歯面仕上げ	米倉	1班	2班	3班	4班
②. ハイスホブ切り	和泉	2班	3班	4班	1班
③. 超硬ホブ切り	櫻木	3班	4班	1班	2班
④. 歯車測定	石丸	4班	1班	2班	3班

参加者32名（社会人） 4班編成（各班8名）

5. 実施内容

①. ホブ切りの基本・歯面仕上げ（90分×2コマ）

- (1)「ホブ切りの基本」 汎用ホブ盤の構造、ホブ切りにおいてホブアーバの取付け等重要な箇所を扱う。
- (2)「歯面仕上げ実習」 サーメットホブ切り、ねじ状cBN砥石による歯面仕上げを行う。

②. ハイスホブ切り（90分×2コマ）

- (1)「平歯車のホブ切り実習」 平歯車をウェットカットする。
- (2)「はすば歯車のホブ切り実習」 はすば歯車をドライカットする。

③. 超硬ホブ切り（90分×2コマ）

- (1)「超硬工具の損傷に関する基礎切削試験」 マシニングセンタによる舞いツール切削試験装置を用いる。
- (2)「超硬ホブによる高速ドライホブ切り」 NCホブ盤と小モジュール多条超硬ホブを用いる。
- (3)「高硬度歯車のドライむくホブ切り」小モジュール高硬度歯車材（HRC 50付近）ドライむくホブ切り。
- (4)「高硬度歯車のドライさらえホブ切り」高硬度歯車（HRC 60付近）の歯面のみをドライさらえホブ切り。

④. 歯車測定（90分×2コマ）

- (1)「歯形・歯筋、ピッチの測定」インポリュート歯形と歯筋は基礎円板式の測定器を用い測定し、JIS精度等級を判定する。ピッチ測定は単一ピッチ、累積ピッチを算出して精度を確認する。
測定器は全て手動である。
- (2)「歯厚の測定」またぎ歯厚法とオーバーピン法により歯厚を測定し比較を行う。
測定機器の校正、有効桁に配慮する。

（出典：総務課企画情報係資料）

資料 B-1-①-12

◆ゴムの基礎講座内容

日 程		時 間		内 容	講 師	
					所 属	氏 名
第1週	6/2(木)	10:00～12:00	2h	ゴムの化学	久留米工業高等専門学校	森 哲夫
		12:50～14:50	2h	ゴムの物理	長崎大学名誉教授	古川 睦久
		15:00～17:00	2h	原料ゴム	(株)テクノ月星	児玉 洋典
第2週	6/10(金)	10:00～12:00	2h	配合剤	(株)ムーンスター	古達 浩史
		12:50～14:50	2h	充てん剤	(株)ムーンスター	三原 龍夫
		15:00～17:00	2h	配合設計	馬田テクノリサーチ	馬田 正輝
第3週	6/17(金)	10:00～12:00	2h	配合・物性(コスト含む)	馬田テクノリサーチ	馬田 正輝
		12:50～14:50	2h	混練り	(株)ブリヂストン	楠亀 利哉
		15:00～17:00	2h	成形加工	(株)久留米リサーチ・パーク	太田 幹人
第4週	6/24(金)	10:00～12:00	2h	接着加工	(株)アグリス	吉野 憲司
		12:50～14:50	2h	物理試験(分析含む)	福岡県工業技術センター	井手 誠二
		15:00～17:00	2h	分析	久留米工業高等専門学校	津田 祐輔
第5週	7/1(金)	10:00～17:00	6h	実習	馬田テクノリサーチ	馬田 正輝
					福岡県工業技術センター	斎田 真吾
					(株)久留米リサーチ・パーク	藤崎 崇芳
					(株)久留米リサーチ・パーク	太田 幹人
					(株)久留米リサーチ・パーク	木下 玲子
					(株)久留米リサーチ・パーク	姫野 成以子
第6週	7/8(金)	10:00～17:00	6h	工場内研修	(株)ムーンスター	
					(株)ブリヂストン甘木工場	

※工場内研修は、業種によっては受講いただけない場合がございます。予めご了承ください。

尚、6/2(木)の9:40より開講式、7/8(金)の工場内研修終了後に閉講式を行います。



(出典：久留米リサーチパーク・ホームページ)

http://www.krp.ktarn.or.jp/006_Research%20and%20development/001-04.html

資料B-1-①-13

第6回腐食防食技術研修会
—実験による腐食防食技術の基礎の習得—

主催：(社) 腐食防食協会九州支部**共催：**西日本腐蝕防蝕研究会、(社) 表面技術協会九州支部、久留米工業高等専門学校**開催日：**平成24年7月25日(水)～7月27日(金)(3日間)**場所：**久留米工業高等専門学校 材料工学科 (福岡県久留米市小森野1-1-1)
JR久留米駅から西鉄バスで10分、タクシーで約5分**主旨：**金属の腐食科学及び防食技術は著しく進歩したが、腐食による障害は発生し続けている。一方、金属の腐食抑制には防食技術の習得が重要であるにもかかわらず、それを習得する機会が少ない。そこで、実験を通じて腐食防食技術の基礎を習得するための研修会を開催する。**◇プログラム**

月 日	時 間	講 義 または 実 験 内 容
7月25日	10:00～12:00	講義：腐食反応の基礎
	13:00～17:00	実験：(1)腐食におけるアノードとカソード (2)腐食電池(酸及び酸素腐食)
7月26日	10:00～12:00	講義：防食法
	13:00～17:00	実験：(1)電気防食(犠牲陽極法とその電位分布) (2)局部電池(局部アノード及び局部カソード分極曲線の測定)
7月27日	10:00～12:00	講義：腐食速度の電気化学的測定法
	13:00～17:00	実験：(1)ターフェル直線からの腐食速度の測定 (2)分極抵抗法による腐食速度の測定

講師及び実験指導員

腐食防食技術研究所

齊藤明夫

元九州工業大学

津留 豊

久留米工業高等専門学校

田中慎一、矢野正明

定 員：14名(先着順)**テキスト及び実験費用：**会員・・・40,000円(主催、共催学協会の個人会員、団体会員を含みます)
非会員・・・45,000円**申し込み締切：**平成24年7月13日(金)**申し込み方法：**住所、氏名、電話番号、ファックス番号、会社名、所属、会員か非会員かを下記まで連絡ください。テキスト及び実験費用は締め切り日までにお振り込みください。**申し込み先：**〒830-8555 福岡県久留米市小森野1-1-1

久留米工業高等専門学校 材料工学科内 矢野正明 宛

(TEL.0942-35-9418, Fax.0942-35-9425, E-mail: yano@kurume-nct.ac.jp)

参加料振込口座：口座番号 福岡銀行(0177) 今宿支店(店番264) 普通預金口座 407281

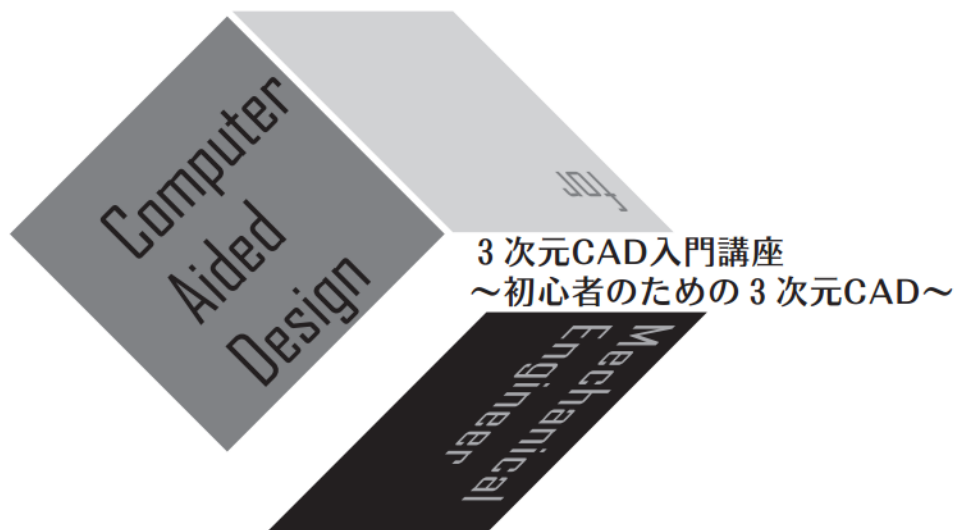
名 義 腐食防食協会九州支部技術研修会 代表者 大上 悟

(領収書は金融機関発行の振込金受取書にて替えさせていただきます)

参 考：実験で硫酸を使用しますので作業服または白衣のご用意をおすすめします。
関数電卓があると便利です。学内に食堂あります。

(出典：総務課企画情報係資料)

資料 B-1-①-14 (1/3)



現在、自動車業界をはじめとして、図面の取り扱いとものづくりの在り方が大きく変わりつつあります。

これまでのものづくりは、2次元の図面を手書きもしくはCAD (Computer Aided Design) で描き、その図面を見て加工者が加工を行ってききました。一方最近では、図面が2次元から3次元に換わり、実際の構造物をパソコンの中で組み立て、強度解析 (CAE: Computer Aided Engineering) や加工シミュレーション (CAM: Computer Aided Manufacturing) を行う3次元設計によるものづくりが主流になりつつあります。

本講座では、まず3次元CAD設計の現状と3次元CADの利用範囲と応用について、設計製図の専門家やCADベンダーから説明を行い、その後3次元CAD実習と3次元CADデータを用いた簡単なCAEシミュレーション実習とCAMによる加工を行います。

本講座は、3次元CADに興味を持つ初心者や3次元CADの導入を検討される方に、3次元CADの概要と何ができるかを掴んでもらうことを目的とするものです。

1. 開催日時：平成19年11月30日 (金) 13:00～16:30 (3.5H) : 3D-CADの概要
平成19年12月 1日 (土) 9:00～16:30 (6.5H) : 3D-CAD実習と応用
2. 主催：久留米工業高等専門学校
共催：日本機械学会九州支部福岡西地区
3. 開催場所：久留米工業高等専門学校 機械材料専門棟2F
CAD/CAE演習室・機械要素設計実験室
4. 対象者：社会人（一般企業および工業高校教員）および機械学会会員
5. 募集人員：20名
6. 受講料：6,400円
7. 募集期間：10月1日（月）より11月22日（木） 定員になり次第締切
8. 申込方法：別紙申込用紙にご記入の上、FAXにてお申し込みください。

〒830-8555 久留米市小森野1-1-1
久留米工業高等専門学校 総務課 総務係
TEL: 0942-35-9304
FAX: 0942-35-9307

（出典：久留米高専ホームページ）

http://apollo.cc.kurume-nct.ac.jp/kikaku/OpenLecture/2007_3DCAD.pdf

資料 B-1-①-14 (2/3)

久留米工業高等専門学校 産学民連携テクノセンターは、地域との様々な形態での連携を重視し、その拡充整備を図って参ります。



久留米工業高等専門学校

産学民連携テクノセンター

Regional Collaboration Technology Center

ホーム

市民のみなさま

学校関係のみなさま

企業のみな

新着情報



新着情報

第14回3D-CAD/CAE公開講座を開催しました。

2012年10月13日 08:57

本校では、9月27日(木)、28日(金)の2日間にかけて、社会人向けの第14回3D-CAD/CAE公開講座～CAE利用に関する講習会～を開催しました。

この講座は、3D-CAD活用の一環として、コンピュータによる解析(CAE)について、基礎理論と実践へ向けた導入という位置付けで行っており、企業で実務に携わっている社会人8名の参加がありました。

今回は、強度解析・振動解析・機構解析・熱流体解析の4つの講座を3D-CADソフト「ソリッド・ワークス」を活用しながら、構造、振動、機構、熱流体の各解析実習を行いました。

受講者は講師の説明を受けながら、熱心に課題に取り組んでいました。



講座の様子

(出典：久留米高専 産学民連携テクノセンターホームページ)

<http://www101.cc.kurume-nct.ac.jp/news/2012/10/143D-CAD.html>

資料 B-1-①-14 (3/3)

久留米工業高等専門学校 産学民連携テクノセンターは、地域との様々な形態での連携を重視し、その拡充整備を図って参ります。

久留米工業高等専門学校 産学民連携テクノセンター
w101.cc.kurume-nct.ac.jp/news/2012/04/12kousa.html

久留米工業高等専門学校 産学民連携テクノセンターは、地域との様々な形態での連携を重視し、その拡充整備を図って参ります。

久留米工業高等専門学校
産学民連携テクノセンター
Regional Collaboration Technology Center

ホーム 市民のみなさま 学校関係のみなさま 企業のみな

新着情報

新着情報

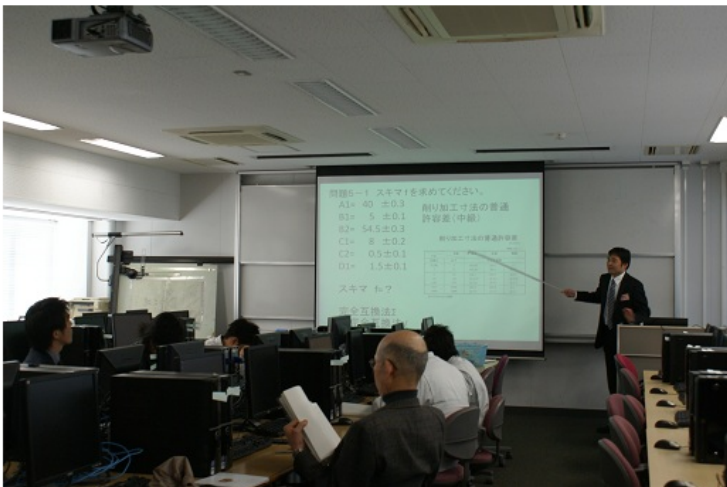
第12回 3D-CAD公開講座 公差設計に関する講習会を実施しました

2012年4月17日 16:28

本校では、文部科学省教育G Pに平成21～23年度で採択された「CIMSを活用した機械要素教育と産学連携」の取り組みのフォローアップ活動の一環として、社会人（一般企業および工業高校教員）および日本設計工学会・日本機械学会会員を対象とし、3月27日（火）に公差設計に関する講習会を実施しました。

今回の講座では、複数の部品が組み合わされた時の寸法公差について、3D-CADソフト「ソリッドワークス」による実習を中心に、講義と手計算による演習でその基礎となる理論について説明しました。

受講後のアンケートでは、「公差についてほとんど無知だったが分かりやすかった。」など受講者全員が満足したとの結果が得られ、大変有意義な講習会となりました。



(出典：久留米高専 産学民連携テクノセンターホームページ)
<http://www101.cc.kurume-nct.ac.jp/news/2012/04/12kousa.html>

資料 B-1-①-15

社会人向け公開講座一覧(平成20年～平成24年)

区 分	講 座 名	実施時期	対象/人数	実施場所
H20	1 3次元CAD導入コース～初心者のための3次元CAD～	平成20年8月22日・23日	社会人・学生会員／28名	久留米高専
	2 3次元CAD応用コース～3次元CAD/CAE/CAM公開講座～	平成20年11月27日～29日・12月12日	社会人／11名	久留米高専
H21	1 第5回産学協働セミナー「企業の求める人材像」	平成21年5月15日	学生・社会人／100名	久留米高専
	2 第2回CIMSフォーラム	平成21年7月24日	学生・社会人／200名	久留米高専
	3 第3回インテグラルセミナー	平成21年8月25日	学生・社会人／200名	久留米高専
	4 第4回 3D-CAD導入・活用コース	平成21年8月26日	学生・社会人／31名	久留米高専
	5 第6回産学協働セミナー「古代人骨は語る～スペインと日本女性考古学者の挑戦～」	平成21年10月9日	学生・社会人／45名	久留米高専
	6 第5回 3D-CAD/CAE公開講座	平成21年12月1日～12月3日	学生・社会人／16名	久留米高専
	7 第3回CIMSフォーラム 卒業生からのメッセージ ～実践技術者として産業界で働くために～	平成21年12月25日	学生・社会人／	久留米高専
	8 3DCAD先端利用・公差設計講座	平成22年3月16日・17日	学生・社会人／20名	久留米高専
H22	1 第5回インテグラルセミナー	平成22年7月22日	学生・社会人／100名	久留米高専
	2 第7回 3D-CAD公開講座	平成22年7月23日	学生・社会人／20名	久留米高専
	3 新技術マッチングフェア 「風の力で蒸留し、海水や汚水から飲料水を作る装置」	平成22年10月15日	一般市民／	マリメッセ福岡
	4 日本ゴム工業会中小企業委員会向け勉強会	平成22年11月5日	社会人／17名	久留米高専
	5 第8回 3D-CAD/CAE公開講座	平成22年11月29日・30日	社会人／4名	久留米高専
	6 第9回 3D-CAD公開講座 第6回 インテグラルセミナー	平成22年12月2日・3日	社会人／4名	久留米高専
	7 第4回教育GPフォーラム「卒業生からのメッセージ ～舞台は世界へ～技術者が活躍するフィールド」	平成22年12月8日	学生・社会人／200名	久留米高専
	8 平成22年度「大学教育改善プログラム合同フォーラム」質の高い大学教育推進プログラム(教育GP)「CIMSを活用した機械要素教育と産学連携」	平成23年1月24日・25日	一般市民・教育関係者／	アキバ・スクエア他 周辺会場
	9 「農商工テクノブリッジ2010in久留米」 「オゾン充填パウチ(フローゾン)」	平成23年1月28日	一般市民・企業関係者／	久留米ヒューズプラザ アルカディアホール
	10 第5回教育GPフォーラム「CIMSを活用した機械要素設計と産学連携」最終成果報告会	平成23年3月22日	学生・社会人／50名	久留米高専
H23	1 仕上げ作業実技講習会	平成23年5月14日～7月23日	社会人／3名	久留米高専
	2 第11回福岡県市議会議員 議員研修会	平成23年8月24日	福岡県内市議会議員／約600名	石橋文化ホール
	3 第10回3D-CAD公開講座 ～3D-CAD利用に関する基礎講習会～	平成23年9月27日～9月28日	社会人／10名	久留米高専
	4 第11回3D-CAD/CAE公開講座 ～3D-CAD/CAE利用に関する講習会～	平成23年11月29日～11月30日	社会人／3名	久留米高専
	5 第12回3D-CAD公開講座 ～公差設計に関する講習会～	平成24年3月27日	社会人／8名	久留米高専
H24	1 仕上げ作業実技講習会	平成24年4月28日～7月14日	社会人／6名	久留米高専
	2 機械研削盤実技講習会	平成24年6月21日	社会人／2名	久留米高専
	3 第13回3D-CAD/CAE公開講座 ～3D-CAD利用に関する基礎講習会～	平成24年8月28日～29日	社会人／6名	久留米高専
	4 第14回3D-CAD/CAE公開講座 ～3D-CAD/CAE利用に関する講習会～	平成24年9月27日～28日	社会人／7名	久留米高専
	5 平成24年度知的財産特別講演会 「産学連携によるものづくり成功の秘訣」	平成24年10月26日	一般市民・社会人・高専教職員／100名	久留米高専
	6 第15回公差設計公開講座 ～公差設計に関する基礎講習会～	平成24年11月30日	社会人／5名	久留米高専
	7 第6回腐食防食技術研修会 —実験による腐食防食技術の基礎の習得—	平成24年7月25日～27日	社会人／13名	久留米高専

(出典：総務課企画情報係資料)

資料B－１－①－16（１／２）

平成２４年度第１回テクノネット久留米ラボツアー報告

日 時：平成２５年２月１３日（水）１５時００分～１７時１５分

場 所：久留米高専機械要素設計実験室

参加者：３８名（うち会員２０名）

１．定刻に至り、橋村部門マネージャーの司会でラボツアーを進行することとなった。

２．テクノネット久留米幹事あいさつ

テクノネット久留米幹事の藤田久留米高専産学民連携テクノセンター長から挨拶があった。

３．機械工学科実験室の見学（15:00～16:30）

橋村久留米高専部門マネージャーから資料に基づき、平成２４年度第１回テクノネット久留米ラボツアーについて説明があった後、次のとおり見学を行った。

（1）15:00～15:20 機械要素設計実験室（説明者：橋村准教授）

（2）15:20～15:30 CAD/CAE 演習室（説明者：中尾准教授）

（3）15:35～15:55 機械工作工場（説明者：石丸准教授）

（4）16:00～16:10 材料力学実験室（説明者：原田教授）

（5）16:10～16:20 熱力学実験室（説明者：田中准教授）

（6）16:20～16:30 流体工学実験室（説明者：中武准教授）

４．意見交換（16:45～17:15）

まず、産学民連携テクノセンター報を基に、久留米高専教員が自己紹介および研究内容紹介を行った後、会員から次の意見があった。①ラボツアーをきっかけとした共同研究を増やし、テクノネット久留米が会員外企業に認知されるようラボツアーを充実させていただきたい。②機械の操作方法等、実際に動いている様子を見たい。③テクノネット久留米を介して実施することになった共同研究については、報告できる範囲で会員に周知してもらいたい。

また、３次元 CAD/CAE 公開講座について質問があり、藤田センター長から久留米高専主催の公開講座とテクノネット久留米事業の違いについて説明があった。

５．技術交流会（18:00～20:00）

ラボツアー後、会場を日吉丸（久留米市日吉町 24-12 １F）に移し、テクノネット久留米会員等 11 名と久留米高専教職員 9 名で技術交流会を行った。

（出典：テクノネット久留米（総務課企画情報係））

資料B-1-①-16 (2/2)

平成24年度第1回テクノネット久留米セミナー報告

テクノネット久留米技術者育成事業として、第1回テクノネット久留米セミナーを3月11日(月)から18日(月)までの5日間で下記のとおり開催したことを報告いたします。

記

1. 材料力学

日 時：3月11日(月) 18時00分～19時30分
 講 師：原田 豊満 機械工学科教授
 演 題：「材料力学による強度問題の解決の実際」
 受講者数：13名

2. 機械加工

日 時：3月12日(火) 18時00分～19時30分
 講 師：和泉 直志 機械工学科教授
 石丸 良平 機械工学科准教授
 演 題：「機械加工分野1」「機械加工分野2」
 受講者数：18名

3. トライボロジー

日 時：3月13日(水) 18時00分～19時30分
 講 師：和泉 直志 機械工学科教授
 演 題：「トライボロジー」
 受講者数：6名

4. 流体力学

日 時：3月14日(木) 18時00分～19時30分
 講 師：中武 靖仁 機械工学科准教授
 演 題：「流体力学(環境エネルギー工学)」
 受講者数：7名

5. 熱工学

日 時：3月18日(月) 18時00分～19時30分
 講 師：田中 大 機械工学科准教授
 演 題：「熱工学」
 受講者数：8名

6. 参加者の感想

(1) 今回セミナーにおいてはお世話になりました。

5回全てに参加申し込みをしていましたが、都合により4回参加、1回は欠席させて頂きました。個人的には私自身が2月に行われたラボツアーに参加していなかったため加工機等の説明を頂いた際に、実際に実機を見学させて頂ければより理解が深まったかと感じました。

また、それ以外にも座学だけではなく、関連する機器や実験装置等を見学させて頂けたら、より分かりやすかったように感じました。夕方からの開催で、参加者皆さんがお疲れの時間帯でもありますので参加者の興味を惹くためにもそういう工夫があれば良いかと感じました。

全体的には非常に興味深く拝聴しましたので、今後も是非継続して開催して頂きたいと思います。

(2) 先日のテクノネット久留米セミナーに参加させて頂き、ありがとうございました。

私は機械工学については、学校で学んで無かった為、不安でしたが日常生活において起こる現象等分かりやすかったです。これからも是非セミナーに参加させて頂き、勉強してこれからの仕事に活かしていきたいです。

(3) セミナーの改善点につきましてですが そのテーマの参加者が仕事・研究で現在抱えている問題点があれば可能な範囲で事前に資料としてまとめ、参加者に配布し、改善方法など講師の方と議論出来たら更に有意義なものとなるのではと感じております。

また、セミナーとは別ですが、研究発表の一般公開などがありましたら参加してみたいと思います。今回の様な機会には積極的に参加したいと思います。

(出典：テクノネット久留米(総務課企画情報係))

資料B-1-①-17

九州沖縄地区高専フォーラムの経緯

回数	期日	担当校	場所	サブタイトル	備	考
第1回	H3.11	久留米	久留米高専	わかり易いハイテク最前線		
第2回	H4.10.29	久留米	久留米高専	「液晶」と「触媒化学」に関する最近の話題	講演6件	
第3回	H6.1.22	久留米	ブリジストンクラブ	有機合成アラカルト	講演4件	
第4回	H7.1.21	北九州	北九州高専	生物化学工学・高専の化学教育に対する企業からの提言	講演6件 （セクション1：生物化学工学3件、セクション2：高専の化学教育に対する企業からの提言3件）	
第5回	H8.3.9	都城	都城高専	「地場産業と最先端技術」に関する最近の話題	講演4件	
第6回	H9.3.15	有明	有明高専	高専教育と先端技術	講演6件	
第7回	H10.3.14	佐世保	佐世保高専	地球にやさしい科学技術と高専教育	講演5件	
第8回	H10.12.19	八代	八代高専	21世紀に向かって！	講演合計7件	
第9回	H11.11.12-13	久留米	ホテルニューブラザ	11.12 社会福祉を生涯学習から見つめて！ 11.13 今！高専は・そのハイテク最前線	講演3件 講演4件	
第10回	H12.12.9	熊本電波	熊本電波高専	地域に根ざす高専を目指して	講演5件	
第11回	H13.12.1	北九州	北九州高専	高専における産学連携	講演5件（内、特別講演1件）	
第12回	H14.12.7	大分	大分高専	地域連携と環境ビジネス	講演5件（内、特別講演1件）	
第13回	H15.12.5	都城	宮崎産業経営大学 都城キャンパス	都城高専の地域連携を目指す取組み	講演6件（内、基調講演1件）、専攻科学生（3専攻）によるポスターセッション21件	
第14回	H16.12.3	鹿児島	鹿児島高専	独法化元年 高専の新たな取り組みー	高専の新たな取り組み（2件）、産官学連携についての取り組み（3件）、特別講演（1件）	
第15回	H17.12.3	有明	有明高専	高専教育の問題点と改善への取り組み	九州・沖縄地区高専フォーラムに改名 講演4件 総合討論会「何を指すか高専の将来」	
第16回	H18.12.2	佐世保	佐世保高専	小中学校の理科教育への高専からの支援	講演5件	
第17回	H19.12.8	八代	八代高専	高専と地域社会との共同教育による人材育成	「H19年度中小企業人材育成事業成果発表会」見学 講演5件	
第18回	H20.12.6	久留米	久留米高専	久留米高専のアクシオンプラン ～地域産業と市民との連携～	産官民連携（ポスターセッション59件、久留米高専卒業生による講演会8件、パネルディスカッション、進路相談室・技術相談室）	
第19回	H21.12.5	北九州	北九州高専	高専における産官連携による人材育成	講演3件（ポスターセッション76件、パネルディスカッション（総合討論）「産官連携による人材育成」、特別講演1件）	
第20回	H22.12.11	沖縄	沖縄高専	地域の天然資源を活用した産学連携	20周年記念講演「九州沖縄地区高専フォーラムの軌跡と展望」（鳥井昭美名誉会長、久留米高専名誉教授） 「沖縄天然資源ライブラリー」によるベンチャー企業創設（基調講演）、「沖縄天然資源利用の活用方法（再利用）」について（パネルディスカッション） ポスターセッション43件	
第21回	H23.12.3	大分	大分高専	再生日本に向けた高専からのアプローチ	ポスターセッション46件、大分高専 足踏みミシン修理・贈呈活動報告 （第15回大分高専テクノフォーラム技術講演会との共同開催）	
第22回	H24.12.8	都城	都城高専	持続可能社会・九州 一地方の未来をデザインするー	特別講演3件、パネルディスカッション、ポスターセッション56件	

(出典：総務課企画情報係資料)

資料B－1－①－18

高専シンポジウム開催校、会場、参加校、講演件数

開催回数	期 日	開催校	開 催 場 所	会 場	参加校数	講演件数	
						総 数	ポスター
第1回	H8.1.13	久留米	久留米リサーチセンタービル	2＋大ホール	15	68	
第2回	H9.1.18	宇 部	国際ホテル宇部	2	11	82	
第3回	H10.1.17	米 子	米子市文化ホール	3＋大ホール	14	84	
第4回	H11.1.23	鈴 鹿	鈴鹿市文化会館	3＋大ホール	21	98	
第5回	H12.1.22	福 井	福井高専	3＋2（ポスター）	25	127	73
第6回	H13.1.20	東 京	東京高専	4＋大会場＋体育館（ポスター）	20	109	78
第7回	H14.1.26	和歌山	御坊市民文化会館	4＋大ホール	25	150	58
第8回	H15.1.25	新居浜	リーガロイヤルホテル新居浜	4	21	133	
第9回	H16.1.17	有 明	有明高専	8＋大会場	31	198	
第10回	H17.1.15	鶴 岡	鶴岡市中央公民館	5＋ポスター会場	33	135	50
第11回	H18.1.21	長 岡	ホテルニューオータニ長岡	6＋ホール	30	175	
第12回	H19.1.27	沼 津	東レ研修センター	7＋大講堂	33	212	
第13回	H20.1.26-27	久留米	久留米石橋文化センター	9 ＋共同ホール（一般講演，特別講演） ＋多目的ホール（ポスター，ロボコン， 企業展示）	高専 36 大学 12 企業 21 公設試験機関 1	295 （一般講演211， 特別講演9， ポスター75， 企業展示18）	75
第14回	H21.1.24	高 知	かるぼーと（高知市文化プラザ）	10 （大ホール，小ホール，ロビーを含む）	高専 46 大学 27 企業 22 公設試験機関 12	325 （一般講演250， 特別講演2， ポスター73）	73
第15回	H22.1.23	福 島	いわき市文化センター	8＋ポスター会場	高専 34	301 （一般講演211， 特別講演2， ポスター88）	88
第16回	H23.1.22	米 子	米子コンベンションセンター （ビッグシップ）	8	高専 44	389（一般講演 274，ポスター 115）	115
第17回	H24.1.28	熊 本	崇城大学市民ホール 熊本市国際交流会館	9＋ポスター会場	高専（国立）43 高専（市立）1 高専（私立）2 技科大 2 国立大 2	389（一般講演 273，ポスター 116）	116
第18回	H25.1.26	仙 台	仙台高専名取キャンパス	10＋ポスター会場，特別講演会場		395（一般講演 265，ポスター 130）	130

（出典：総務課総務係）

資料B-1-①-19 (1/2)

一般社団法人 日田市観光協会 天瀬支部

お還りなさい天瀬

おおいにけんりたしあまがせまち
大分県日田市天瀬町

観光のお問合せは下記までお気軽に！

日田市観光協会 天瀬支部 Tel.0973-57-2166



home

あまがせの町旅

あまがせて遊ぶ

あまがせて食す

あまがせて買う

あまがせに泊まる

あまがせて入浴

あまがせへのアクセス

MENU

最新おしらせ情報

あまがせの町旅
現地見学ツアーあまがせて遊ぶ
見学・体験・モデルコースあまがせて食す
食事処あまがせて買う
お土産あまがせて泊まる
旅館・ホテル・民宿あまがせて入浴
旅館・ホテル・民宿

交通アクセス

あまがせのお祭り情報

お還りなさい天瀬
スタッフの「あまがせ日記」お還りなさい天瀬
スタッフの「食べ歩きあまがせ」お還りなさい天瀬
過去のあまがせホットニュースお還りなさい天瀬
お役立ちリンク集

<< やつぱり【ガイド付屋形船ナイトクルーズ】が好きです!! 【日田日記】 本日の【ガイド付屋形船ナイトクルーズ】まだ空席ございます!! >>

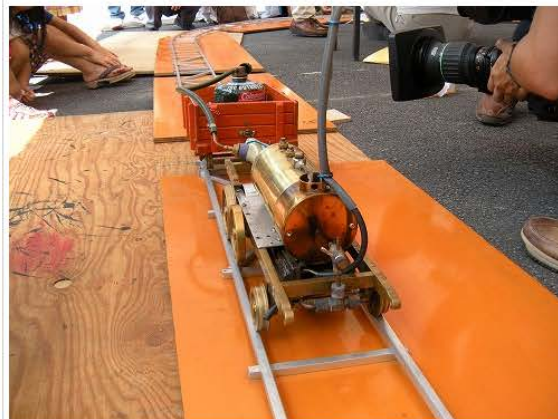
復元蒸気機関車離型模型の九州での初めての試走!!

投稿者: 日田市観光協会スタッフ 投稿日時: 2011.07.31 Sunday



今日は豆田町にある西国浪漫館前で久留米工業高等専門学校によって製作された

復元蒸気機関車離型模型の九州での初めての試走が行われましたー(^^)b



東芝製作所の創業者である田中久重さんが製作したものを、久留米高専の皆さんが復元したのですが、蒸気機関車が動く理由などもわかりやすく説明してくれましたし見に来ていた子供達も喜んでいました♪♪復元蒸気機関車離型模型の試走は今日だけです、8月31日(水)までは豆田町の【天領日田資料館】で筑後軌道に関する資料を展示した【映像でみる懐かしの風景筑後軌道展】が開催されておりますので是非お立ち下さいo(≧o≦)o

こたろ

■「PC」映像でみる懐かしの風景筑後軌道展

■「モバイル」映像でみる懐かしの風景筑後軌道展

■「PC」天領日田資料館の情報

■「モバイル」天領日田資料館の情報

Special thanks!

新緑成翠の参館
高塚愛宕地蔵尊「おいでひた バンフレット」アプリ
iPad・iPhone版(無料)お還りなさい天瀬
モバイル
はこちら

Staff Blog

スタッフの「あまがせ日記」

- ☐ 温ったりホテルを眺めません
- ☐ 名瀬“桜道”を楽しんで！
- ☐ 桜道の遊歩道が完成しました

スタッフの「食べ歩きあまがせ」

- ☐ 島たつオリジナル☆
- ☐ とろへりビザと名湯を！
- ☐ 昌塚さんにある和菓子屋☆

関連機関・団体・観光協会

- ・日田市観光協会
- ・日田市
- ・天ヶ瀬温泉旅館組合
- ・日田温泉旅館組合
- ・天領日田まるごと博物館
- ・日田市商工会議所
- ・日田地区商工会
- ・ひた生活館イン福岡
- ・成宮園教育研究センター
- ・パトリア日田
- ・ツーリズムおおい
- ・大分県
- ・九州観光推進機構
- ・九重町観光協会
- ・玖珠町観光協会
- ・中津町馬場観光協会
- ・南小国町観光協会
- ・筑後川流域温泉郷

(出典：日田市観光協会ホームページ)

http://diary.oidehita.sub.jp/?eid=3101

資料B-1-①-19 (2/2)

水と緑の人間都市

久留米市 City of Kurume

組織案内 サイトマップ FAQ 文字サイズについて 携帯サイト

English 中文(簡体字) 中文(繁体字) 한국어 日本語 Foreign Language

Google カスタム検索

検索 検索方法

くらしの情報 まなび・あそび 産業・ビジネス 市政情報 観光・イベント

トップ > 組織からさがす > 市民文化部文化財保護課 > お知らせ > 六ツ門図書館展示コーナーで「久留米の交通と鉄路」展を開催します

六ツ門図書館展示コーナーで「久留米の交通と鉄路」展を開催します

更新日:2012年04月13日 10時07分

[このページの評価をお願いいたします。](#)



久留米市では、九州新幹線久留米駅開業一周年を記念して、六ツ門図書館展示コーナーで「久留米の交通と鉄路」展を行います。

筑後地区、特に久留米における交通を歴史的に振り返り、旧久留米藩時代に縦横に走っていた往還(街道)を経て、明治から大正にかけて久留米を駆け抜け続けた発展期の鉄路。そして平成23年3月12日の九州新幹線久留米駅開業までを、貴重な資料、パネル、模型、写真などで紹介します。

久留米の交通が歩んできた足跡を皆様に再確認していただき、将来の久留米の交通を想像していただきましたら幸いです。

九州新幹線久留米駅開業一周年記念「久留米の交通と鉄路」展ちらし (4.953キロバイト)

田中久重考案・蒸気機関車模型(複製)走行展示のお知らせ



国立久留米工業高等専門学校のご協力を得て、会場内に線路を敷き、田中久重考案・蒸気機関車模型(全長約40センチメートル+貨車約30センチメートル)の走行展示を、期間中の3日間行います。

第1回...平成24年3月11日(日曜日)

第2回...平成24年3月24日(土曜日)

第3回...平成24年5月5日(土曜日・こどもの日)

それぞれ1日3回、午前11時から、午後1時から、午後3時から、久留米工業高等専門学校の先生の説明ののち、走行を行う予定です。
なお、走行を行わない日は、展示コーナー入口正面に機関車模型を展示します。

「久留米の交通と鉄路」展の概要

▶ 期間...平成24年3月10日(土曜日)～平成24年5月6日(日曜日)

▶ 開館時間...午前10時～午後6時

▶ 休館日...毎週月曜日と第4木曜日
(月曜日が祝祭日の場合は開館しますので、平成24年4月30日は開館します)

また、平成24年3月13日(火曜日)から平成24年3月18日(日曜日)まで、六ツ門図書館は休館しますが、展示は平常どおり開催いたします。

▶ 入館料...無料

▶ 場所...くるめりあ5階、六ツ門図書館展示コーナー
(図書館入り口に向かって左奥が展示コーナーです)

なお、下りのエスカレーターのある、児童センター側の入場口は、図書館閉館時およびイベント時専用の出入り口となっております。
通常は図書館入り口よりお入りください。

(出典：久留米市ホームページ)

<http://www.city.kurume.fukuoka.jp/1500soshiki/9125bunkazai/3010oshirase/2012-0221-1645-551.html>

資料B－１－①－20

地域イベントへ参加状況(平成20年～平成24年)

区 分		講 座 名	実施時期	対象/人数	実施場所
H20	1	第13回マナビランド「ふれあい理工学展」	平成20年11月8日	一般市民／1300名	えーるピア久留米
H21	1	第14回マナビランド「ふれあい理工学展」	平成21年11月8日	一般市民／1300名	えーるピア久留米
H22	1	サイエンスフェア	平成22年9月4日・5日	小学生・保護者／1000名	久留米市立鳥飼小学校
	2	平成22年度 久留米広域商談会	平成22年9月13日・14日	企業関係者等／	久留米リサーチ・パーク
	3	平成22年度 久留米・鳥栖地域産学官テクノ交流会	平成22年10月28日	一般市民／	久留米リサーチ・パーク
	4	第15回マナビランド「ふれあい理工学展」	平成22年11月14日	一般市民／1200名	えーるピア久留米
	5	第15回マナビランド(くるめ少年少女発明クラブ)	平成22年11月14日	小学生／100名	えーるびあ久留米
	6	「なつかしの風景・筑後の軌道」	平成23年3月12日 ～5月15日	一般市民／	久留米市立草野歴史資料館
H23	1	なつかしの風景・筑後軌道展	平成23年7月31日	一般市民／約100名	天領日田資料館
	2	第9回全国高専テクノフォーラム	平成23年8月4日	一般市民／	学術総合センター(東京)
	3	平成23年度 久留米・鳥栖地域産学官テクノ交流会	平成23年11月1日	一般市民／	久留米リサーチ・パーク
	4	第16回マナビランド「ふれあい理工学展」	平成23年11月13日	一般市民／約1200名	えーるびあ久留米
	5	平成23年度 久留米広域商談会	平成23年11月22日	企業関係者等／	久留米リサーチ・パーク
	6	福岡モーターショー2012 北部九州自動車150万台未来展九州学生車両展	平成24年1月27日 ～1月30日	一般市民／45,495名	福岡国際会議場
	7	小中学生向けの公開講座「実験で納得 光通信のふしぎー光で声や音を飛ばしてみようー」	平成24年3月10日	小中学生・保護者／26名	福岡県青少年科学館
	8	久留米の交通と鉄路	平成24年3月10日 ～5月6日	一般市民／	六ツ門図書館
H24	1	久留米の交通と鉄路	平成24年3月10日 ～5月6日	一般市民／1,664名 (走行展示:194名)	六ツ門図書館
	2	第10回全国高専テクノフォーラム	平成24年8月20日	一般市民／	国立京都国際会館
	3	平成24年度 久留米・鳥栖地域産学官テクノ交流会	平成24年10月31日	一般市民／	久留米リサーチ・パーク
	4	第17回マナビランド「ふれあい理工学展」	平成24年11月11日	一般市民／約1,200名	えーるびあ久留米
	5	青少年のための科学の祭典大分大会2012	平成24年11月16日 ～17日	一般市民／	大分高専
	6	熊本高等専門学校PBL・総合教育センターシンポジウム「地域の科学教育・支援を取り巻く新しい潮流」	平成24年12月25日	一般市民／	福岡大学
	7	平成24年度 久留米広域商談会	平成25年1月18日	企業関係者等／	久留米リサーチ・パーク
	8	世界一に行きたい科学広場in久留米2013	平成25年2月23日 ～24日	一般市民／	福岡県青少年科学館

(出典：総務課企画情報係資料)

資料B-1-①-21

ツール(T) ヘルプ(H)

高等教育コンソーシアム久留米

The consortium of higher education in kurume

- サイトマップ
- サテライト・キャンパス

HOME

高等教育コンソーシアム久留米について

HOME

概要

学生の皆さまへ

小中高生の皆さまへ

教職員の皆さまへ

地域の皆さまへ

サテライト・キャンパス

お問い合わせ

・事務局
〒830-0031

久留米市内の5高等教育機関が、「より緊密な連携」の下で地域高度人材育成事業を推進するため「高等教育コンソーシアム久留米」を形成しました。コンソーシアムは地域の『知』の創造主体として、単位互換や公開講座など既存事業の組織化・高度化を図ります。

INFORMATION

平成25年5月13日 第8回 理事会を開催します。(イベント,理事会・運営委員会)

平成25年4月26日 第1回 運営委員会を開催します。(イベント,理事会・運営委員会)

平成25年3月4日 第9回 運営委員会を開催しました。(イベント,理事会・運営委員会)

平成25年1月31日 第8回 運営委員会を開催しました。(イベント,理事会・運営委員会)

他の大学の科目を学べ、単位を取ることができます。
単位互換制度

筑後川流域
eキャンパス

市民公開講座・
共同講義

イベント

学生交流

教育免許状更新講習

理事会・運営委員会

高等教育連携

地域支援

小中高連携

A 般

(出典：高等教育コンソーシアム久留米ホームページ)
<http://consortium-kurume.jp/>

資料B-1-①-22

久留米工業高等専門学校 産学民連携テクノセンターは、地域との様々な形態での連携を重視し、その拡充整備を図ってまいります。



久留米工業高等専門学校

産学民連携テクノセンター

Regional Collaboration Technology Center

ホーム

市民のみなさま

学校関係のみなさま

企業のみなさま

新着情報

新着情報

「第17回マナビイランド」に「ふれあい理工学展」を出展しました。

2012年11月30日 10:04

本校では11月11日（日）に久留米市主催により、エーるピア久留米で開催された「第17回マナビイランド・こどもフェスティバル」に参加し、「ふれあい理工学展」を出展しました。

小中学生及び一般市民に「理工学」への関心を高めると共に、その面白さ、不思議さが体験できるよう、今年は2階ギャラリーにて「電子工作 クリップモーターと水を検知するブザーづくり」、「Kinectを用いた画像処理とロボットアームの3次元グラフィックス」、「ふしぎな金属」、3階ラウンジにて「面白い機械と触れ合おう!」、「マイクロカプセルペンダント」、「光が魅せる不思議な現象」、体育館にて「飛行機を飛ばして遊ぼう!」の7つの体験・実験コーナーを設けました。当日はあいにくの雨でしたが、小中学生を中心に例年とほとんど変わらず約1,200名を超える来場者があり、盛況のうちに幕を閉じました。



カテゴリ:

トピックス、
新着情報

(出典：久留米高専ホームページ)

<http://www101.cc.kurume-nct.ac.jp/news/2012/11/24f>

資料B－1－①－23（1／4）

久留米工業高等専門学校図書館一般利用要項（平成13年4月1日制定）

1 趣旨

この要項は、久留米工業高等専門学校（以下「本校」という。）の教育及び研究に支障のない範囲内で、本校図書館（以下「図書館」という。）を本校図書館利用規則（以下「利用規則」という。）第5条第3項に規定する者（以下「利用者」という。）の利用に供するため、その利用に関し必要な事項を定めるものとする。

2 利用の範囲

(1) 利用者は、図書館備付けの図書館資料を、本校学生・教職員の利用に支障のない範囲で利用することができる。

(2) 利用者は、前号に規定する図書館資料を所定の場所で閲覧し又は貸出を受けることができる。

3 利用期間及び時間

利用者は、利用規則第4条に規定する図書館の開館期間及び時間内に利用することができる。ただし、次の各号に掲げる場合は除くものとする。

(1) 試験期間及びその前1週間

(2) その他図書館長が指定した日

4 利用手続

(1) 利用者は、図書館を利用しようとするときは、図書館係員に申し出、受付簿に記名しなければならない。

(2) 利用者は、図書館資料の貸出を受けるときは、「図書館利用願」（別紙第1号様式）を提出するとともに、身分を証明する証書を提示のうえ、当該年度内を有効期間とする「利用者カード」（別紙第2号様式）の交付を受けなければならない。貸出の際は、「利用者カード」及び図書資料を提示しなければならない。

5 遵守事項

利用者は、係員の指示する事項を遵守しなければならない。

6 弁償義務

利用者は、図書館資料を汚損若しくは破損したとき、又は施設設備若しくは物品等に損害を与えたときは、弁償しなければならない。

7 利用中止等

この要項に違反した利用者は、直ちに利用を中止し、退館しなければならない。

8 規則の準用

この要項に定めるもののほか、利用に関し必要な事項は、利用規則を準用する。

附 則

1 この要項は、平成13年 4月 1日から施行する。

2 久留米工業高等専門学校図書館一般市民等利用要項（平成8年4月1日制定）は、この要項施行の日から廃止する。

附 則

この要項は、平成19年 4月 1日から実施する。

附 則

この要項は、平成23年11月 1日から実施する。

附 則

この要項は、平成24年 3月14日から実施する。

（出典：久留米工業高等専門学校規則集）

資料B-1-①-23 (2/4)

別紙第 1 号様式

圖書館利用願

久留米工業高等専門学校長 殿

貴校図書館を利用したいので、許可くださるようお願いします。

なお、利用に関しては貴校の図書館利用規則等を遵守します。

住 所		願 出 年 月 日	年 月 日
(フリガナ) 氏 名 生 年 月 日		自 宅 電 話	
勤 務 先 等		勤 務 先 電 話	
利 用 目 的	1. 一般教養のため 2. 学術研究のため 3. 技術調査研究のため 4. その他 ()		
利 用 期 間 (願出の年度末まで)	年 月 日 ～ 年 月 日		
証 明 書 等	1. 身分証明書 2. 運転免許証 3. 健康保険証 4. その他 ()		

注：太線枠内のみ記入し、身分証明書、運転免許証、健康保険証など身元を明らかにすることが
できる書類を添付して図書館に提出してください。

図書館長	事務部長	学生課長	課長補佐	図書係
	受 付 年 月 日			
	決 裁 年 月 日			
	利用許可番号			

(出典：久留米工業高等専門学校規則集)

資料B－1－①－23（3／4）

別紙第2号様式

（表）

利 用 者 カ ー ド

利用者カード	
久留米高専図書館	
XXXXXXXX	
有効期限日	XXXX/XX/XX
所 属 :	一 般
氏 名 :	

（裏）

- ◆図書館資料の貸出を希望するときは、このカードをお持ちください。
- ◆貸出図書数及び期間は次のとおりです。
一般利用者 3冊以内、 7日以内
- ◆返却日は、必ず守ってください。
- ◆開架図書は自由に閲覧できますが、閲覧後は必ずもとの場所に戻してください
- ◆館内での雑談、飲食等、他の利用者に迷惑になる行為はしないでください。
- ◆このカードは本人に限り有効です。他人に貸与、譲渡はしないでください。なお、紛失した時は図書館までお知らせください。

連絡先：0942-35-9306

（出典：久留米工業高等専門学校規則集）

資料B－1－①－23（4／4）

市民向けの開放状況

久留米高専図書館

一般利用者の皆様へ

1. 図書館利用を希望される方は、カウンター で係員に利用したい旨をお伝えください。
2. 図書の貸し出しを希望される方は、図書館利用願の手続き後、図書利用カードを発行いたします。
3. 図書館利用願の受付は、平日（月曜日～金曜日）の9時から17時迄です。（土曜・日曜日・祝日の受付は行いません。）
身分を確認できる証書（運転免許証、健康保険証、学生証等）をお持ちください。
4. 既に、利用手続きをされている方は、入館時に、係員へ図書利用カードのご提示をお願いします。
5. 本校図書館の利用にあたっては、図書利用カードの裏面をよくお読みください。
6. その他、不明な点やご質問等については、係員にお尋ねください。

● [久留米工業高等専門学校一般利用要項](#) ● [図書館利用願](#)（PDFファイル印刷のうえご利用ください。）

建物配置図及び学校位置(PDF)



830-8555
福岡県久留米市小森野一丁目1番1号
久留米工業高等専門学校図書館
Tel: 0942-35-9306 Fax: 0942-35-9307

[↑ 図書館ホームページへ](#)

出典：図書館ホームページ

図書館の市民向けの開放状況

	登録者数(人)	利用者数(人)	貸出数(冊)
平成24年度	9	48	99
平成23年度	12	85	136
平成22年度	3	75	121
平成21年度	12	72	143
平成20年度	11	79	167

(出典：図書館資料)

観点B－１－②： サービス享受者数やその満足度等から判断して、活動の成果が上がっているか。
また、改善のためのシステムがあり、機能しているか。

（観点に係る状況） 本校では各種活動などの終了後、参加者を対象にアンケートを実施し、その結果を次年度以降の企画・実施の検討事項としている。

１．中学生を対象とした久留米高専オープンキャンパス（一日体験入学）を実施し、中学生が本校に一層興味をもてるように改善していく。

中学生向けの公開講座は、参加者などのニーズなどを踏まえ「オープンキャンパス」、「体験セミナー」さらには「一日体験入学」と進展してきた。具体的には担当部署である教務主事室が企画、立案、実行し、アンケート結果を分析、それを教務委員会、学科長委員会に諮り、翌年度の企画に反映させている。一例として、体験セミナー参加者のアンケート結果を示す（資料B－１－②－１）。体験セミナーは定員に対してそれを越える参加希望者があり、また参加者からのアンケートの結果も「参加して良かった」という感想が多く、この試みが一定の成果をあげていることを示している。また、各学科で担当者を選出し、昨年のアンケートを基に担当者会議により内容の改善を行っている（資料B－１－②－２）。これにより、毎年多くの中学生が受講している。

２．大学等との単位互換制度を推進する。

本校は専攻科の指定された科目にこれらの大学などに在籍する単位互換学生を「特別聴講生」として若干名受け入れている。さらに、久留米市内の５高等教育機関が、「より緊密な連携」の下で地域高度人材育成事業を推進するため「高等教育コンソーシアム久留米」が設立され、単位互換授業の教育サービスを展開することにより、毎年多くの学生が、大学で単位を取得している（資料B－１－②－３）。

３．九州沖縄地区高専の専攻科学生を対象としたサマーレクチャーを実施する。

九州各高専合同の専攻科集中講義「九州高専サマーレクチャー」が平成15年８月に、久留米高専で初めて開催され、現在も続けられており、毎回多くの方が参加されている（資料B－１－②－４）。

４．地元企業や市民を対象とした公開講座を実施する。

公開講座として、先端素材加工技術者育成事業「ゴム加工技術者人材育成講座」を毎年実施しており、毎回のアンケート結果を基に、ゴム加工技術者人材育成推進部会で協議し改善に努めている（資料B－１－②－５）。

機械工学科においては、学生教育の高度化を目指し導入したsolidworksを活用し、さまざまな公開講座を実施している。毎回、アンケートを実施、集計し、次回の改善に役立てている（資料B－１－②－６）。

５．地元企業や他高専とのフォーラム、シンポジウムを開催する。

平成３年、久留米高専において最初に開催された九州沖縄地区高専フォーラムは、担当を各高専の輪番として開催されており、多くの方が参加している（資料B－１－②－７）。

また、平成７年、久留米市において最初に開催された高専シンポジウムは、学生の研究発表の場となっており、多くの学生が発表している（資料B－１－①－18）。

６．科学技術に関する地域イベントに参加する。

久留米は「東洋のエジソン」こと田中久重の出身地であり、平成２３年の天領日田資料館「筑後軌道展」や、平成２５年度の久留米市「からくり儀右衛門展」など、久留米に因んだ地域イベントや、毎年１１月に開催されている久留米市生涯学習支援センターの「マナビィランド」に全学科が参加する

など、子供の科学への関心を高めるイベントなどに積極的に関わっている。

7. 久留米市民大学講座、地元小中学校への理科教育、教員研修への出張講義を行う。

平成 21 年 12 月からは「高等教育コンソーシアム久留米」が設立され、「共同講義」、「市民公開講座」、「かんきょうカレッジ」を行っている（資料 B-1-②-8）。

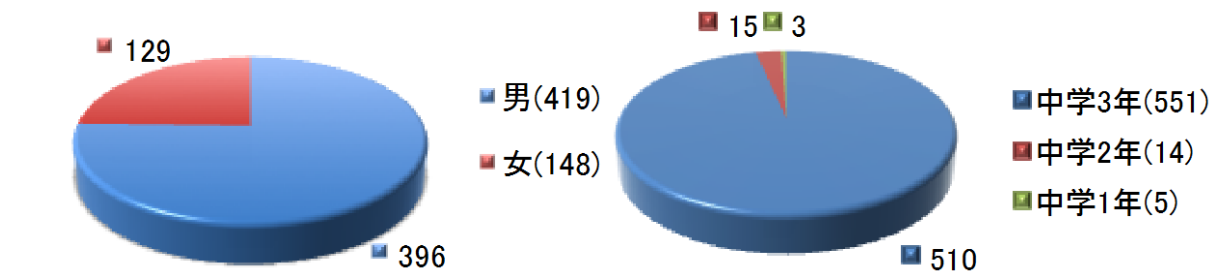
（分析結果とその根拠理由） 実施した活動に対してアンケートを実施し、参加者の意見をまとめている。この結果を集計、分析することにより、担当委員会で議論を行い、次年度以降の企画や実施内容などに活用しており、改善システムが機能している。

資料 B-1-②-1

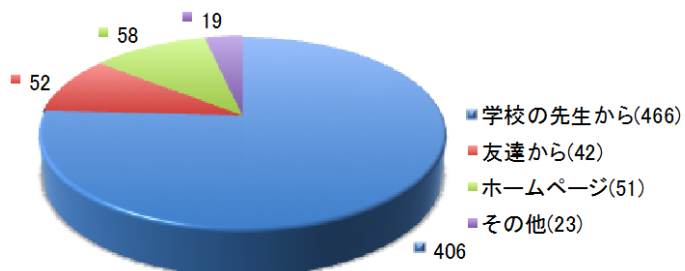
平成 24 年度久留米高専一日体験入学 アンケート集計結果

凡例の（ ）内は 23 年度の数字

学年と性別

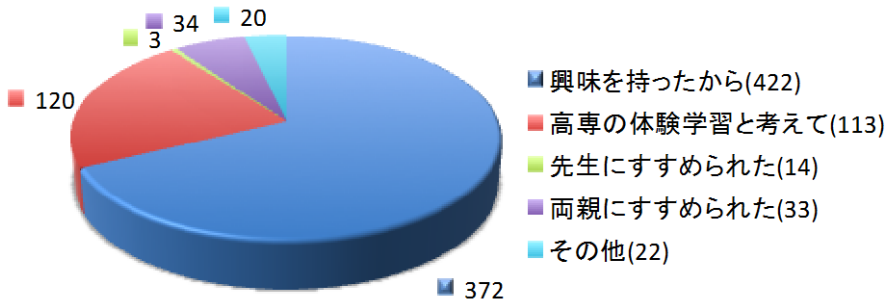


1. 一日体験入学の開催を何で知りましたか。



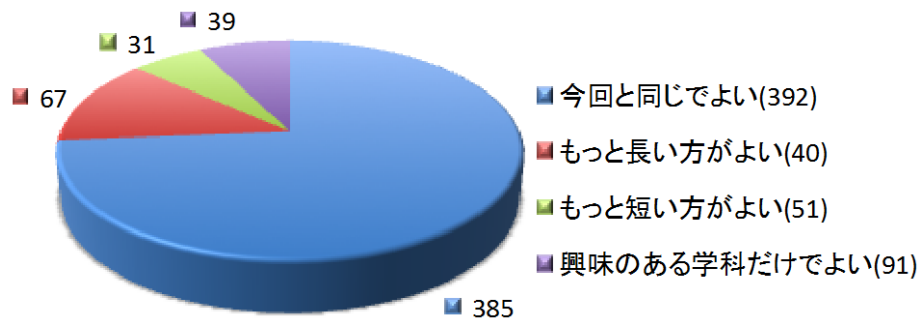
その他： 家族、高専の先輩、学校の掲示板、パンフレット、中学校の掲示等、学校で配付された資料、久留米高専を訪問したとき、昨年の文化祭に行ったとき

2. 一日体験入学を受講した動機について



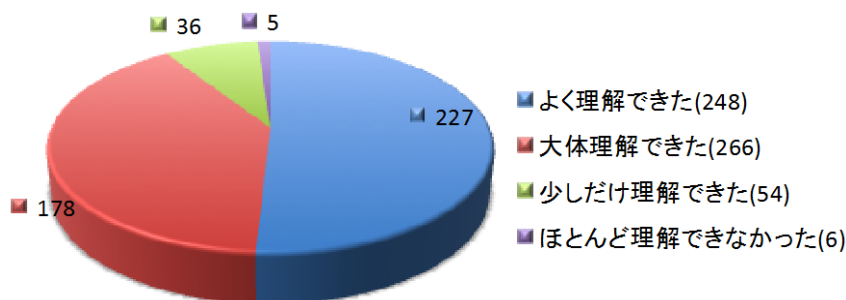
その他：友達に誘われた、友達に勧められた、兄から勧められた、志望しているから、高専をもっと知りたかったから、興味を持ったから、昔から行きたかったから、友達が行くから行こうと思った

3. 一日体験入学の授業時間について

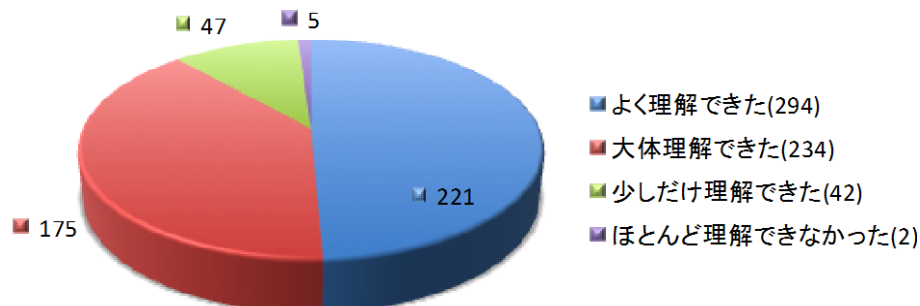


4. 一日体験入学で各コースの授業内容を理解できましたか。

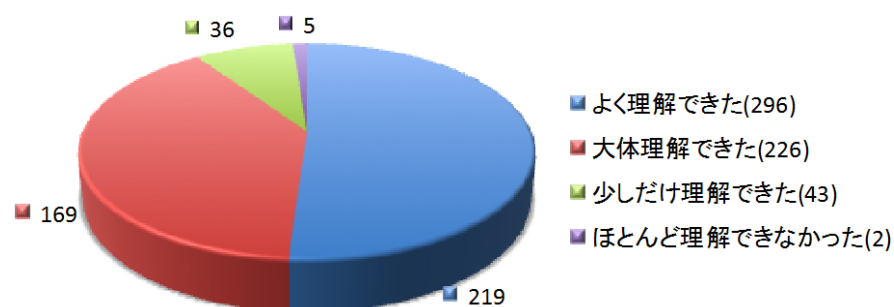
機械工学科



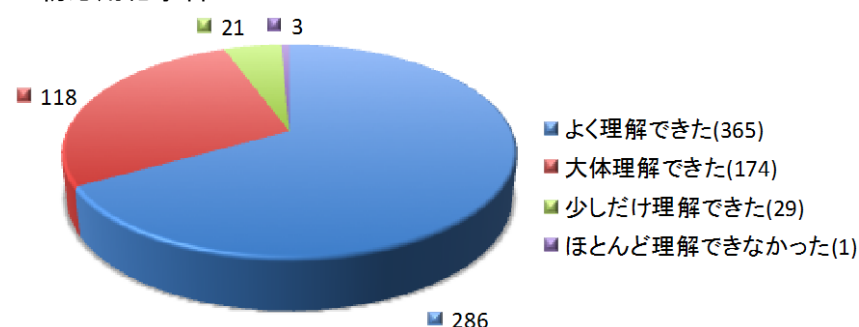
電気電子工学科



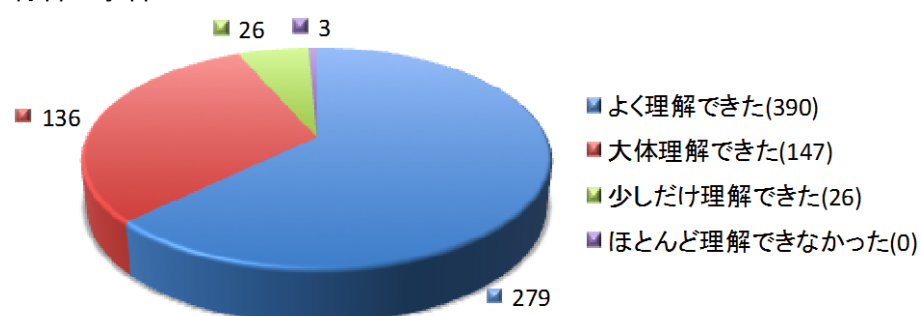
制御情報工学科



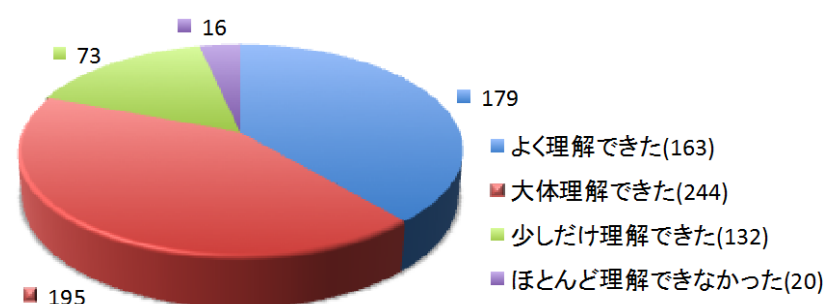
生物応用化学科



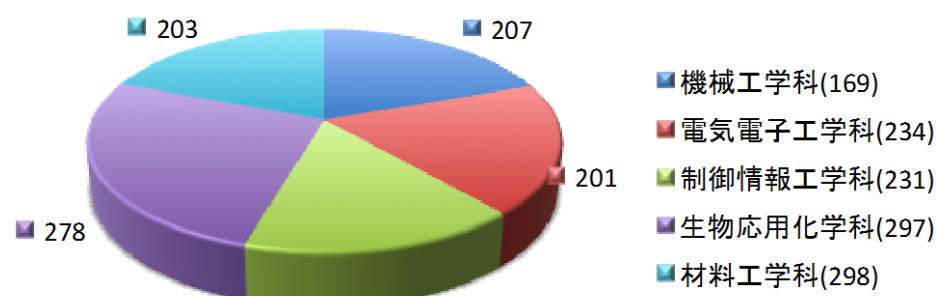
材料工学科



一般（昨年度のデータは、文・理の合計）



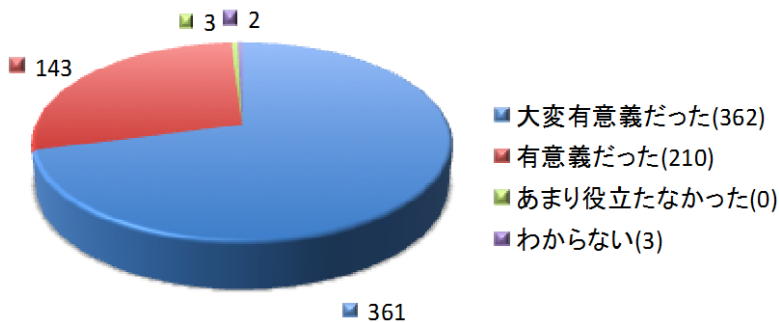
5. どの学科に興味を持ちましたか。（複数回答可）



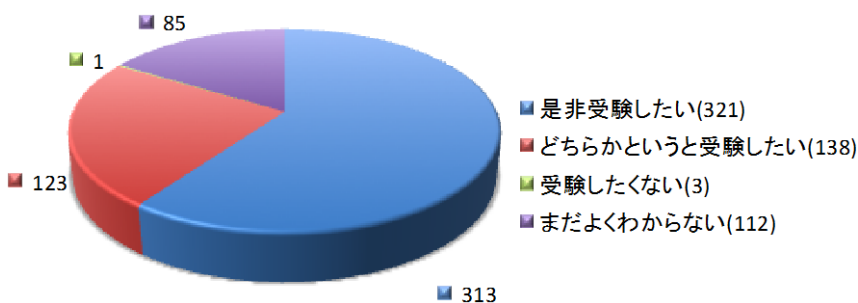
6. 一般の授業の感想

6 ページ以降に掲載。

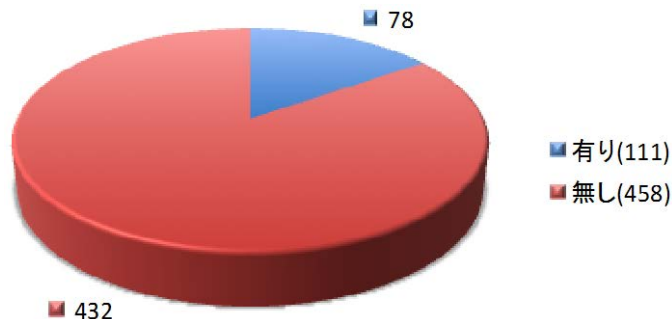
7. 一日体験入学の内容について



8. 一日体験入学に参加して久留米高専を受験しようと思いましたか。



9. 一日体験入学で他にやってほしいことがありますか。



(その他)

過去3年間の傾向を調べたところ、5ページの表1に示すような結果となった。参加総数が年によって異なるので、アンケートの各項目を参加総数に対するパーセンテージで表示した欄に注目していただきたい。

気になるのは、「よく理解できた」、「だいたい理解できた」の項目が年を追うごとに減少している全体的な傾向が見られることである。体験授業の内容は、この3年間ほぼ同じ学科や、毎年改善している学科など、様々な対応を取っていると思われるが、その対応の効果よりも、中学生の学力（あるいは気力？）に依存していると思われる理解度が低下している点には留意が必要だろうと思われる。また、体験入学への参加理由が、「興味を持ったから」という参加者も漸減しており、主体的に参加を希望している中学生が減少している傾向が見て取れる。

一方、ホームページを見て参加を決めている中学生は徐々に増えており、ホームページの充実はそれなりの効果が期待できる。さらに、体験入学の授業時間に対する不平はあまり見られない傾向は変わりなく、体験入学を通して「是非受験したい」という中学生は、着実に増えている傾向も伺える。

以上のことから判断すると、体験入学というスタイルは保ったまま、授業内容について、より中学生の理解度が深まるような改善と、ホームページの充実が求められている、ということになるであろう。

(出典：一日体験入学反省会資料)

資料B-1-②-2

大学講義の受講者数

*平成24年度 単位互換制度による公開科目数

	前期	後期
久留米大学		
久留米工業大学	82	68
久留米信愛女学院短期大学	5	4
聖マリア学院大学		
久留米工業高等専門学校	27	21
合 計	114	93

*単位互換履修状況
平成24年度前期

派遣元	派遣先	久留米大学	久留米工業大学	久留米信愛女学院短期大学	聖マリア学院大学	久留米工業高等専門学校	合計
久留米大学			10	32			42
久留米工業大学				1			1
久留米信愛女学院短期大学	0	0			0	0	0
聖マリア学院大学				0			0
久留米工業高等専門学校	12	0	0	0	0		12
合 計		12	10	33	0	0	55

平成24年度後期

派遣元	派遣先	久留米大学	久留米工業大学	久留米信愛女学院短期大学	聖マリア学院大学	久留米工業高等専門学校	合計
久留米大学			12	2			14
久留米工業大学	3			0	1		4
久留米信愛女学院短期大学	0	0			0	0	0
聖マリア学院大学				0			0
久留米工業高等専門学校	5	0	0	0	0		5
合 計		8	12	2	1	0	23

(出典：高等教育コンソーシアム久留米 H25年第2回運営委員会資料)

資料B-1-②-3

サマーレクチャーの受講者数

資料B-1-①-9

サマーレクチャーのテーマ・担当学科一覧

年度	開催校	期間	テーマ	担当学科	本校参加者	他高専参加者
24	久留米高専	8/6-8/10	マルチメディア表現と技術	制御情報工学科	10名	1名
23	久留米高専	8/22-8/26	ものづくりの現場から	機械工学科	15名	2名
	熊本高専 八代キャンパス	9/5-9/9	パソコンを利用した計測制御システム		0名	
22	久留米高専	7/26-7/30	最新の計測技術とセンシング応用	電気電子工学科	14名	0名
21	久留米高専	8/17-8/21	専攻科生に求められるバイオテクノロジーファンダメンタルズ	生物応用化学科	18名	6名
	久留米高専	8/3-8/7	低環境負荷社会実現に向けてのアルミニウムの利用技術	材料工学科	12名	0名
	八代高専	8/10-8/14	第2回 初級英語学習者のためのTOEIC 講座		3名	
20	八代高専	8/18-8/22	バイオテクノロジーと生物資源の有効利用		2名	
	有明高専	8/18-8/22	レーザとその応用特講		2名	
	久留米高専	8/4-8/8	光・エネルギー・環境関連材料の最前線	材料工学科	10名	0名

(出典：テクノネット久留米（総務課企画情報係）)

(出典：学生課教務係資料)

資料B－１－②－４

平成２４年度ゴム加工技術者人材育成事業 アンケート結果

【受講企業アンケート結果】

カリキュラムの内容は貴社の人材育成ニーズに対応していましたか？

職員の技術・技能の取得や知識の向上に役立ったと思いますか？についての回答結果を図１、図２に示す。

図１ 貴社の人材育成ニーズに対応していましたか？

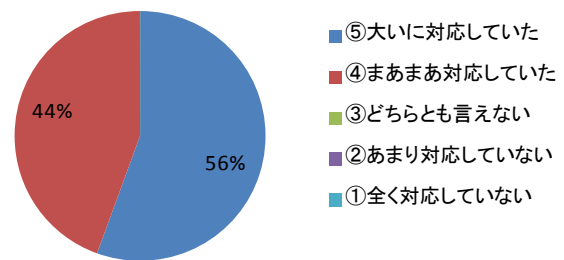
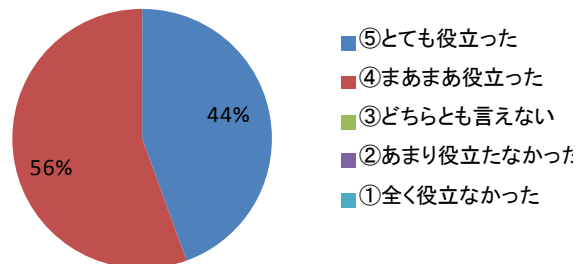
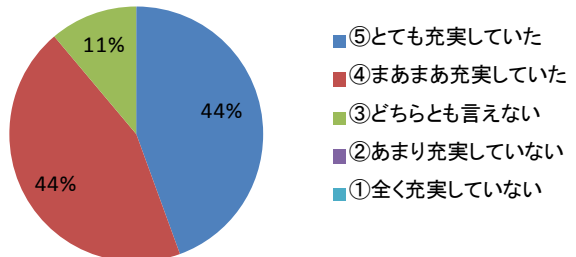


図２ 職員の技術・技能の取得や知識の向上に役立ったか？



また、カリキュラムの充実度について、座学はどうでしたか？についての回答結果を図３に示す。

図３ カリキュラムの充実度はどうでしたか？



次に、職員がこの事業で学んだ内容が実際の現場で活かそうですか？この事業の必要性を感じますか？この事業を総合的に判断して満足していますか？についての回答結果を図４、図５、図６に示す。

図４ 社員がこの事業で学んだ内容が実際の現場で活かそうですか？

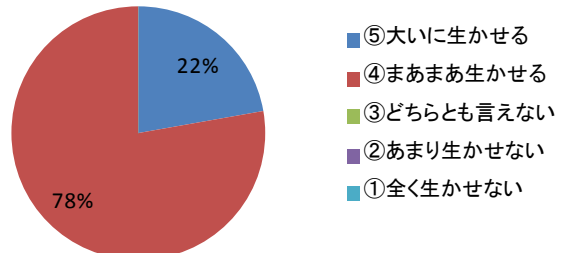


図5 この事業の必要性を感じますか？

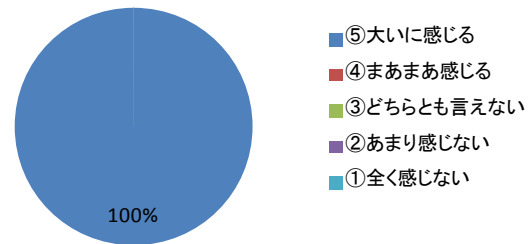
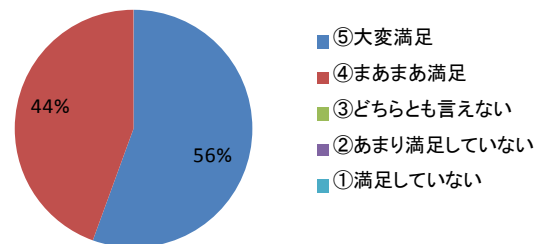


図6 この事業を総合的に判断して満足していますか？



【受講者アンケート結果】

この事業が技術・技能の取得や知識の向上に役立ちましたか？この事業で学んだ内容が実際の現場で生かせそうですか？についての回答結果を図7、図8に示す

図7 この事業が技術・技能の取得や知識の向上に役立ちましたか？

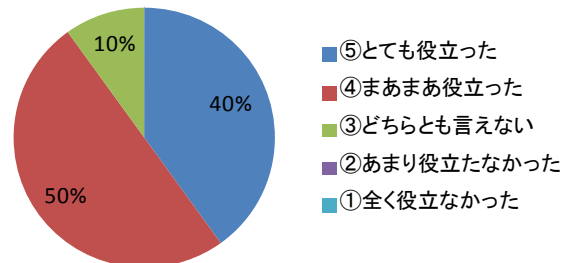
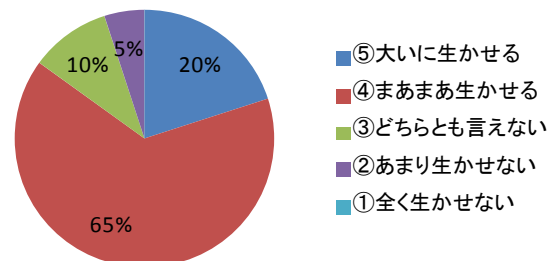
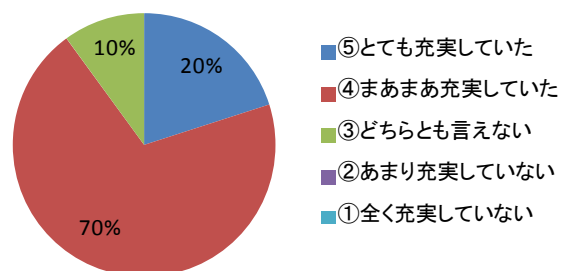
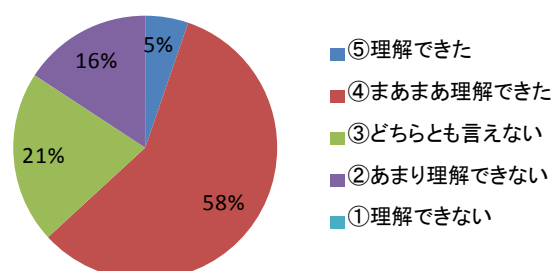


図8 この事業で学んだ内容が実際の現場で生かせそうですか？



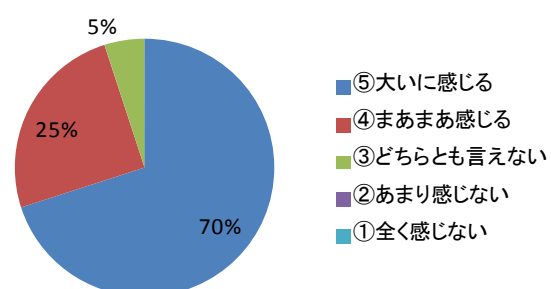
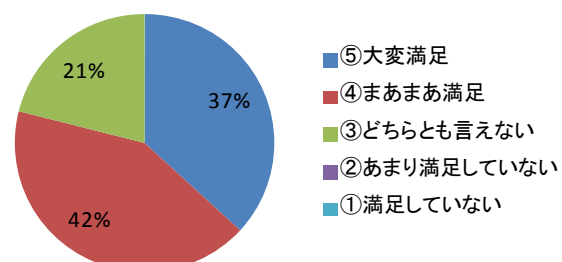
また、カリキュラムの充実度、及び、カリキュラムの理解度についての回答結果を図9、図10に示す。

図9 カリキュラムの充実度はどう
でしたか？図10 カリキュラムの理解度はどう
でしたか？

この事業の必要性を感じますか？

この事業を総合的に判断して満足していますか？についての回答結果を図11、図12、に示す。

図11 この事業の必要性を感じますか？

図12 この事業を総合的に判断して満足
していますか？

受講企業及び受講者に対して実施した、講座受講後の受講者の変化や、受講がきっかけとなり新たに生じた取引等に関するアンケート調査結果（受講後2～4ヶ月後）

【受講企業】

- ・業務への意識に向上が見られる。学んだことや考え方を応用して業務を進めようとするようになった。
- ・研究・商品開発業務を担当している社員に受講させたが、中小企業単独では教育が難しい専門知識の習得と製品への応用のための能力確立に役立った。
- ・ユーザーとの対話のベースとなる技術的な知識が高まり、（ユーザーからの）信頼性が向上した。
- ・社内では習得できない知識や情報を得ることにより、業務に対する自信と積極性が増しているようだ。

【受講者】

- ・講座で学んだことをベースにして、様々な視点から材料開発を行えるようになった。
- ・経験則だけでなく、トラブルなど様々な現象に関する原因（要因）を理論的に考え、また、文献なども調べるようになった。
- ・問題解決時の切り口、考え方がより具体的にテクニカルになったと感じる。
- ・講座で得た内容を自社に应用するため、その内容を受講後にさらに詳しく調べて知識が高まった。
- ・講座内容が自社の劣化トラブルに関する見解書の作成に役立った。
- ・講座で学んだ寿命予測に関する理論を用いて、自社製品の寿命を確認中である。
- ・製品寿命を考慮したものづくりができるようになった。
- ・平成23年度に受講した発泡剤に関する技術が新製品開発に活用できそうだ。
- ・このように良い講習をしていただいているので、得た知識を少しでも社会に還元できるよう頑張りたいと感じている。

【今後取り上げて欲しい講義等】

- ・用途別ゴム配合（設計）の考え方。
- ・接着の概念から、実際、難接着といわれているものの接着について。
- ・フィラー（カーボン、ホワイトカーボンを除く）の使い方。
- ・他の原料メーカー（架橋剤、添加剤等）の講座。
- ・ゴム配合の基礎からの組立て。
- ・ラテックスに関する内容。
- ・もう少し現場に合わせた目線での講義やトピック的なもの（新技術、材料の紹介など）が増えると興味が大きくなると思います。
- ・モチベーションを上げる為の講座。
- ・学術的な分野でレオロジーやトライボロジーに関する事。
- ・ゴムの性状、特性の分析。トラブルの原因と解決手段。
- ・新規素材（ゴム・エラストマー関連）の情報や紹介。
- ・人材育成事業の開催に大変感謝しております。特に講義内容で追加をお願いしたいものは思いつきませんが、目新しい部分も入れながらこの事業の継続をお願いします。

（出典：久留米リサーチパーク・ゴム加工技術者人材育成委員会資料）

資料B－1－②－5（1／3）

3D-CAD 公開講座 参加者アンケート 回答 6

このたびは、3D-CAD 公開講座を受講していただきありがとうございました。多々至らない点があったと思いますがご容赦下さい。なお、今後の参考とさせていただきたいので、是非ともアンケートにお答えください。以下の項目で該当するものに☑を入れてください。また忌憚の無いご意見もよろしくお願いします。

1) 今回の 3D-CAD 公開講座の企画や内容は有意義でしたか？

(5)かなり有意義だった (1)有意義だった □あまり有意義でなかった □有意義でなかった

2) 講座内容について御意見をお聞かせ下さい。

2-1) 演習の題材としては、歯車ポンプは適切でしたか？

(3)とても適切だった (3)適切だった □適切でなかった。

⇒どういった内容が良いかを下お聞かせ下さい

2-2) CAD 講座 1 において、演習の進め方や説明の仕方は、適切でしたか？

(3)とても適切だった (3)適切だった □適切でなかった。

⇒どういった点が適切でなかったかをお聞かせ下さい。

2-3) CAD 講座 2 において、演習の進め方や説明の仕方は、適切でしたか？

(3)とても適切だった (3)適切だった □適切でなかった。

⇒どういった点が適切でなかったかをお聞かせ下さい

2-4) CAD 講座 3 において、演習の進め方や説明の仕方は、適切でしたか？

(3)とても適切だった (3)適切だった □適切でなかった。

⇒どういった点が適切でなかったかをお聞かせ下さい

2-5) CAD 講座 4 において、演習の進め方や説明の仕方は、適切でしたか？

(3)とても適切だった (3)適切だった □適切でなかった。

⇒どういった点が適切でなかったかをお聞かせ下さい。

3) 次回の 3D-CAD 公開講座の内容について、御希望の内容がありましたら以下にお答え下さい。

・色々操作があるので、慣れないといけないと思った。また、有限要素法で鋼材をやったが、社内ではゴムを使っていたのでゴムを使いたかった。

4) 今回の 3D-CAD 公開講座のテキストの内容についてお伺いします。

4-1) テキストの説明には満足して頂けましたか？

(4)とても満足した (2)満足した ☐満足できなかった

⇒どういった内容が満足できなかったかお聞かせ下さい

4-2) テキストの図の配置や構成には満足して頂けましたか？

(3)とても満足した (3)満足した ☐満足できなかった

⇒どういった内容が満足できなかったかお聞かせ下さい

4-3) モデリング，組立，図面作成，CAE 解析というテキストの流れは適切でしたか？

(2)とても適切だった (4)適切だった ☐適切でなかった。

⇒どういった構成にすべきかをお聞かせ下さい

4-4) 細かなコマンド説明やテクニック等，テキストで取り上げて説明したらよい点がありましたら教えて下さい。

・斜めのカット

・色々あるので、これで今のところ十分だと思った。

5) 3D-CAD/CAE 以外で，公開講座の内容として取り上げてほしい課題があれば教えて下さい。

・実例をもとにした解析方法（加重や固定）を見せる講座があると受けてみたい

6) 現在久留米高専 機械工学科では，3D-CAD/CAE を中心とした地域貢献活動に力を入れていますが，今後，3D-CAD 以外に行ってほしい課題，技術セミナー等がありましたらお聞かせ下さい。また，なんでも結構ですのでご意見等ありましたらお聞かせください。

・現在の CAD のすごさを体験できました。ありがとうございました。

(出典：機械工学科)

資料B－1－②－5（2／3）

3D-CAD/CAE 公開講座 アンケート 結果

このたびは、3D-CAD/CAE 公開講座を受講していただきありがとうございました。今後の参考とさせていただきますので、以下のアンケートにお答えくだされば深甚です。各項目で該当するものに☑を入れてください。また、忌憚の無いご意見もよろしくお願いします。 **回答数 8 (受講者数8 内1名1日目のみ出席, 2日目代理)**

1) 今回 3D-CAD/CAE 公開講座の企画や内容について、全体を通して有意義でしたか？

☐かなり有意義だった ☐有意義だった ☐あまり有意義でなかった ☐有意義でなかった

2

6

2) 1 日目の講座内容(材料力学の基礎, 構造解析)について御意見をお聞かせ下さい。

2-1) 構造解析基礎講座において、講義の内容や説明の仕方は、適切でしたか？

☐とても適切だった ☐適切だった ☐適切でなかった ⇒ どのような点が適切でなかったかをお聞かせ下さい。

2

5

1

・ 1 日目を受講できなかったため

2-2) CAE 講座(SolidWorks Simulation)において、講義の内容や説明の仕方は、適切でしたか？

☐とても適切だった ☐適切だった ☐適切でなかった ⇒ どのような点が適切でなかったかをお聞かせ下さい。

2

4

2

・ 同上な理由の為(・ 1 日目を受講できなかったため)

・ CAE では条件設定, メッシュ作成が重要となるため, そこに重点を置いていただけると良かったかと思います。

2-3) CAE 講座 (Marc/Mentat)において、演習の進め方や説明の仕方は、適切でしたか？

☐とても適切だった ☐適切だった ☐適切でなかった ⇒ どのような点が適切でなかったかをお聞かせ下さい。

2

2

4

・ ソフトの使い方の説明になっていたの、本質的なことを説明して欲しかった。

・ 同上の理由の為(・ 1 日目を受講できなかったため)

・ 解析ソフトの操作方法がメインとなっていた。

・ Marc/Mentat のソフトを使用することはないため、実際に動かすよりも紹介程度でよかった。

3) 2 日目の講座内容(熱流体の基礎・解析, 振動の基礎・解析, 機構解析)について御意見をお聞かせ下さい。

3-1) 熱流体工学基礎講座において、講義の内容や説明の仕方は、適切でしたか？

☐とても適切だった ☐適切だった ☐適切でなかった⇒ どのような点が適切でなかったかをお聞かせ下さい。

2

5

1

・ 熱流体の時間をもう少し長くっていただけると良かったかと思います。

・ よく知らない内容だったので、分かっているものとして早すぎる説明だった。

3-2) 流体解析 (FlowSimulation)において、講義内容・説明は、適切でしたか？

☐とても適切だった ☐適切だった ☐適切でなかった。

3

5

3-3) 熱解析 (FlowSimultaion)において、講義内容・説明は、適切でしたか？

☐とても適切だった ☐適切だった ☐適切でなかった。⇒どういった点が適切でなかったかをお聞かせ下さい。

3

5

・実際に触るということでは良かったが、条件設定を重視していただきなかった。

3・4) 振動解析(SolidWorks Simulation)において、講義内容・説明は、適切でしたか？

☐とても適切だった ☐適切だった ☐適切でなかった。⇒どういった点が適切でなかったかをお聞かせ下さい。

5

3

3・5) 機構解析(Motion Simultaion)において、講義内容・説明は、適切でしたか？

☐とても適切だった ☐適切だった ☐適切でなかった。⇒どういった点が適切でなかったかをお聞かせ下さい。

1

5

2

・テキストの説明が明確でなく、一人で進めることができなかった。

・ソフト操作がメインとなっていた

5) テキストの内容についてお伺いします。

5・1) テキストの説明には満足して頂けましたか？

(全体を通して、各項目を通して、いずれでお答え頂いて結構です)

☐とても満足した ☐満足した ☐満足できなかった ⇒どういった内容が満足できなかったかお聞かせ下さい。

2

6

5・2) テキストの図の配置や構成には満足して頂けましたか？

☐とても満足した ☐満足した ☐満足できなかった ⇒どういった内容が満足できなかったかお聞かせ下さい。

3

5

5・3) コマンド・テクニック等、テキストで取り上げて説明したら良い点等がありましたら教えてください。

・充実した内容であったため、特にありません

・ポイントを各項の最初にまとめてもらえると理解し易いと思われます。

・メッシュ分割による解析結果の違いは分かり易く良かった。

6) 3D-CAD/CAE 公開講座の内容について、御希望の内容がありましたらお答え下さい。

・計算式についてももう少し分かりやすくしてほしい。

・ソリッドワークスでの非線形解析をしてほしい

7) 久留米高専 機械工学科では、3D-CAD/CAE を中心とした地域貢献活動に力を入れています。今後、3D-CAD 以外に行ってほしい課題、技術セミナー等がありましたらお聞かせ下さい。また、なんでも結構ですのでご意見等ありましたらお聞かせください。

・各力学について深い講座を開いてほしい。

・CAE を用いる際に知識が必要なところ(理論、座学)の説明があつて良かった。

・業務の中で今回ご教授頂いた CAE の内容で相談させて頂くことがあるかと思しますので、その際はよろしくお願ひ致します。

・ぜひ、このような講義を続けて開講して行って下さい。

(出典：機械工学科)

資料B－1－②－5（3／3）

公開講座 公差設計に関する講習会 参加者アンケート 回答5

このたびは、3D-CAD 公開講座(公差設計に関する講習会)を受講していただきありがとうございました。多々至らない点があったと思いますがご容赦下さい。なお、今後の参考とさせていただきたいので、以下の項目であてはまるものに☑を入れてください。よろしくお願いします。

1) 今回の公開講座の企画や内容は有意義でしたか？

☐かなり有意義だった **(4)**有意義だった ☐あまり有意義でなかった ☐有意義でなかった

2) 講座内容について御意見をお聞かせ下さい。

2-1) 公差設計基礎講座の内容は適切でしたか？

☐とても適切だった **(5)**適切だった ☐適切でなかった。

⇒どういった内容が良いかを下お聞かせ下さい

- ・ 仕事上、普段統計学を用いることがないが、説明や実習を通して、仕事に役立てられそうなのが発見できた。
- ・ 講義の中に演習を入れながら説明いただければ短時間でも理解しやすいと思います。

2-2) 手計算による公差解析演習の進め方や説明の仕方は、適切でしたか？

(1)とても適切だった **(4)**適切だった ☐適切でなかった。

⇒どういった点が適切でなかったかをお聞かせ下さい。

- ・ ホワイトボードとスライドを使って説明いただき、わかりやすかったです。

2-3) パソコンを用いた公差解析演習の進め方や説明の仕方は、適切でしたか？

(1)とても適切だった **(4)**適切だった ☐適切でなかった。

⇒どういった点が適切でなかったかをお聞かせ下さい

3) 今回の公開講座のテキストの内容についてお伺いします。

3-1) テキストの説明には満足して頂けましたか？

☐とても満足した **(5)**満足した ☐満足できなかった

⇒どういった内容が満足できなかったかお聞かせ下さい

- ・ 講義の中に演習を入れながら説明いただければ短時間でも理解しやすいと思います。

3-2) テキストの図の配置や構成には満足して頂けましたか？

(1)とても満足した **(4)**満足した ☐満足できなかった

⇒どういった内容が満足できなかったかお聞かせ下さい

- ・ 後で見直しやすく、満足しています。

3-3) 細かな説明等, テキストで取り上げて説明したらよい点がありましたら教えてください.

- ・製品に近いような具体例.
- ・ベアリング以外での製品などでも公差を説明してもらえれば…
- ・より具体的な例があれば, よりイメージしやすいと思います.

5) 公差設計の基礎・演習以外で, 公開講座の内容として取り上げてほしい課題があれば教えてください.

- ・幾何公差設計と幾何公差計測.
- ・材料の基礎・計算.
- ・SolidWorks を用いた強度解析・シミュレーションなど.

6) 現在久留米高専 機械工学科では, 3D-CAD/CAE を中心とした地域貢献活動に力を入れていますが, 今後, 3D-CAD 以外に行ってほしい課題, 技術セミナー等がありましたらお聞かせ下さい. また, その他なんでも結構ですのでご意見等ありましたら是非お聞かせください.

- ・FME ソフトの操作法ではなく, 利用する上でのノウハウ (たとえば特異点の判断など) .
- ・プログラミング (G コード, Fortran など) .
- ・マシニング加工について.
- ・新しい技術の紹介, 情報提供など.

本日は貴重なお時間を頂き, ありがとうございました.

(出典: 機械工学科)

第18回九州沖縄地区高専フォーラム

テーマ：久留米高専のアクションプラン
～地域産業と市民との連携～



(出典：第18回高専フォーラム実行委員会資料)

資料B-1-②-7

高等教育コンソーシアム久留米 事業概要報告(平成24年度)

(場所:くるめりあ六ツ門サテライトキャンパス)

- 4月 地域人材育成 土曜講座
 8月 夏休み小学生と大学生のふれあい教室(8/21~8/26 全3回)
 英語ワークショップ ~楽しく効果的に教えるには(8/25)
 9月 若者と地元経営者との交流会
 10月 久留米市内5大学等連携による 市民公開講座(10/6~11/17 全5回)
 くるめかんきょうカレッジ ~学んで つなげよう わたしたちのエコライフ (10/27~1/12 全4回)
 共同講義 テーマ「久留米の生活と環境」(10/9~12/21 全15回)
 11月 学生展示会(10/25~28)
 アカデミックカフェ(11/6~1/23 全9回)
 ・九州王朝と久留米(11/6~11/27 全4回)
 ・世界を見る目を養う(12/5~12/26 全4回)
 ・筑後川の歴史を民謡で語る(1/23)
 12月 就職支援セミナー・面接対策(12月~3月全8回)
 2月 世界一行きたい科学広場 in 久留米 2013 (於:福岡県青少年科学館)
 3月 春の企画展「わくわく! からだ大冒険」(於:福岡県青少年科学館)

10月

久留米市内5大学等連携による 市民公開講座(10/6~11/17 全5回)



連携校が協力し、『誰もがいきいきと暮らす「健康くるめ」をめざして』をさまざまな分野から講演を行った。



くるめかんきょうカレッジ ~学んで つなげよう わたしたちのエコライフ (10/27~1/12 全4回)



久留米市と連携校の協力により、環境をテーマに講義を開催。環境に対して今、私たちに何が出来るのかを市民と教育機関、行政とが一体となって考え、「環境に配慮したまちづくり」を目指すことを目的に行った。



共同講義 テーマ「久留米の生活と環境」(10/9~12/21 全15回)



久留米市及び、連携校の多数の科目が公開されており「久留米の生活と環境」をテーマにさまざまな視点から学ぶ機会の提供を行った。今年度より市民公開講座とし、多数の受講者が参加。



(出典: 高等教育コンソーシアム久留米 H25年第2回運営委員会資料)

（２）優れた点及び改善を要する点

（優れた点） 小中高校生や大学生、他高専生、他高専教職員、地元技術者・教員及び一般市民など、多彩な対象者に対して、幅広い内容及び形態の教育サービスを毎年実施している。

１．中学生を対象とした久留米高専オープンキャンパス（一日体験入学）を実施し、中学生が本校に一層興味をもてるように改善していく。

本校独自の１日体験入学によるオープンキャンパスはより多くの中学生に対して、本校での教育研究内容の広報・周知を可能としている。

２．大学等との単位互換制度を推進する。

久留米市の単位互換協定校では、久留米大学と並び多くの受講生が他大学の講義を受講している。また高等教育コンソーシアム久留米における共同講義や市民講座、かんきょうカレッジなど、本校専攻科の単位対象となる外部講座に積極的に参加している。

３．九州沖縄地区高専の専攻科学生を対象としたサマーレクチャーを実施する。

平成20年度以降、九州・沖縄地区高専のサマーレクチャーでは、毎年講座科目を設定し積極的に他高専専攻科の学生を受け入れている。

４．地元企業や市民を対象とした公開講座を実施する。

本校での伝統ある歯車加工人材育成講座やゴム加工技術者育成講座は、形を少しずつ変えながら、継続して開催しており、受講者からの信頼を得ている。3次元CAD講座や腐食防食講座などの講座も、経年での実績を積んできており、例年での開催を行っている。

５．地元企業や他高専とのフォーラム、シンポジウムを開催する。

平成３年に本校から始まった九州地区高専フォーラムや、平成７年に久留米を最初の開催地として始まった全国高専シンポジウムなど、学生教育の発表の場として、また企業との共同研究の発表の場として、他高専を主導してきた。平成24年に再スタートしたテクノネット久留米での企業との交流を目指す活動など、地域の企業との連携の強化を図る活動を積極的に推進している。

６．科学技術に関する地域イベントに参加する。

東芝創始者である田中久重の出身地である久留米に因んだ地域イベントや、子供の科学への関心を高めるイベントなど、多彩な地域活動に積極的に参加している。

７．久留米市民大学講座、地元小中学校への理科教育、教員研修への出張講義を行う。

久留米市民講座などの生涯学習、ＳＰＰ事業や高等教育コンソーシアム久留米の小中高連携事業など、本校の知的資産の活用・地域への知的貢献を推進している。また、蔵書の貸し出しを含めた図書館の一般市民への開放など施設面でも地域に対してサービスを提供している。それらの試みに対しアンケートの収集及び検討など改善のためのシステムが機能している。

（改善を要する点）

本校では、正規課程の学生以外の教育を積極的に推進しているが、一部教職員へ労務負担が偏ることがあるため、校内での改善活動において負担の平準化を配慮しているが、十分に機能しきれていない面もある。今後、継続的に改善を図ってゆく。

（３）選択的評価事項Bの自己評価の概要（1000字）

本校では、正規課程の学生以外に対する教育サービスが計画的及び積極的に実施されている。その内容、対象者は多岐に渡り、本校の教育研究の成果及び資産が広く社会に還元されている。

正規課程以外の学生の科目履修については、科目の履修のための科目履修生などの制度や、久留米市大学等单位互換制度及び九州高専専攻科サマーレクチャーなどの活動を通して教育サービスを行っている。平成 22 年度からは、前年度に設立した高等教育コンソーシアム久留米が主体となり、市内 5 大学高専の単位互換対象となる共同講義、市民公開講座、かんきょうカレッジなどの講座が企画・実行され、受講学生の多様な学習機会の創出に寄与している。また九州高専専攻科のサマーレクチャーは、毎年継続して積極的に開催していることは特筆できる。

また地域に開かれた学校として、小中高校生、一般市民、地元教員などを対象に出前授業や 1 日体験入学、公開講座を開催し、参加者からの高い評価を得ている。

地域企業の技術者に対しては、技術セミナーやフォーラム及び様々な公開講座、などを実施することにより、継続的な技術高専・地域貢献を行っている。特に人材育成事業の点からは、本校での伝統ある「歯車加工人材育成」「ゴム加工技術者人材育成」に加え、「3 次元 CAD 関連講座」や「腐食防食講座」など、地域のニーズに合わせた講座も継続的に開催しており、地域における多様な人材育成教育に貢献している。

図書館及びテクノセンターの一般市民への開放や、各種会合・イベントなどに対する本校施設の提供により、施設面においても貢献を行っている。平成 22 年度にテクノセンター棟が新設され、平成 24 年度には旧図書館に総合情報センターを併設した新しい図書館が開館し、本校の知的資産を学生のみならず地域住民に開放する環境は漸次改善されてきている。

これらの講座やセミナーの参加者から寄せられたアンケートなどに対しては担当委員会などにおいて集計・検討がされ、次年度以降の企画・実施に活かされており、改善システムが機能している。

以上のように久留米高専では、本校の持つ教員・設備を有効に活用した多様な教育機会の創出に尽力しており、毎年その効果が上がっている。また新たな教育サービスのために、施設設備の重点的な整備も進め、正規課程以外の生徒や学生、地域の市民に対する教育サービスの恒常的な改善を図りながら運営を行っている。

（４）目的の達成状況の判断

目的の達成状況は良好である。